

# 【令和7年度】英語教育に関する調査研究 (英語力に関する調査分析)

---

# 目次

効果量及び度数分布の記述内容について	p.4
--------------------	-----

## 1. 高校

1.1 高校の母集団について	p.5
----------------	-----

1.2 高校の全体傾向	p.8
-------------	-----

### 1.3 高校1年生

1.3.1 高1経年比較 4技能総合	p.9
--------------------	-----

1.3.2 高1経年比較 4技能別の傾向	p.10
----------------------	------

### 1.4 高校2年生

1.4.1 高2経年比較 4技能総合	p.13
--------------------	------

1.4.2 高2経年比較 4技能別の傾向	p.14
----------------------	------

### 1.5 高校3年生

1.5.1 高3経年比較 4技能総合	p.17
--------------------	------

1.5.2 高3経年比較 4技能別の傾向	p.18
----------------------	------

1.6 英語学習調査（単年度）	p.21
-----------------	------

1.7 英語学習調査（経年比較）	p.45
------------------	------

1.8 高校 付録	p.92
-----------	------

1.8.1 高1 技能別スコア 経年比較	p.93
----------------------	------

1.8.2 高1 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.94
--------------------------------	------

1.8.3 高2 技能別スコア 経年比較	p.95
----------------------	------

1.8.4 高2 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.96
--------------------------------	------

1.8.5 高3 技能別スコア 経年比較	p.97
----------------------	------

1.8.6 高3 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.98
--------------------------------	------

# 目次

## 2. 中学校

2.1 中学校の母集団について ..... p.99

2.2 中学校の全体傾向 ..... p.102

### 2.3 中学1年生

2.3.1 中1 経年比較 4 技能総合 ..... p.103

2.3.2 中1 経年比較 4 技能別の傾向 ..... p.104

### 2.4 中学2年生

2.4.1 中2 経年比較 4 技能総合 ..... p.107

2.4.2 中2 経年比較 4 技能別の傾向 ..... p.108

### 2.5 中学3年生

2.5.1 中3 経年比較 4 技能総合 ..... p.111

2.5.2 中3 経年比較 4 技能別の傾向 ..... p.112

2.6 中学校 付録 ..... p.115

2.6.1 中1 技能別スコア 経年比較 ..... p.116

2.6.2 中1 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較 ..... p.117

2.6.3 中2 技能別スコア 経年比較 ..... p.118

2.6.4 中2 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較 ..... p.119

2.6.5 中3 技能別スコア 経年比較 ..... p.120

2.6.6 中3 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較 ..... p.121

3. 参考資料 ..... p.122

# 効果量及び度数分布の記述内容について

## 1. 効果量について

経年変化の大きさを解釈するために**効果量 (Effect Size)** を使用した。具体的には、3 時点 (R 1 年度・R 3 年度・R 6 年度) における平均スコアの差の実質的な大きさを捉えるために、分散分析を通じて得られる  $\eta^2$  を使用した。計算方法は以下の通りである。

$$\eta^2 = \frac{SS_{effect}}{SS_{total}}$$

ここで、 $SS_{total} = SS_{effect} + SS_{error}$  であり、  
 $SS_{total}$  は全体平方和、  
 $SS_{effect}$  は要因によって説明される平方和、  
 $SS_{error}$  は要因によって説明されない残差の平方和である。

時点における平均スコア間に実質的な差があることの判断基準として  $\eta^2 > 0.01$  を用いた。

加えて、2 時点間 (R 1 年度と R 3 年度、R 3 年度と R 6 年度) における平均スコアの差の実質的な大きさを捉えるために Cohen's  $d$  を用いた。計算方法は以下の通りである。

$$d = \frac{M_1 - M_2}{SD_{pooled}}$$

ここで、 $M_1, M_2$  は比較対象となる 2 時点それぞれにおける平均スコアである。プールした標準偏差である  $SD_{pooled}$  は、比較する 2 つの群それぞれの受検者数  $n_1, n_2$  と標本分散  $S_1^2, S_2^2$  を用いて以下のように計算した。

$$SD_{pooled} = \sqrt{\frac{n_1 S_1^2 + n_2 S_2^2}{n_1 + n_2}}$$

効果量の慣習的な解釈に基づき、 $|d| \geq 0.2$  のときに「上昇」あるいは「低下」、 $0.1 \leq |d| < 0.2$  のときに「横ばい～上昇」あるいは「横ばい～低下」、 $|d| < 0.1$  のときに「横ばい」とした。

(絶対値を外した  $d$  の値が負のときに上昇方向、正のときに下降方向で解釈する。)

## 2. 度数分布の記載内容について

- ① 小数点以下第 1 位を四捨五入し、 $\pm 3\%$  の増減があるときは、「やや増加/減少」と記載
- ② 小数点以下第 1 位を四捨五入し、 $\pm 4 \sim 9\%$  の増減があるときは、「増加/減少」と記載
- ③ 小数点以下第 1 位を四捨五入し、 $\pm 10\%$  超の増減があるときは、「大きく増加/減少」と記載

# 1.1 高校の母集団について

・調査対象：本調査では、現行学習指導要領とそれ以前の学習指導要領との比較をするために、R1年度旧CS下（高校の移行期間初年度）、R3年度旧CS下（高校の移行期間3年目）、R6年度現行CS下（高1は小6から現行CS）の生徒を調査対象とした。

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	小学 移行期間		小学 現指導要領 全面实施				
	中学 移行期間			中学 現指導要領 全面实施			
高校入学年度		高校 移行期間			高校 現指導要領 学年進行		
平成29年度	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒	既卒
平成30年度	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒
令和元年度	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒
令和2年度	中2	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒
令和3年度	中1	中2	中3	高1	高2	高3	既卒
令和4年度	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
令和5年度	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2
令和6年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1
令和7年度	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和8年度	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
令和9年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1

# 1.1 高校の母集団について

## データ抽出条件：

1つの学年次において、

(a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を80名以上で実施した学校の生徒

(b) - (a)かつ下記の問題版を受検している生徒

(c) - (a)かつ(b)かつスタディサポートを受験した生徒

※集計対象である(b)および(c)については、年度間で同一の学校群であるとは限らない

※英語学習調査は、スタディサポート内のアンケート回答結果を集計したものである

## 各項目における集計対象

1.2 高校の全体傾向

1.3 高校1年生

1.3.1 高1 経年比較 4 技能総合

1.3.2 高1 経年比較 4 技能別の傾向

1.4 高校2年生

1.4.1 高2 経年比較 4 技能総合

1.4.2 高2 経年比較 4 技能別の傾向

1.5 高校3年生

1.5.1 高3 経年比較 4 技能総合

1.5.2 高3 経年比較 4 技能別の傾向

1.6 英語学習調査（単年度）

1.7 英語学習調査（経年比較）

1.8 高校 付録

1.8.1 高1 技能別スコア 経年比較

1.8.2 高1 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

1.8.3 高2 技能別スコア 経年比較

1.8.4 高2 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

1.8.5 高3 技能別スコア 経年比較

1.8.6 高3 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

(b)で集計

(c)で集計

(b)で集計

## 使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
高1	第38, 48, 66回	Basic
高2	第39, 49, 67回	Advanced
高3	第38, 48, 66回	Advanced

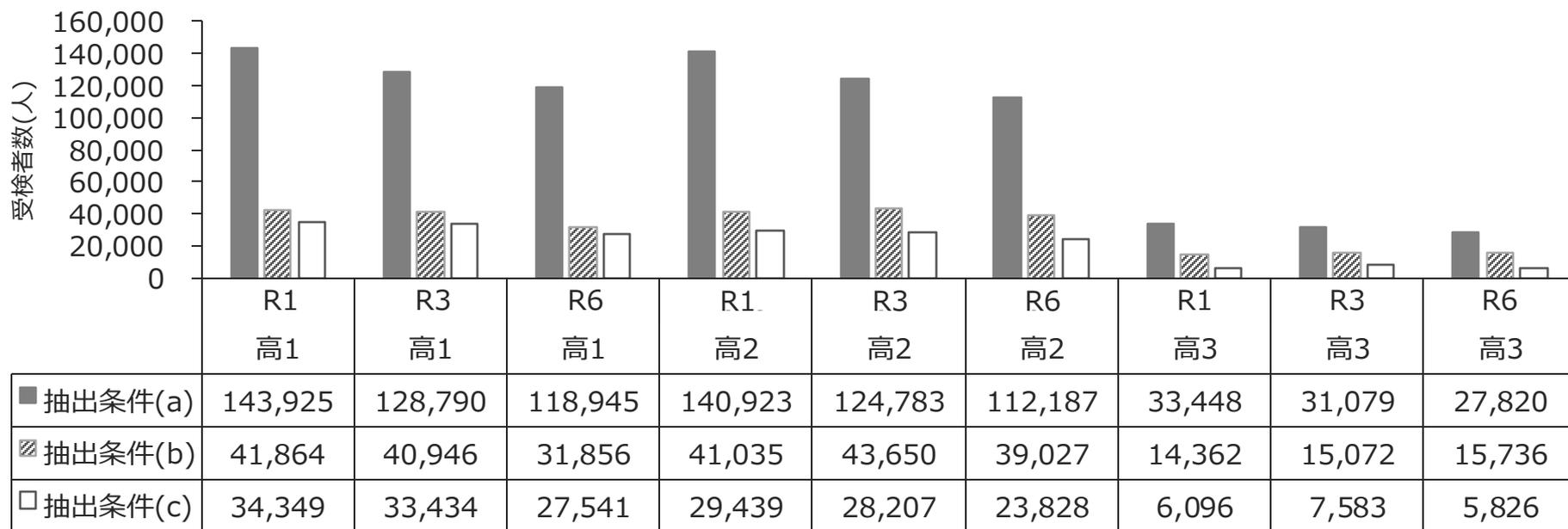
注1：Basicタイプ（高1）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)～270(B1.2 \*SpeakingのみB1.1)]  
 Advancedタイプ（高2・3）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～1280(B2) [各技能0(Pre-A1)～320(B2)]  
 測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天井効果（より高い能力だとしても上限スコアに留まる）が発生する場合がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

# 1.1 高校の母集団について

## 属性情報：

- 4年制大学に進学する生徒が約9割を占める学校の生徒が8割
- 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本
- 公立高校が約6割、私立高校が約4割
- 首都圏・近畿の受検者が約5割

### 学年・実施年度ごとの受検者数



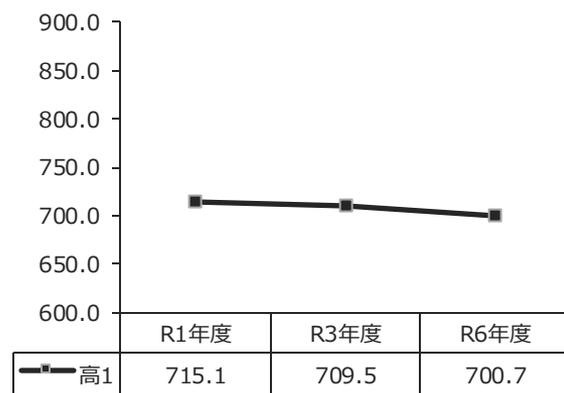
実施年度・学年

# 1.2 高校の全体傾向

- 4技能総合スコアについて、高1は「横ばい」、高2は「横ばい～上昇」、高3はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「上昇」
- いずれの学年も、各年度ともCEFRレベル（平均スコアから換算）はA2に到達

## 4技能総合 全国平均スコア

### 高1

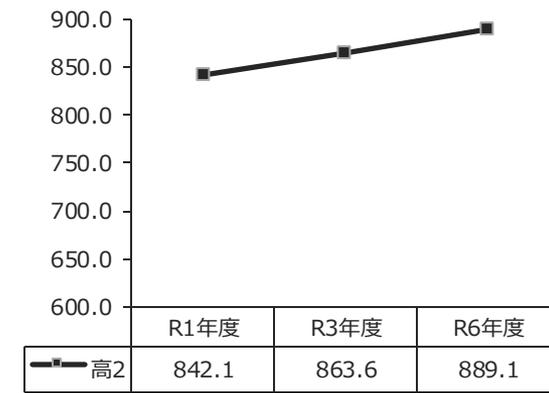


※ $\eta^2$  : 0.002

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は136.4, R3は138.9, R6は145.3。

### 高2

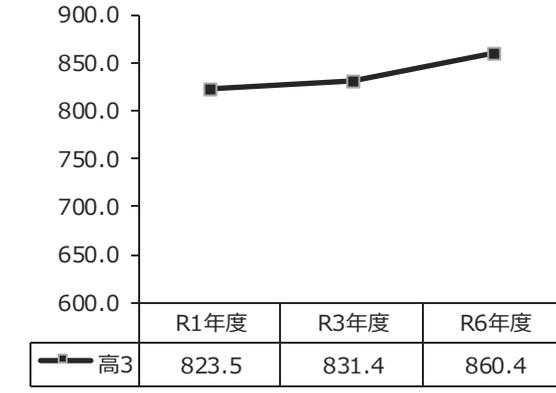


※ $\eta^2$  : 0.018  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.154 ; R3-R6 -0.186

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差 : R1は138.6, R3は129.6, R6は149.7。

### 高3



※ $\eta^2$  : 0.013  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.059 ; R3-R6 -0.204

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差 : R1は134.0, R3は136.8, R6は147.0。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約4割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.3.1 高1 経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に減少（CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計が減少、CEFR-J A1.3以下の割合は増加）

	旧CS下	旧CS下 ※中1から移行期間	現行CS下 ※小6から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	0.4%	0.4%	0.4%
B1.1	4.8%	5.1%	5.0%
A2.2	19.3%	17.3%	16.9%
A2.1	37.1%	36.6%	34.8%
A1.3	31.7%	33.7%	33.7%
A1.2	5.5%	5.2%	7.0%
A1.1	0.9%	1.3%	1.8%
Pre-A1	0.2%	0.3%	0.3%

減少

増加

B1以上 (累計)	5.2%	5.5%	5.4%
A2以上 (累計)	61.6%	59.4%	57.2%

減少

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

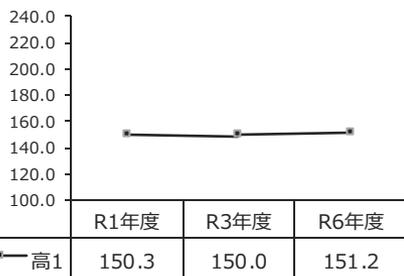
※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.3.2 高1 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」「読むこと」は「横ばい」
- 「話すこと」はR1年度からR3年度は「低下」、R3年度からR6年度は「横ばい」
- 「書くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「低下」

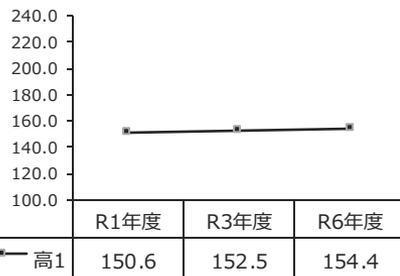
## 各技能 全国平均スコア

### 聞くこと Listening



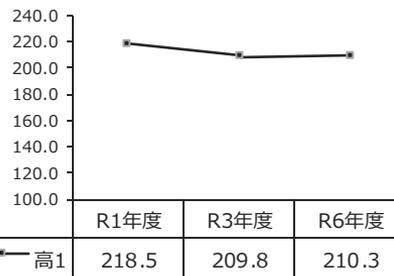
※ $\eta^2$  : 0.000

### 読むこと Reading



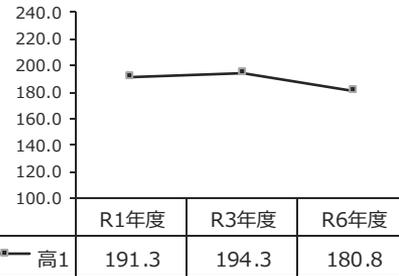
※ $\eta^2$  : 0.001

### 話すこと Speaking



※ $\eta^2$  : 0.012  
 ※Cohen's d : R1-R3 0.229 ; R3-R6 -0.012

### 書くこと Writing



※ $\eta^2$  : 0.015  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.068 ; R3-R6 0.301

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

平均 CEFR	A2	A2	A1
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A1.3

※標準偏差 : R1は42.2、R3は45.7、R6は46.8。 ※標準偏差 : R1は39.0、R3は39.7、R6は41.2。 ※標準偏差 : R1は39.9、R3は36.9、R6は38.0。 ※標準偏差 : R1は43.9、R3は41.9、R6は48.7。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】 : 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本 / 公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める / 4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める / 首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.3.2 高1 経年比較 4技能別の傾向 受信技能

## 「聞くこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度にやや増加
- CEFR-J A2.2以上の割合はやや増加、CEFR-J A1.2とA1.3の割合の合計は減少したため、ばらつきが増加（標準偏差が42.2→45.7→46.8へと変化）

## 「読むこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度にやや増加（特にCEFR-J A2.2以上が増加）

### 聞くこと Listening

やや増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	2.3%	3.2%	3.6%
B1.1	4.5%	4.9%	5.2%
A2.2	10.3%	10.7%	10.9%
A2.1	20.3%	19.4%	20.1%
A1.3	29.4%	26.7%	25.7%
A1.2	27.9%	27.6%	26.5%
A1.1	4.2%	5.4%	5.7%
Pre-A1	1.3%	2.2%	2.2%

やや増加

減少

B1以上 (累計)	6.8%	8.1%	8.8%
A2以上 (累計)	37.3%	38.1%	39.8%

### 読むこと Reading

増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	1.9%	2.4%	2.7%
B1.1	3.9%	4.1%	5.0%
A2.2	15.4%	15.7%	17.0%
A2.1	24.7%	25.5%	24.6%
A1.3	41.3%	40.2%	38.7%
A1.2	11.4%	10.9%	10.8%
A1.1	1.1%	1.0%	1.0%
Pre-A1	0.3%	0.1%	0.2%

やや増加

B1以上 (累計)	5.8%	6.5%	7.7%
A2以上 (累計)	45.9%	47.7%	49.3%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.3.2 高1 経年比較 4技能別の傾向 発信技能

## 「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度にやや減少（特にCEFR-J A2.2とB1.1の割合の合計が大きく減少し、CEFR-J A2.1の割合は大きく増加）

## 「書くこと」

- CEFR A2以上の割合は、R1年度からR3年度にかけて大きく増加したが、R6年度に大きく減少（特にR3年度と比べて、CEFR-J A2.2以上の割合は、R6年度に減少）

### 話すこと Speaking

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	0.0%	0.0%	0.0%
B1.1	14.1%	7.3%	6.0%
A2.2	31.9%	24.9%	27.2%
A2.1	38.5%	49.2%	48.8%
A1.3	12.4%	15.9%	15.3%
A1.2	2.4%	2.2%	2.1%
A1.1	0.4%	0.3%	0.0%
Pre-A1	0.3%	0.2%	0.5%

大きく増加

大きく減少

やや減少

B1以上 (累計)	14.1%	7.3%	6.0%
A2以上 (累計)	84.5%	81.4%	82.0%

### 書くこと Writing

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	1.4%	0.5%	0.6%
B1.1	14.4%	14.1%	7.1%
A2.2	21.9%	20.6%	18.7%
A2.1	17.1%	33.0%	22.9%
A1.3	37.0%	26.2%	38.1%
A1.2	5.0%	2.1%	7.9%
A1.1	0.8%	1.0%	0.6%
Pre-A1	2.3%	2.4%	4.0%

減少

B1以上 (累計)	15.8%	14.6%	7.8%
A2以上 (累計)	54.8%	68.2%	49.4%

大きく増加

大きく減少

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.4.1 高2 経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度にやや増加（特にCEFR B1以上の割合が大きく増加）

	旧CS下	旧CS下 ※中2から移行期間	現行CS下 ※中2から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	1.5%	1.5%	2.7%
B1.2	5.3%	6.6%	11.4%
B1.1	16.1%	19.0%	23.7%
A2.2	37.1%	39.5%	33.3%
A2.1	30.9%	28.2%	22.7%
A1.3	7.5%	4.2%	4.6%
A1.2	1.1%	1.0%	1.4%
A1.1	0.4%	0.1%	0.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.0%

B1以上 (累計)	22.9%	27.1%	37.9%
A2以上 (累計)	90.9%	94.7%	93.9%

**大きく増加**

**やや増加**

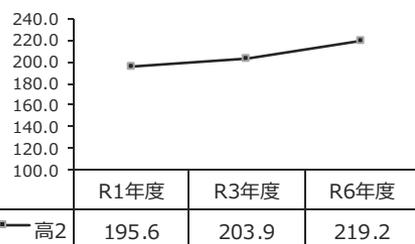
※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.4.2 高2 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい～上昇」、R3年度からR6年度は「上昇」
- 「読むこと」は「上昇」
- 「話すこと」は「横ばい」
- 「書くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「低下」

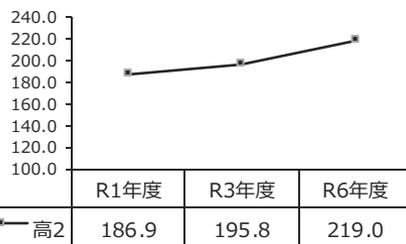
## 各技能 全国平均スコア

### 聞くこと Listening



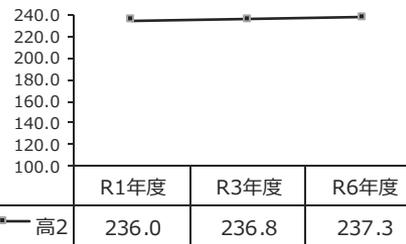
※ $\eta^2$  : 0.036  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.170 ; R3-R6 -0.299

### 読むこと Reading



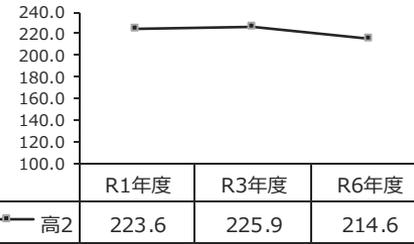
※ $\eta^2$  : 0.097

### 話すこと Speaking



※ $\eta^2$  : 0.000

### 書くこと Writing



※ $\eta^2$  : 0.015  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.055 ; R3-R6 0.287

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差 : R1は45.7, R3は48.7, R6は52.4。 ※標準偏差 : R1は37.3, R3は37.9, R6は45.9。 ※標準偏差 : R1は42.0, R3は36.3, R6は33.1。 ※標準偏差 : R1は41.6, R3は34.7, R6は45.9。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】: 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本 / 公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める / 4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める / 首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.4.2 高2 経年比較 4 技能別の傾向 受信技能

## 「聞くこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に増加（特にCEFR-J B1.1以上の割合が約21ポイント増加）

## 「読むこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に大きく増加（特にCEFR-J B1.1以上の割合は約27ポイント増加）

### 聞くこと Listening

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	4.6%	6.8%	11.7%
B1.2	7.5%	10.5%	16.2%
B1.1	13.4%	15.4%	19.0%
A2.2	24.5%	24.6%	22.0%
A2.1	29.4%	25.8%	18.9%
A1.3	16.3%	13.1%	9.3%
A1.2	3.9%	3.5%	2.7%
A1.1	0.3%	0.2%	0.2%
Pre-A1	0.1%	0.1%	0.1%

増加

B1以上 (累計)	25.5%	32.7%	46.9%
A2以上 (累計)	79.5%	83.1%	87.8%

### 読むこと Reading

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.7%	3.8%	12.3%
B1.2	4.0%	5.7%	11.8%
B1.1	9.8%	12.7%	19.7%
A2.2	34.9%	39.1%	35.4%
A2.1	36.3%	33.0%	18.1%
A1.3	12.0%	5.7%	2.7%
A1.2	0.2%	0.1%	0.1%
A1.1	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.0%

大きく増加

B1以上 (累計)	16.5%	22.1%	43.8%
A2以上 (累計)	87.7%	94.2%	97.2%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。  
 ※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.4.2 高2 経年比較 4技能別の傾向 発信技能

## 「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に増加
- CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計は増加したが、CEFR-J B1.1以上の割合は減少したため、ばらつきが減少（標準偏差が42.0→36.3→33.1へと変化）

## 「書くこと」

- CEFR A2以上の割合はR1年度からR3年度にかけて増加したが、R6年度に大きく減少（ボリュームゾーンがCEFR-J B1.1からA2.2に移動）

### 話すこと Speaking

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	3.1%	1.4%	0.8%
B1.2	5.2%	4.5%	3.0%
B1.1	19.7%	18.1%	19.1%
A2.2	33.3%	37.8%	41.3%
A2.1	30.7%	32.4%	31.7%
A1.3	6.3%	4.9%	3.3%
A1.2	1.2%	0.7%	0.6%
A1.1	0.3%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.3%	0.2%	0.2%

減少

増加

B1以上 (累計)	28.0%	24.1%	22.9%
A2以上 (累計)	92.0%	94.2%	95.9%

### 書くこと Writing

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	0.6%	0.0%	2.5%
B1.2	8.7%	4.6%	5.2%
B1.1	40.7%	53.2%	24.4%
A2.2	24.2%	28.8%	30.0%
A2.1	15.0%	8.6%	22.1%
A1.3	8.1%	3.0%	13.1%
A1.2	0.8%	0.1%	0.2%
A1.1	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	1.9%	1.6%	2.5%

移動

増加

大きく減少

B1以上 (累計)	50.1%	57.9%	32.1%
A2以上 (累計)	89.3%	95.3%	84.2%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.5.1 高3 経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に増加
- CEFR-J B1.1以上の割合は約11ポイント増加しているが、CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計は減少

	旧CS下	旧CS下 ※中3から移行期間	現行CS下 ※中3から現行CS	
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度	
B2	0.9%	0.9%	1.8%	大きく 増加
B1.2	4.1%	5.1%	8.1%	
B1.1	14.3%	15.5%	20.3%	
A2.2	34.6%	34.9%	33.4%	減少
A2.1	33.4%	32.5%	27.3%	
A1.3	11.3%	9.6%	7.2%	
A1.2	1.1%	1.3%	1.7%	
A1.1	0.2%	0.2%	0.1%	
Pre-A1	0.0%	0.1%	0.0%	
B1以上 (累計)	19.3%	21.4%	30.3%	増加
A2以上 (累計)	87.4%	88.8%	91.0%	

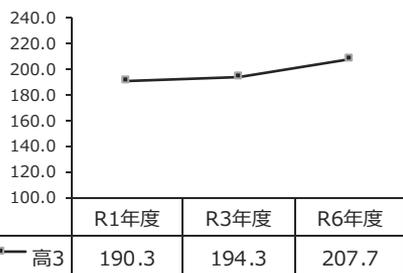
※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」に記載せず「B2」と表記しています。  
 ※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.5.2 高3 経年比較 4 技能別の傾向

- 「聞くこと」はR 1 年度からR 3 年度は「横ばい」、R 3 年度からR 6 年度は「上昇」
- 「読むこと」は「上昇」
- 「話すこと」「書くこと」は「横ばい」

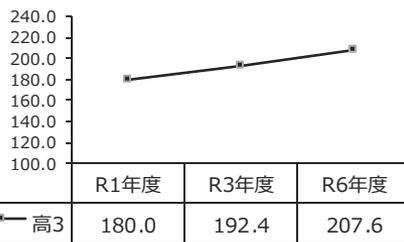
## 各技能 全国平均スコア

### 聞くこと Listening



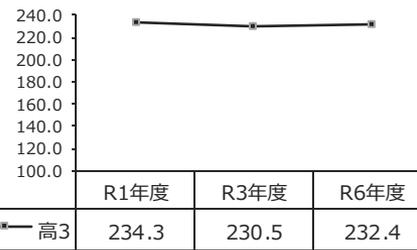
※ $\eta^2$  : 0.026  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.092 ; R3-R6 -0.280

### 読むこと Reading



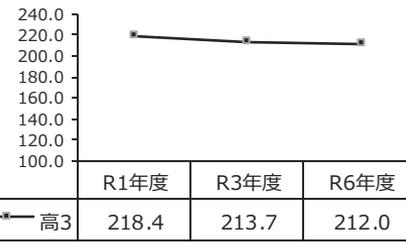
※ $\eta^2$ : 0.081  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.357 ; R3-R6 -0.376

### 話すこと Speaking



※ $\eta^2$ : 0.001

### 書くこと Writing



※ $\eta^2$  : 0.004

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差 : R1は42.2、R3は45.6、R6は49.8。 ※標準偏差 : R1は31.9、R3は36.7、R6は43.7。 ※標準偏差 : R1は42.3、R3は40.6、R6は37.4。 ※標準偏差 : R1は44.1、R3は37.6、R6は43.4。

※「4 技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4 技能・5 領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】: 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本 / 公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める / 4 年制大学に進学する生徒が約 9 割以上の学校の生徒が約 8 割を占める / 首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.5.2 高3 経年比較 4 技能別の傾向 受信技能

## 「聞くこと」

- R 1 年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R 6 年度に増加（特に CEFR-J B1.1以上の割合が大きく増加）

## 「読むこと」

- R 1 年度と比べて、CEFR A2以上の割合が、R 6 年度に増加（特に CEFR-J B1.1以上の割合が大きく増加）

### 聞くこと Listening

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.2%	3.9%	7.3%
B1.2	6.4%	7.4%	12.1%
B1.1	13.8%	14.7%	18.1%
A2.2	25.5%	24.6%	24.3%
A2.1	28.7%	26.7%	22.1%
A1.3	17.4%	17.0%	11.6%
A1.2	5.5%	5.4%	4.0%
A1.1	0.3%	0.3%	0.3%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.1%

増加

B1以上 (累計)	22.4%	26.1%	37.6%
A2以上 (累計)	76.6%	77.3%	84.0%

### 読むこと Reading

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	1.2%	2.9%	8.2%
B1.2	2.5%	4.8%	8.7%
B1.1	7.1%	12.3%	16.1%
A2.2	31.6%	38.6%	38.1%
A2.1	44.4%	33.0%	24.2%
A1.3	13.1%	8.2%	4.6%
A1.2	0.1%	0.1%	0.1%
A1.1	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.0%

B1以上 (累計)	10.8%	20.0%	33.0%
A2以上 (累計)	86.8%	91.7%	95.3%

増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.5.2 高3 経年比較 4 技能別の傾向 発信技能

## 「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計は、R6年度に増加しているが、CEFR-J B1.1以上の割合は減少しており、ばらつきが減少（標準偏差が42.3→40.6→37.4へと変化）

## 「書くこと」

- CEFR A2以上の割合はR1年度からR3年度に増加したが、R6年度に減少（特にCEFR-J B1.2の割合が大きく減少）

話すこと Speaking			
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.8%	1.5%	0.8%
B1.2	4.6%	4.2%	2.9%
B1.1	19.2%	16.0%	16.9%
A2.2	33.4%	34.8%	37.8%
A2.1	30.2%	33.7%	34.0%
A1.3	8.0%	8.5%	6.4%
A1.2	1.1%	1.0%	0.8%
A1.1	0.4%	0.2%	0.0%
Pre-A1	0.3%	0.3%	0.3%
B1以上 (累計)	26.7%	21.6%	20.6%
A2以上 (累計)	90.3%	90.1%	92.4%

書くこと Writing			
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.3%	0.0%	2.0%
B1.2	14.2%	3.8%	2.2%
B1.1	26.5%	33.8%	30.4%
A2.2	18.2%	23.3%	21.8%
A2.1	15.5%	25.0%	25.2%
A1.3	20.5%	11.8%	15.8%
A1.2	1.2%	0.6%	0.4%
A1.1	0.4%	0.0%	0.1%
Pre-A1	1.1%	1.8%	2.1%
B1以上 (累計)	43.1%	37.6%	34.6%
A2以上 (累計)	76.8%	85.8%	81.6%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。  
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。  
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。  
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。  
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

## 1.6 英語学習調査（単年度）

集計対象：以下の条件を満たすR6年度の生徒が集計対象である。

1つの学年次において、

(a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を80名以上で実施した学校の生徒

(b) - (a)かつ指定の問題版（※）を受検している生徒

(c) - (a)かつ(b)かつスタディサポートを受験した生徒

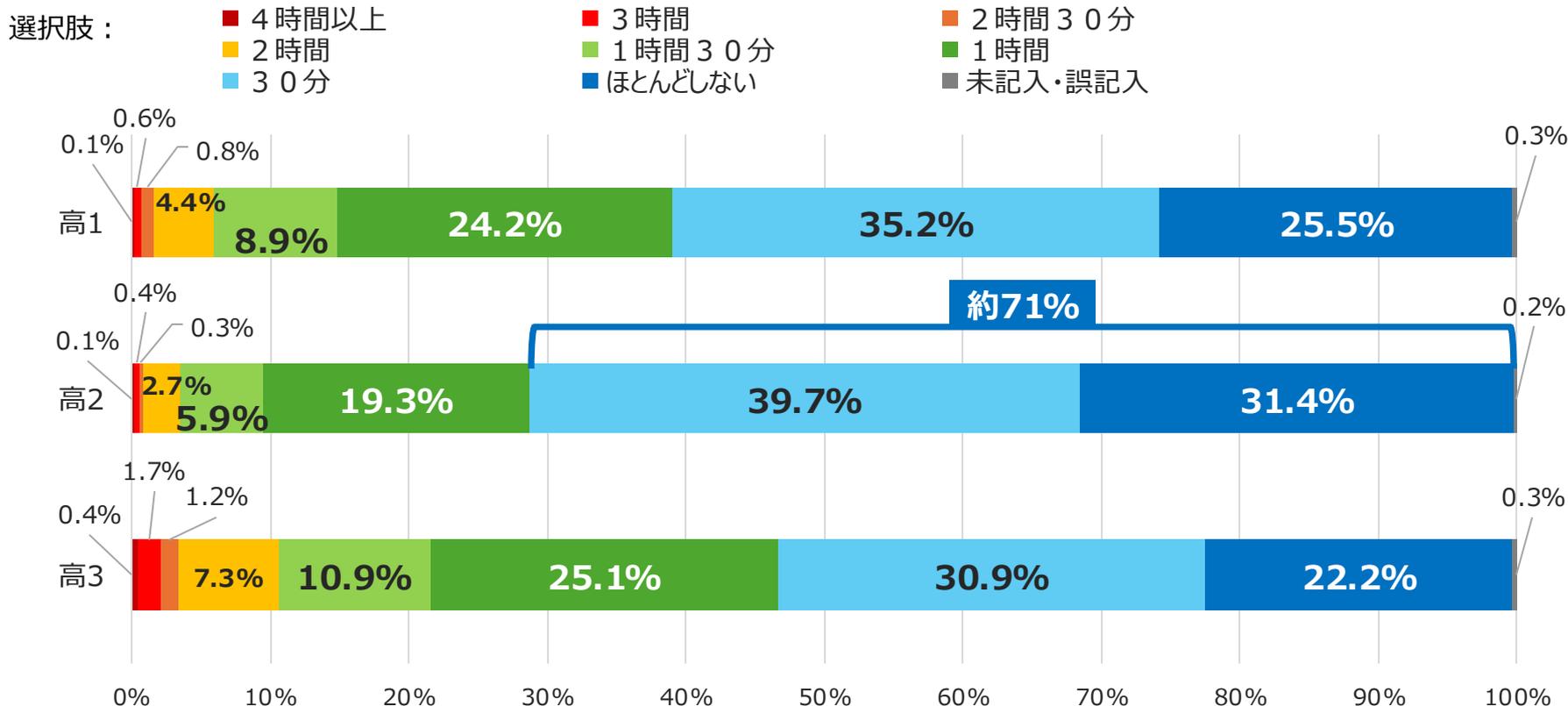
※指定の問題版とは、高1 - Basicタイプの第38回、第48回、第66回 高2 - Advancedタイプの通算回第39回、第49回、第67回 高3 - Advancedタイプの通算回第38回、第48回、第66回である。

集計対象人数： 高1 - 27,541人、高2 - 23,828人、高3 - 5,826人である。

# 1.6.1 英語の平日の学習時間【R6年度】

- 高2の約71%が、平日の学習時間が30分以下

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。  
最も近い時間を平日について1つ選んでください。



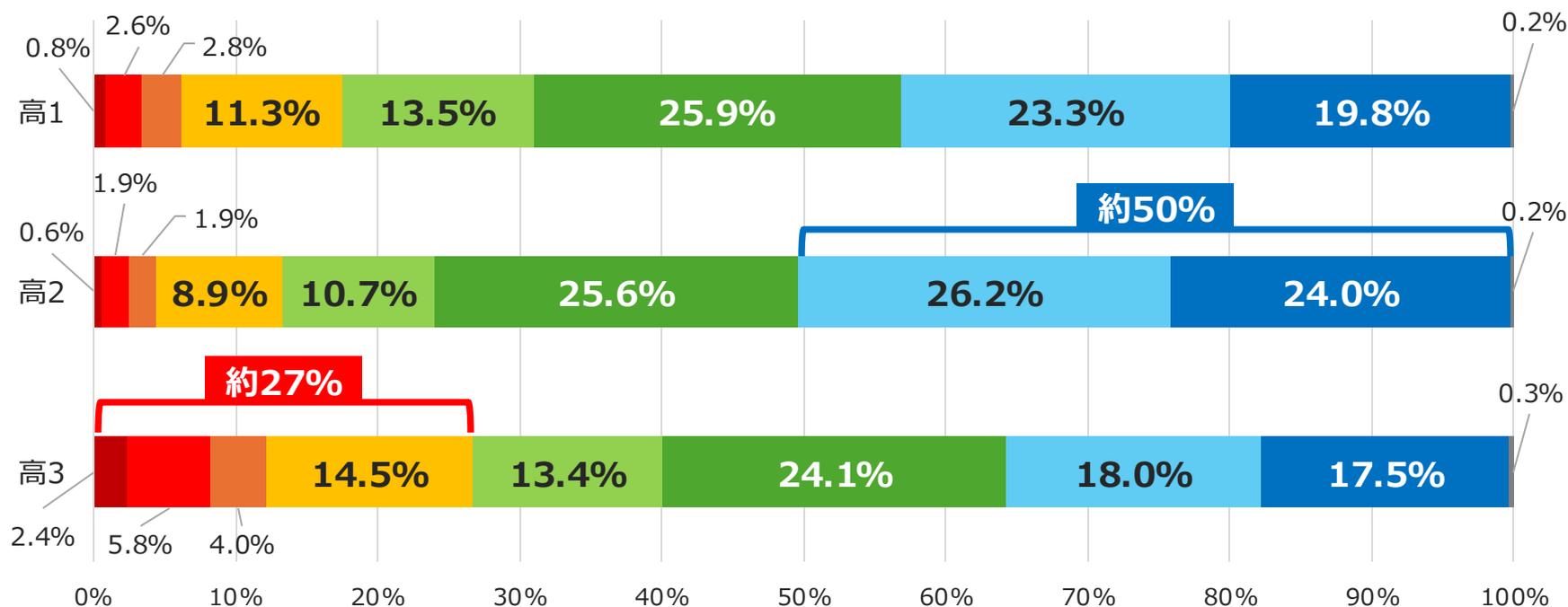
## 1.6.2 英語の休日の学習時間【R6年度】

- 高2の約50%が、英語の休日の学習時間が30分以下
- 高3の約27%が2時間以上学習

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。  
最も近い時間を休日について1つ選んでください。

選択肢：

■ 4時間以上	■ 3時間	■ 2時間30分
■ 2時間	■ 1時間30分	■ 1時間
■ 30分	■ ほとんどしない	■ 未記入・誤記入



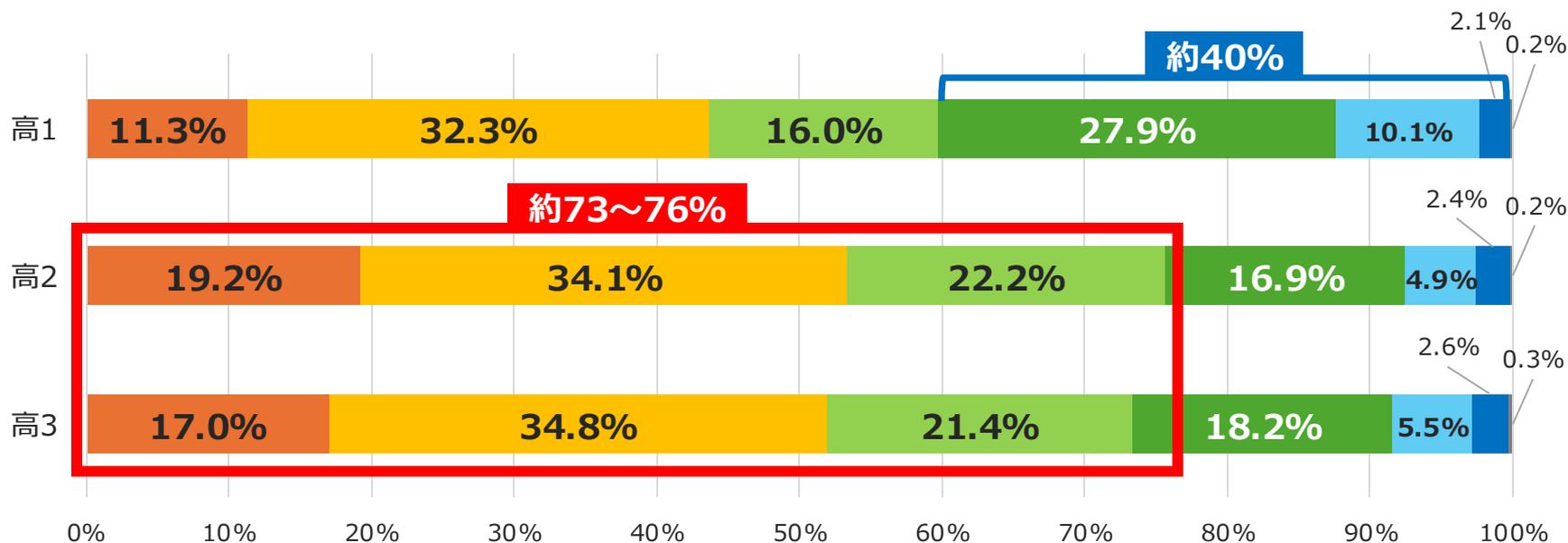


## 1.6.4 授業理解度（英語）【R6年度】

- 授業に対して、高1が最も不安を感じており、約40%が「わからないところがあり不安」または「ついていけない」と回答
- 高2・3になると「授業を理解できている」生徒が増え、約73～76%の生徒が「授業についていけている」と回答

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
  - 2 - 理解できているが少し不安である
  - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
  - 4 - 少しわからないところがあり不安である
  - 5 - 授業についていけず非常に不安である
  - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
  - 99 - 未記入・誤記入

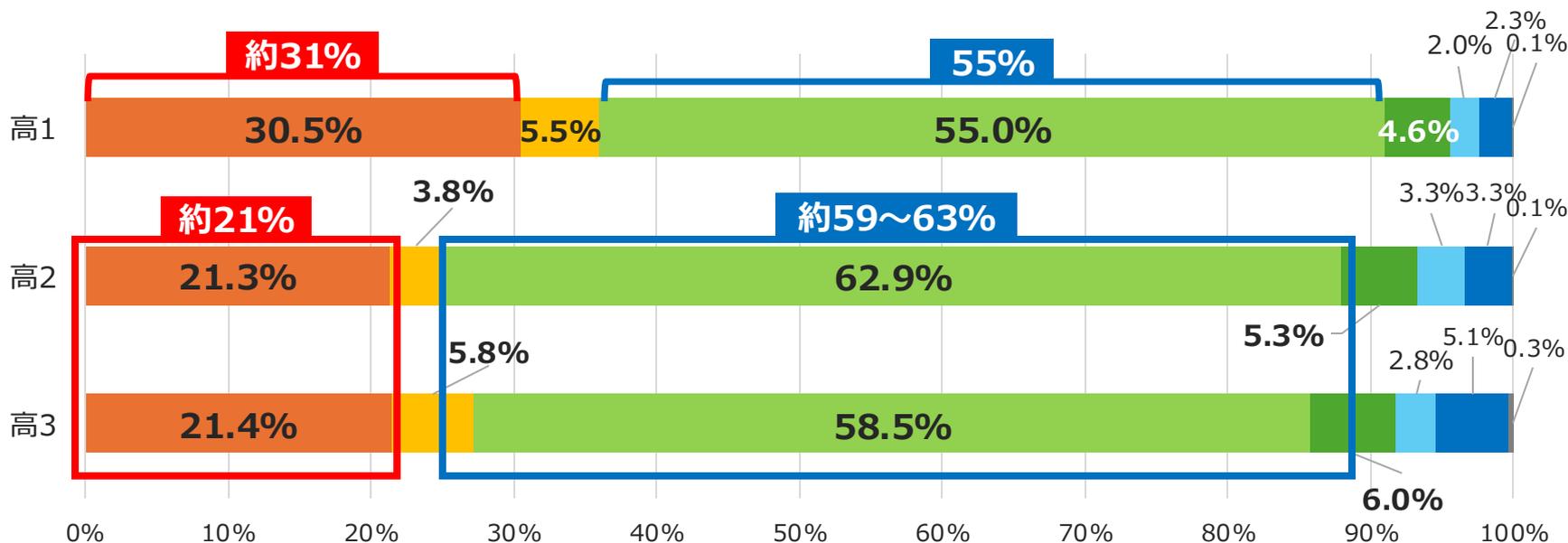


# 1.6.5 英語の宿題・授業の復習への取り組み【R6年度】

- 「宿題と復習を必ずする」生徒の割合は、高1が最も多く約31%で、高2・3は約21%に減少
- 「宿題のみ取り組む」生徒の割合はいずれの学年も最も高く、高1は55%、高2・3は約59~63%

質問：英語について、宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
  - 2 - 宿題はしていないが復習はする
  - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
  - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
  - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
  - 6 - 宿題も復習もしていない
  - 99 - 未記入・誤記入

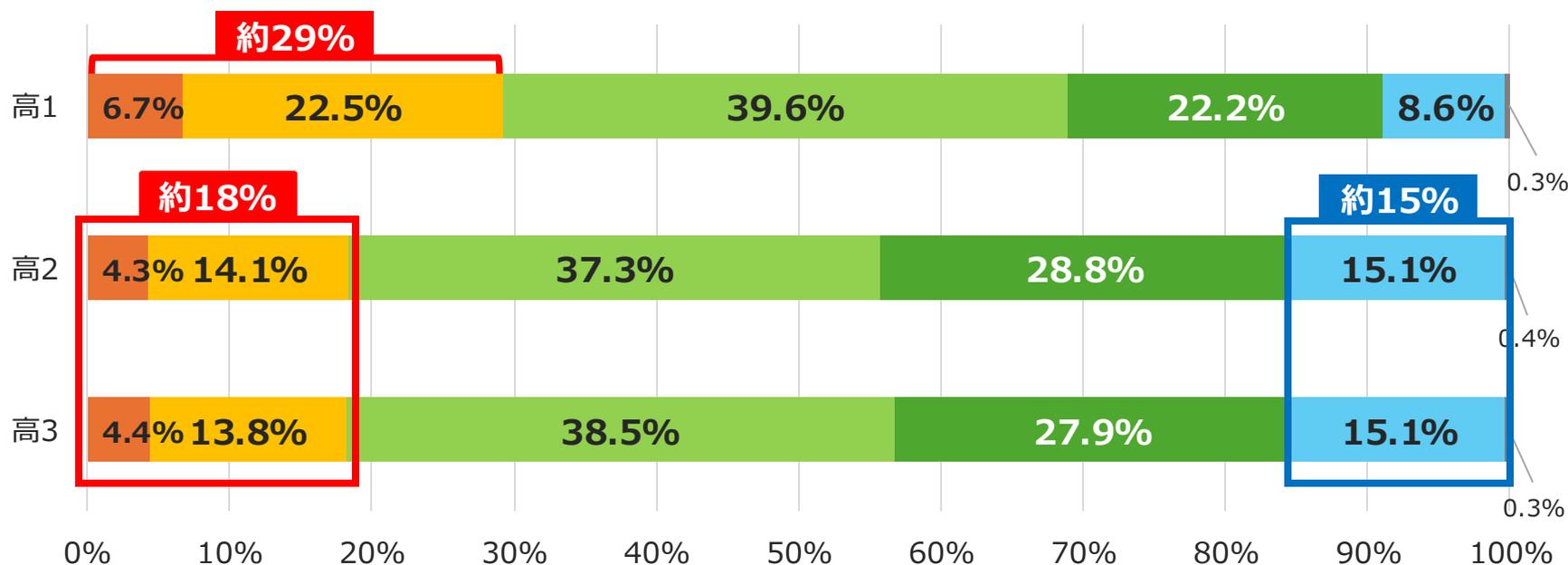


## 1.6.6 英語の定期試験後の復習【R6年度】

- 定期試験後に「(すべてあるいは間違えたところの) 解きなおしの復習まで行う」生徒の割合は、高1が約29%と最も高く、高2・3は約18%
- 「復習を全くしない」生徒の割合は高2・3で約15%

質問：英語について、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組めますか。  
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する
  - 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する
  - 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する
  - 4 - 間違えたところだけは確認する
  - 5 - 復習は全くしていない
  - 99 - 未記入・誤記入

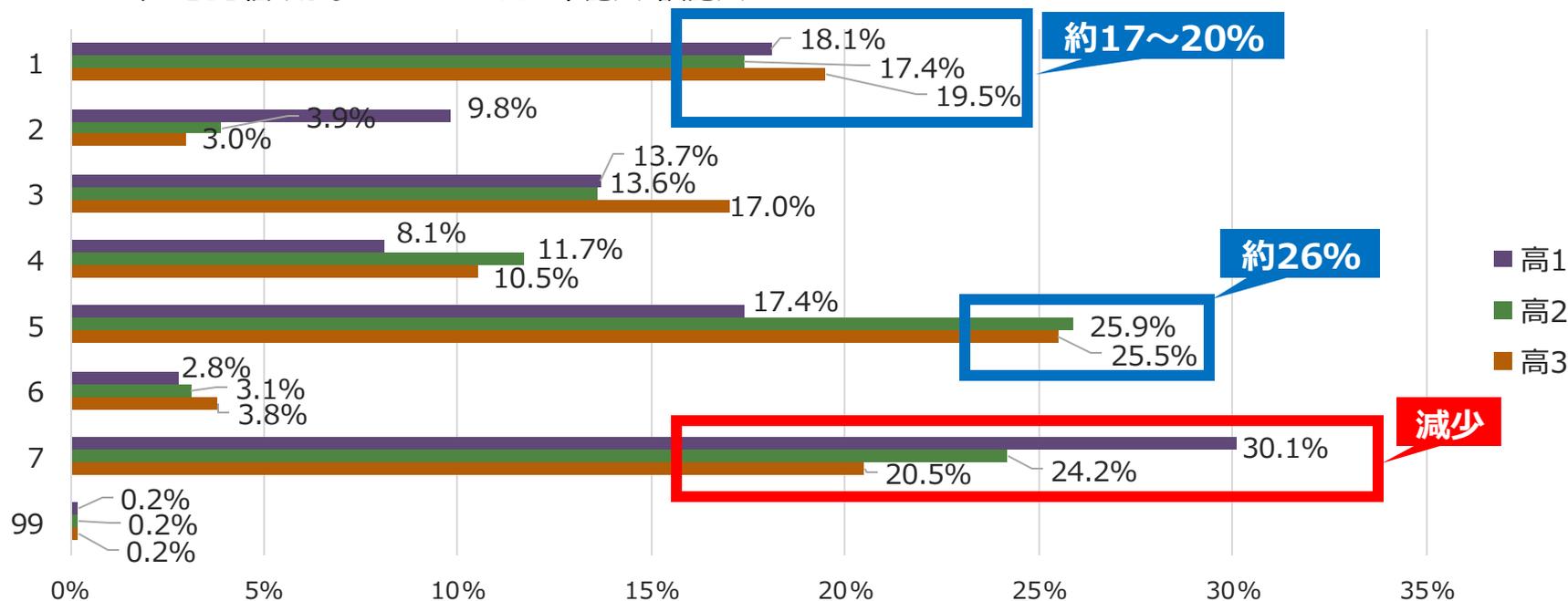


# 1.6.7 英語の学習上の悩み【R6年度】

- 高1から高3にかけて「学習上の悩みがない」生徒の割合は減少
- いずれの学年も「学習方法がわからない」生徒の割合は約17~20%おり、高1で最も多い悩み
- 高2・3では、「計画を実行できない・長続きしない」生徒の割合が高1より大きく増加し、約26%を占める最も多い悩み

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：1. 学習の方法がわからない      2. 授業の進度についていけない      3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない  
 4. 学習に集中できない      5. 計画を実行できない、または長続きしない      6. その他  
 7. 今のところ悩みはない      99. 未記入・誤記入



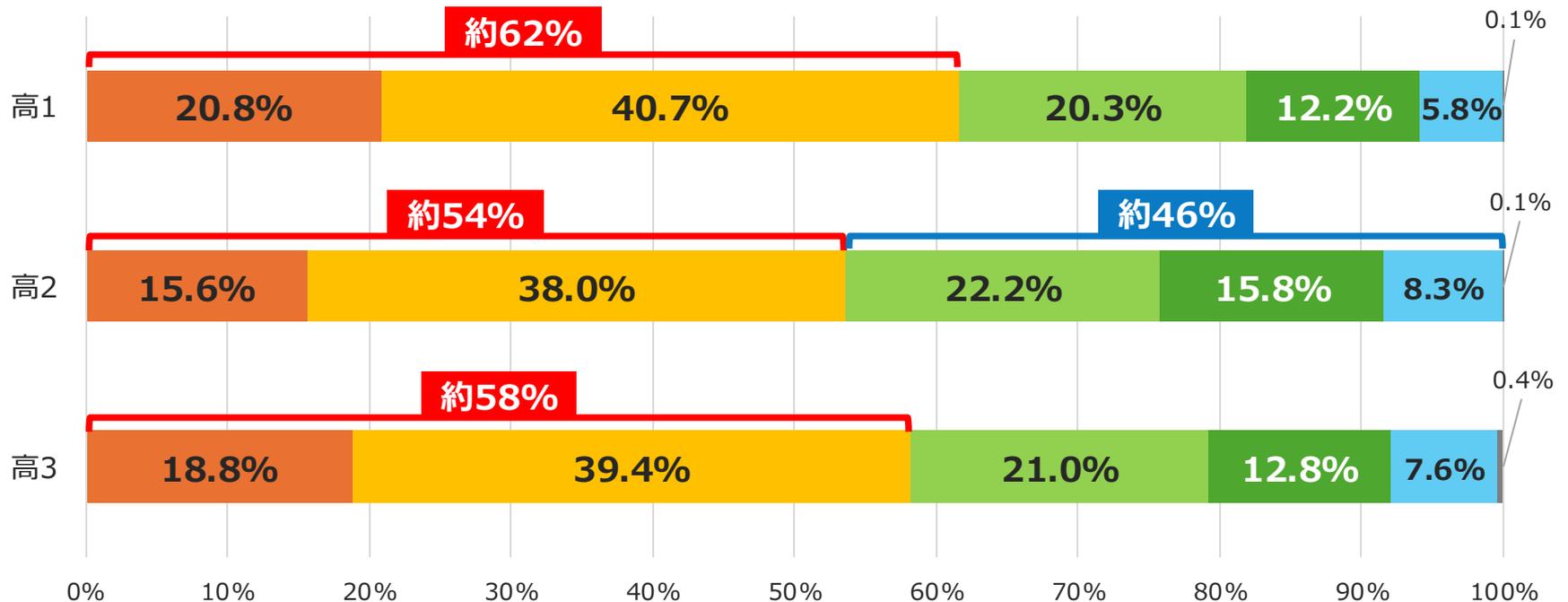
# 1.6.8 英語の授業における目標・目的の有無【R6年度】

- いずれの学年も、「授業に目標や目的をもって取り組む」生徒の割合は約54～62%
- 高2については、半数近くが授業に目標や目的をもって取り組んでいるとは言えない

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
  - 2 - ややあてはまる
  - 3 - どちらともいえない
  - 4 - あまりあてはまらない
  - 5 - あてはまらない
  - 99 - 未記入・誤記入



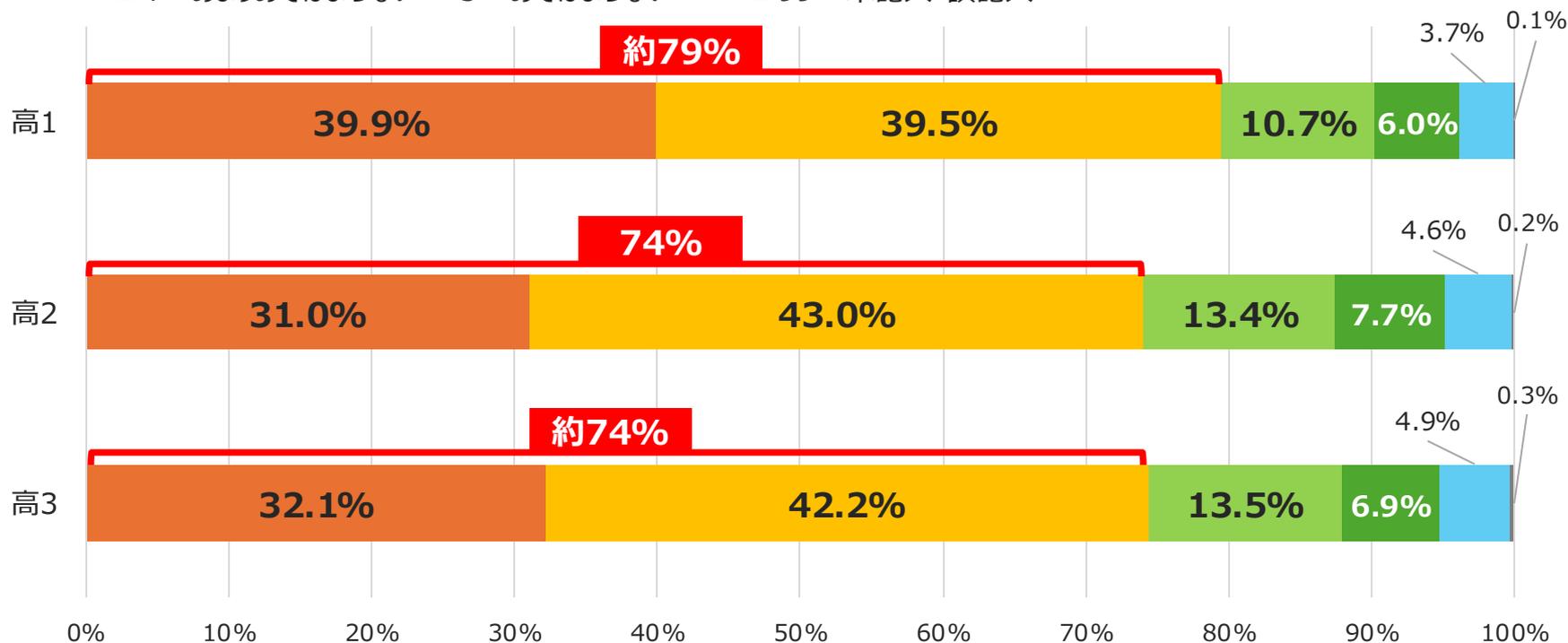
## 1.6.9 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【R6年度】

- 「とてもあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した生徒は高1で約79%であり、高2・3よりも多い

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入



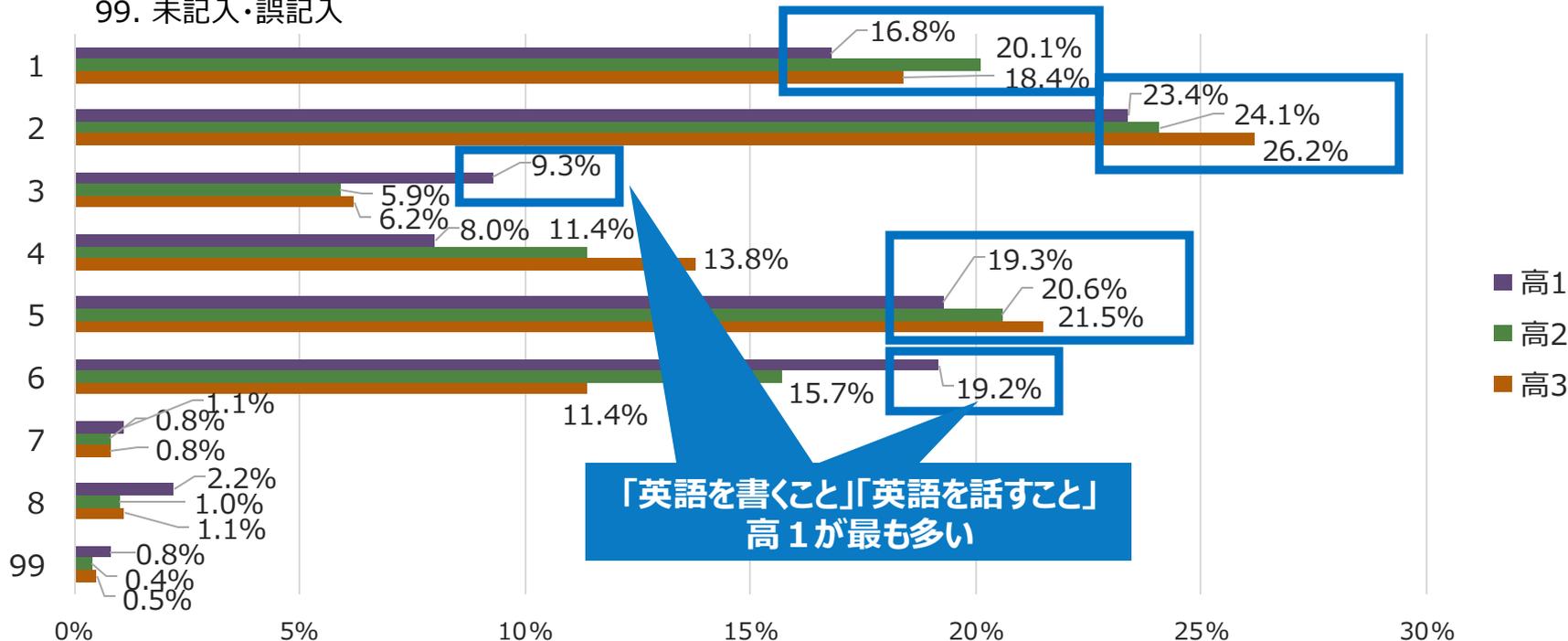
# 1.6.10 英語の苦手な事項【R6年度】

- いずれの学年も「単語を覚えること」「文法を理解すること」「英語を聴き取ること」を苦手とする生徒の割合は高く、またそれぞれの割合は高1より高2のほうが高い
- 「文法を理解すること」「英語を聴き取ること」の割合は、高2よりも高3のほうが高い
- 発信技能である「英語を書くこと」「英語を話すこと」が苦手な生徒の割合は、高1が最も高い

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢： 1. 単語を覚えること      2. 文法を理解すること      3. 英語を書くこと      4. 英語を読むこと  
 5. 英語を聴き取ること      6. 英語を話すこと      7. その他      8. 苦手なことはない

99. 未記入・誤記入



「英語を書くこと」「英語を話すこと」  
高1が最も多い

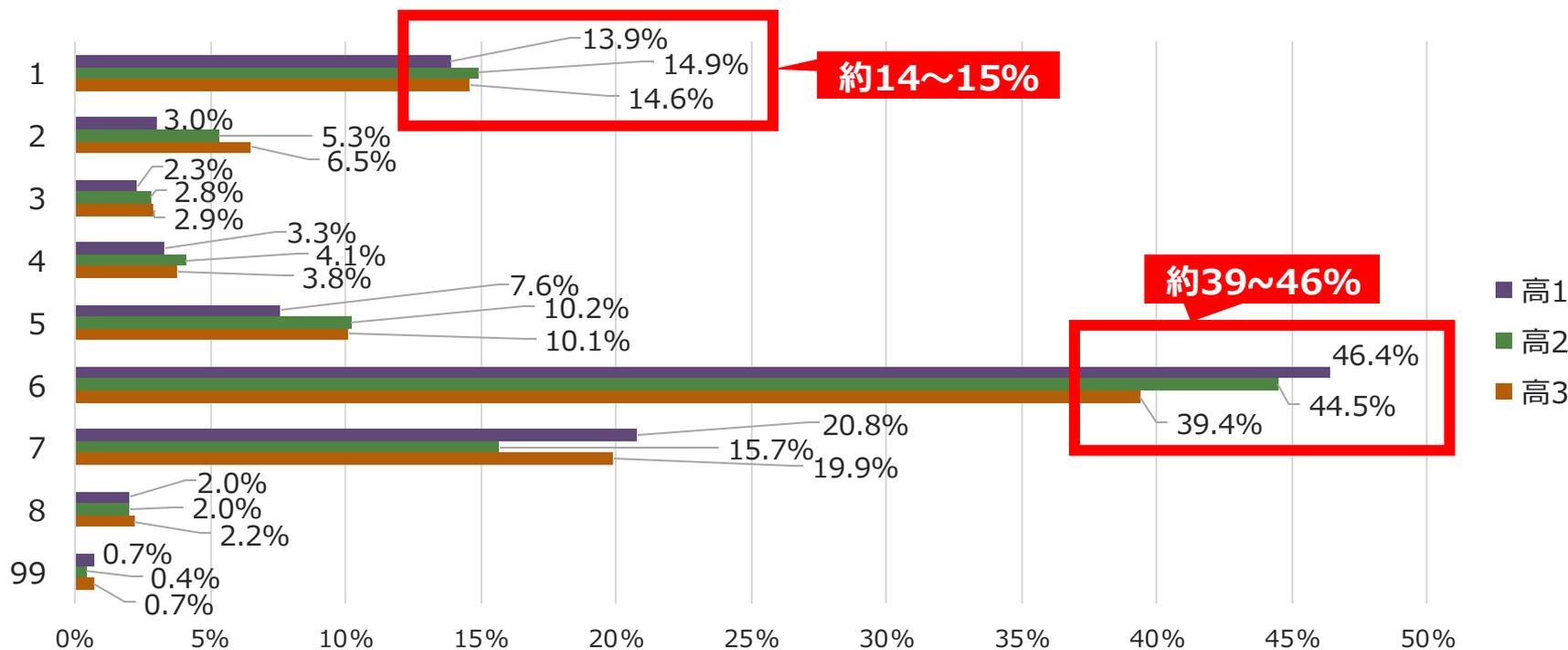
※複数選択不可

# 1.6.11 英語を身につけたい程度【R6年度】

- いずれの学年も、「日常的な会話をして楽しめるくらい」と回答した生徒の割合は約39～46%を占めており、最も高い
- 「国際社会で活躍できるくらい」と回答した生徒の割合は約14～15%

質問：現在、英語をどの程度まで身につけたいと思っていますか。最も近いものを次のうちから選んでください。

- 選択肢：1. 国際社会で活躍できるくらい      2. 大学での専門教育を英語で学べるくらい  
 3. 海外進学をめざせるくらい      4. 海外の高校の授業に参加できるくらい  
 5. ホームステイや語学研修を楽しめるくらい      6. 英語で日常的な会話をし楽しめるくらい  
 7. 特に利用を考えていない      8. その他      99. 未記入・誤記入



※複数選択不可

## 1.6.12 文脈から語句の意味を推測して調べること【R6年度】

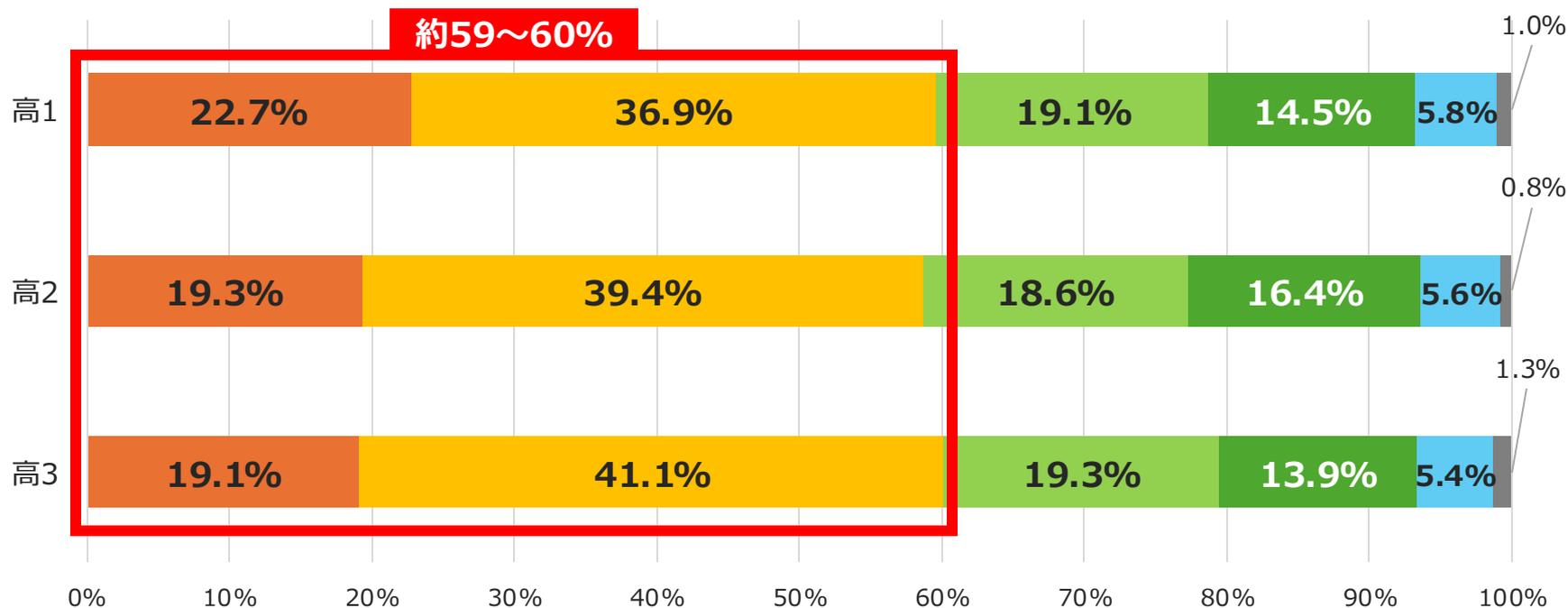
- いずれの学年も、約59～60%の生徒が「文脈から語句の意味を推測する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「知らない単語や表現は、前後の文脈から語句の意味を考え、推測してから辞書などで確認するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入

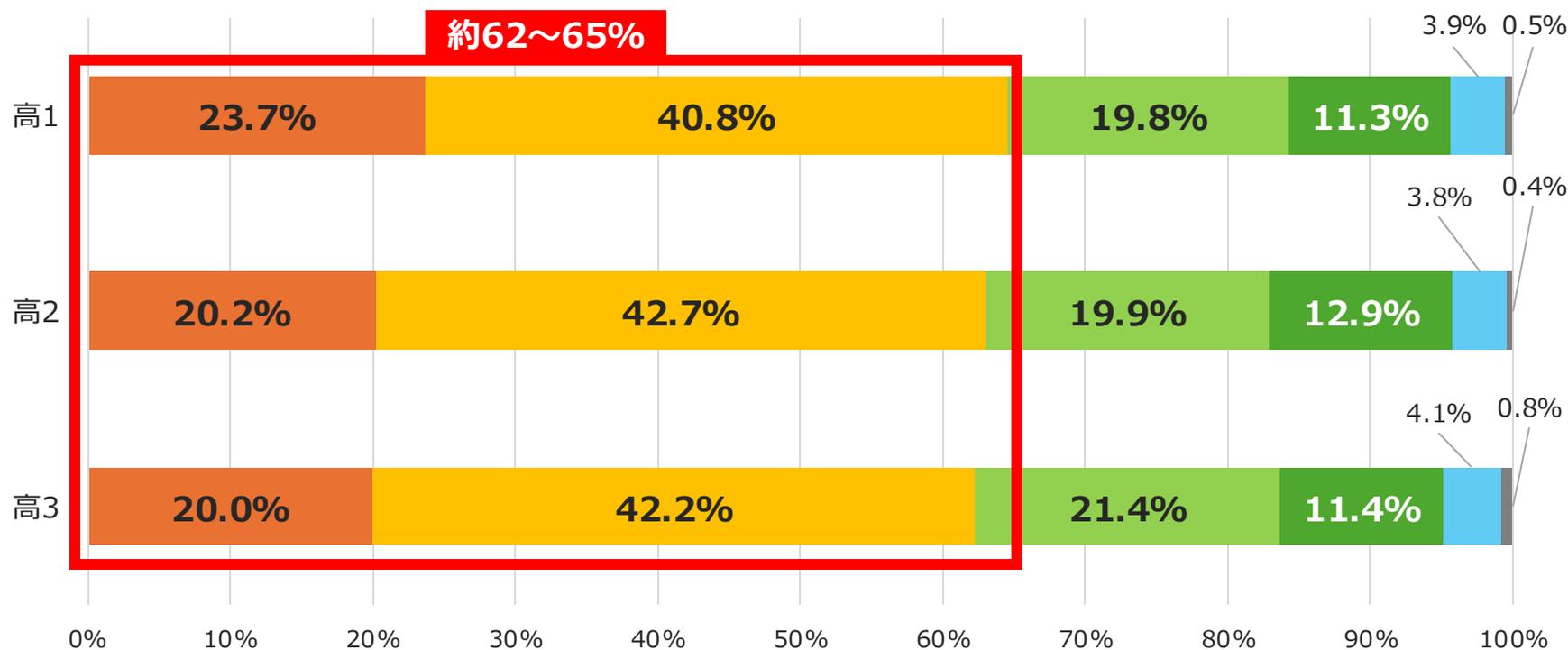


# 1.6.13 英文の構造を理解しながら読むこと【R6年度】

- いずれの学年も、約62～65%の生徒が「英文の構造を理解しながら読む」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「英語を読むとき、英文の構造（主語・動詞や節のまとまりなど）を理解するようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
  - 2 - ややあてはまる
  - 3 - どちらともいえない
  - 4 - あまりあてはまらない
  - 5 - あてはまらない
  - 99 - 未記入・誤記入



# 1.6.14 意味の区切りを意識して英語を聞いて話すこと【R6年度】

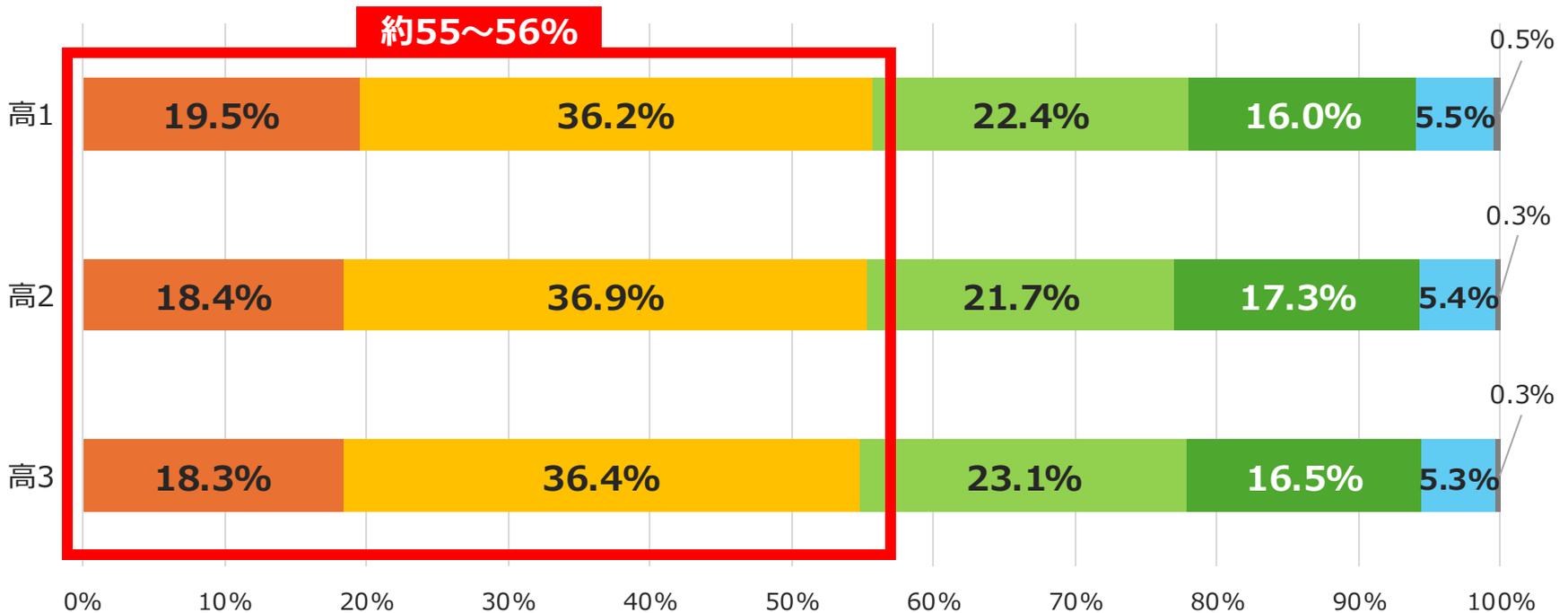
- いずれの学年も、約55～56%の生徒が「音や意味の区切りを意識して聞く、話す」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を聞いたり話したりするとき、発音、リズム、イントネーション、意味の区切りなど意識するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入

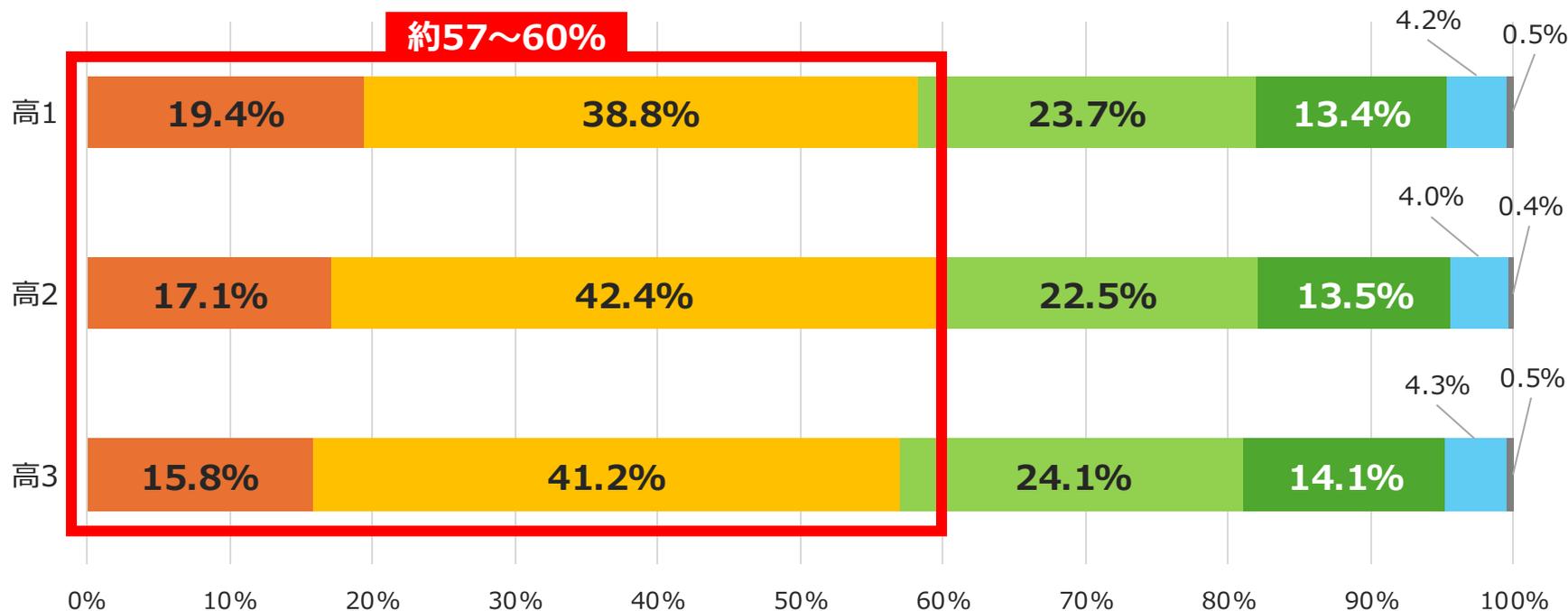


# 1.6.15 英文の主旨や筆者の主張をとらえること【R6年度】

- いずれの学年も、約57～60%の生徒が「英文の主旨や筆者の主張をとらえる」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「英語を読んだり聞いたりするとき、ある程度のまとまりで主旨を把握したり  
文章全体の筆者の主張をとらえたりするようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
  - 2 - ややあてはまる
  - 3 - どちらともいえない
  - 4 - あまりあてはまらない
  - 5 - あてはまらない
  - 99 - 未記入・誤記入



## 1.6.16 英文から筆者の意図や心情を推測すること【R6年度】

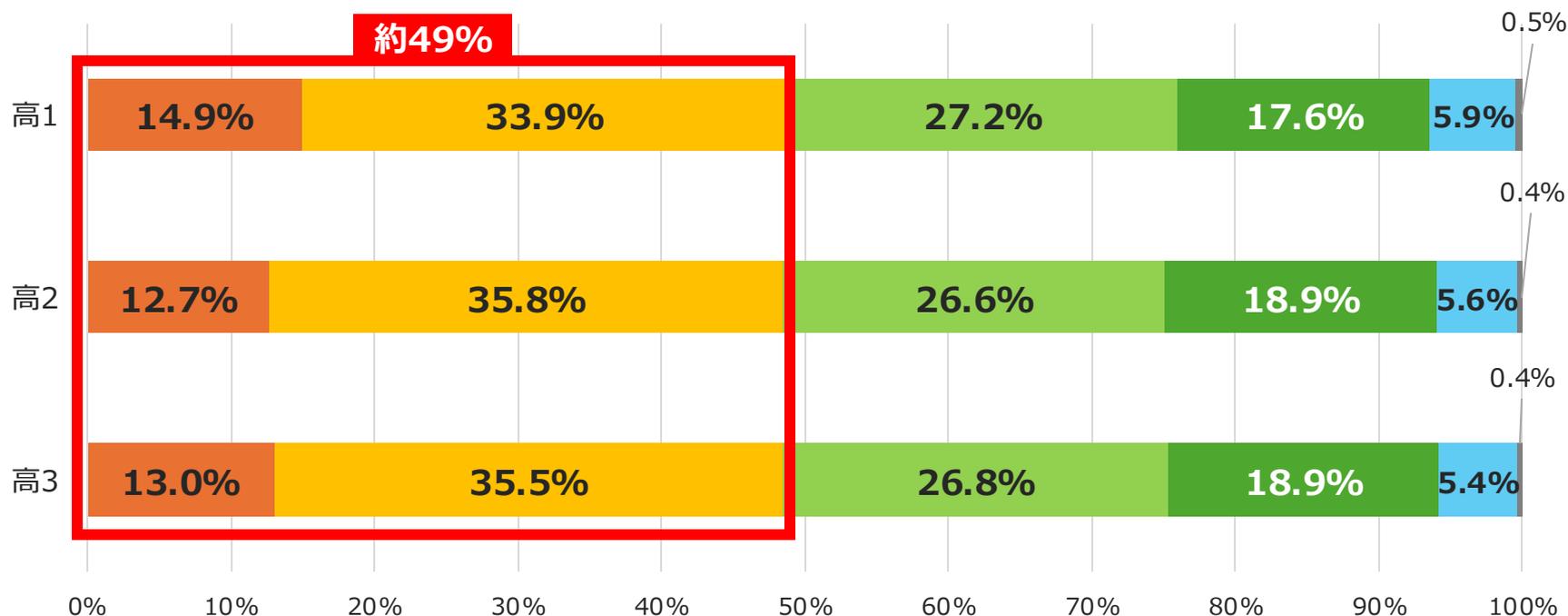
- いずれの学年も、約49%の生徒が「英文から筆者の意図や心情を推測する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読んだり聞いたりするとき、文章全体を通して筆者の意図や気持ちを推測してとらえるようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



## 1.6.17 英文の情報を詳細にとらえ要点を把握すること【R6年度】

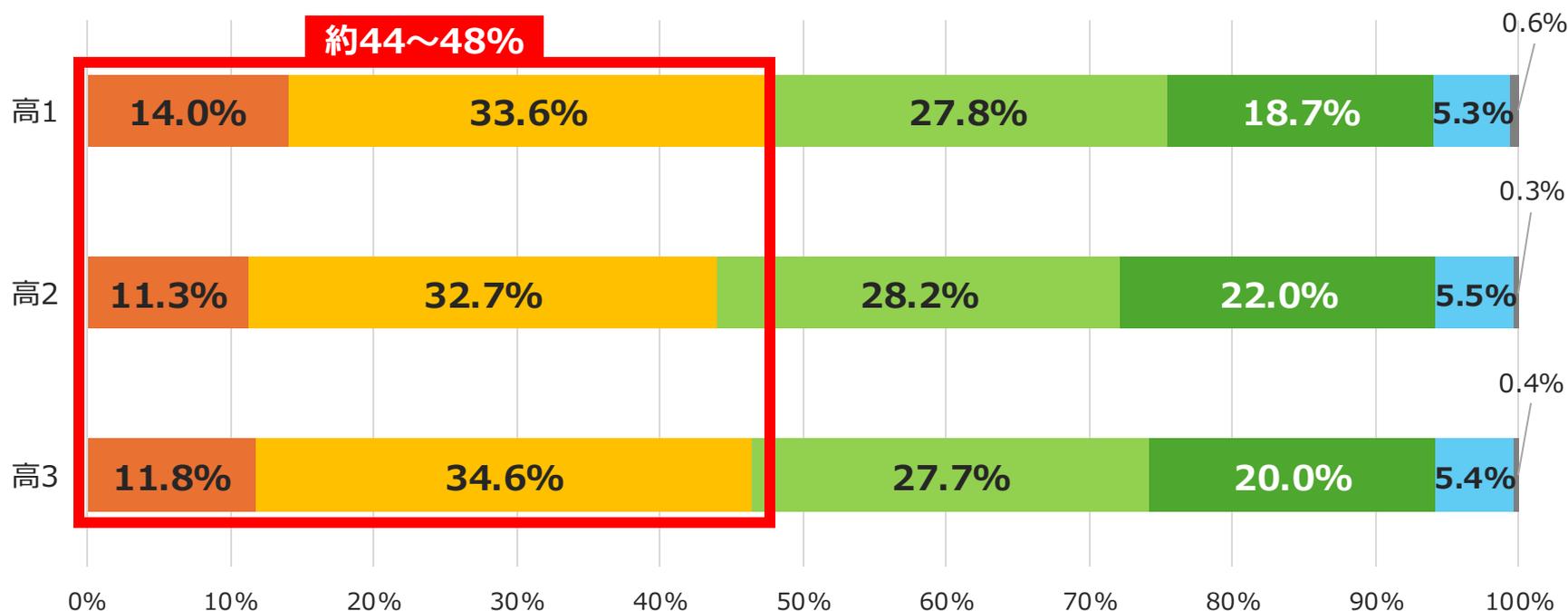
- いずれの学年も、約44～48%の生徒が「英文の情報を詳細にとらえ要点を把握する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読んだり聞いたりするとき、要点を把握するうえで必要な情報を細部まで正確にとらえるように意識している」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入

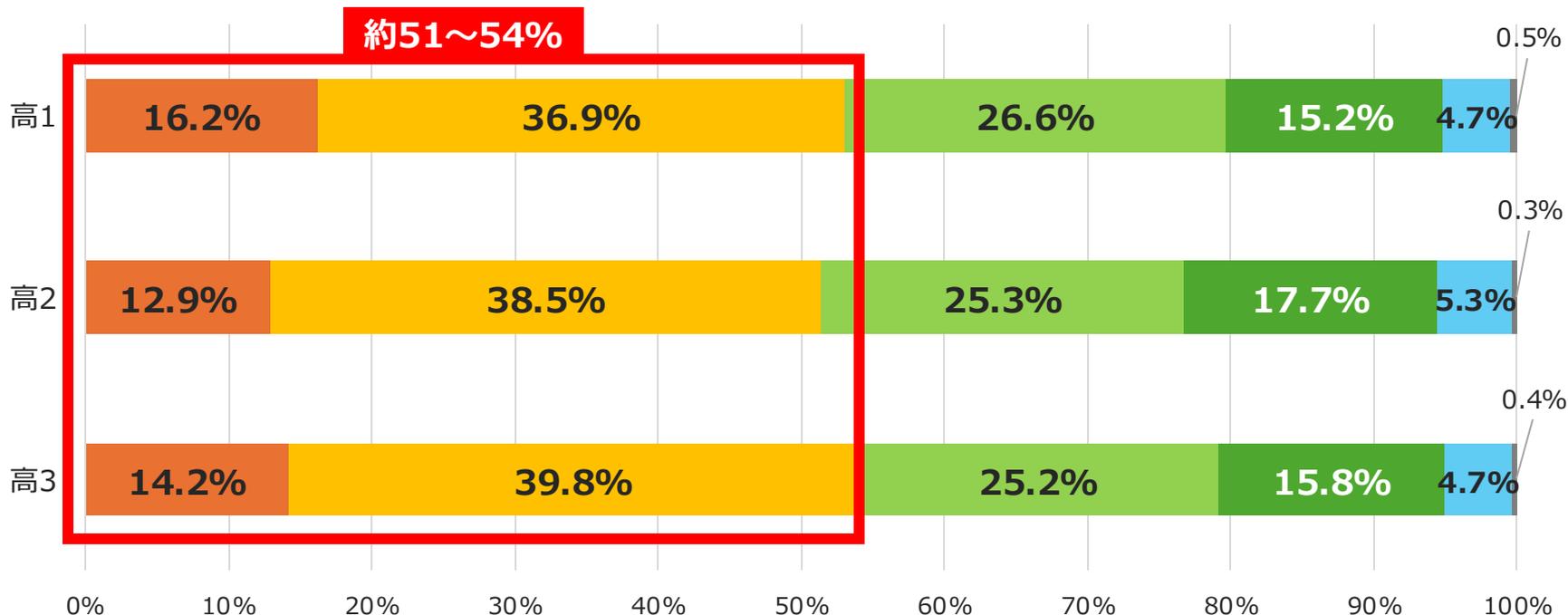


## 1.6.18 段落の関係を意識して英文の内容を理解すること【R6年度】

- いずれの学年も、約51～54%の生徒が「段落の関係を意識して英文内容を理解する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「英語を読んだり聞いたりするとき、段落どうしの関係に注意して、内容を理解するようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入

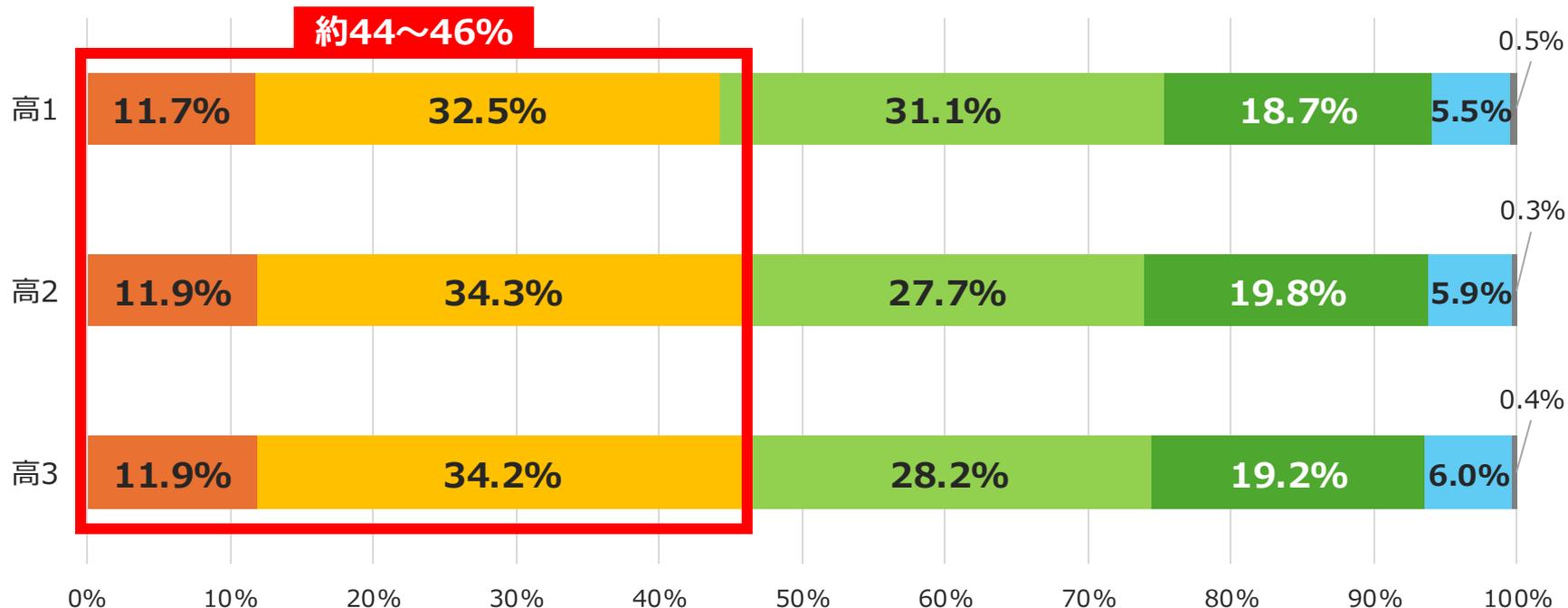


# 1.6.19 英語で産出する際の適切な表現の選択と論理性への注意の有無【R6年度】

- いずれの学年も、約44～46%の生徒が「場面に応じた表現の使用や論理性に注意して発信する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「英語で話したり書いたりするとき、話題や伝える場面に応じた表現を使って、  
論理性に注意しながら伝えるようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
  - 2 - ややあてはまる
  - 3 - どちらともいえない
  - 4 - あまりあてはまらない
  - 5 - あてはまらない
  - 99 - 未記入・誤記入



## 1.6.20 難しくてもあきらめずに英語で表現すること【R6年度】

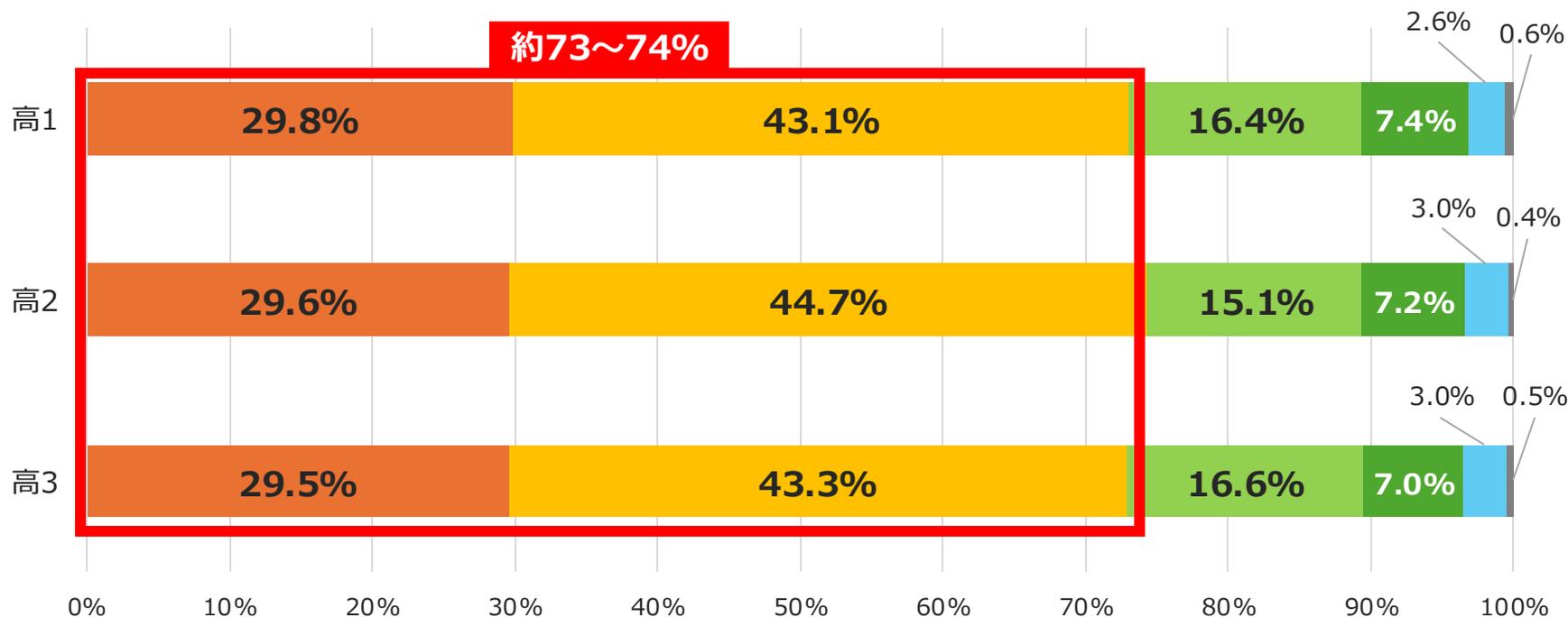
- いずれの学年も、「難しくてもあきらめずに知っている英語で表現しようとする」生徒の割合は約73～74%

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語で表現することが難しくても、あきらめずに知っている語彙や文法で表現しようとしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入

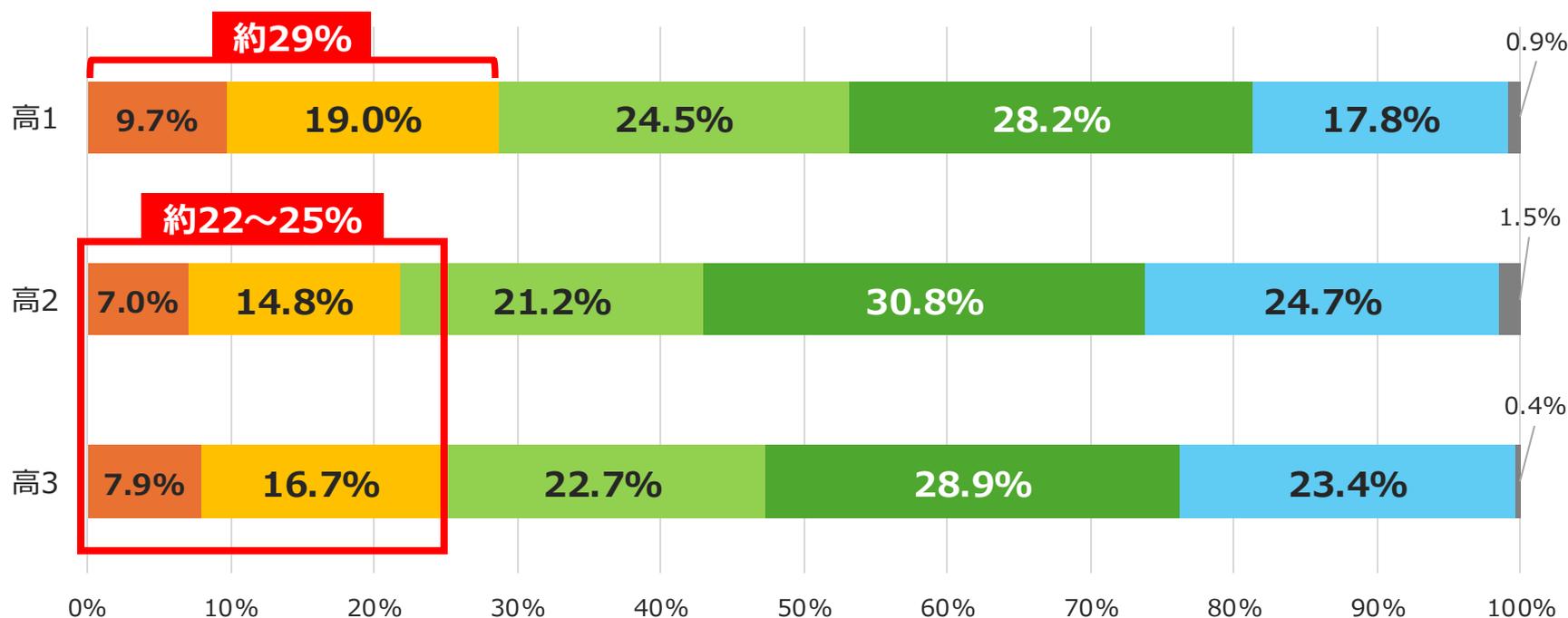


## 1.6.21 積極的に英語を話すようにしていること【R6年度】

- 「積極的に英語を話すようにしている」生徒の割合は、高1が最も高く約29%、高2・3は約22~25%

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
  - 2 - ややあてはまる
  - 3 - どちらともいえない
  - 4 - あまりあてはまらない
  - 5 - あてはまらない
  - 99 - 未記入・誤記入

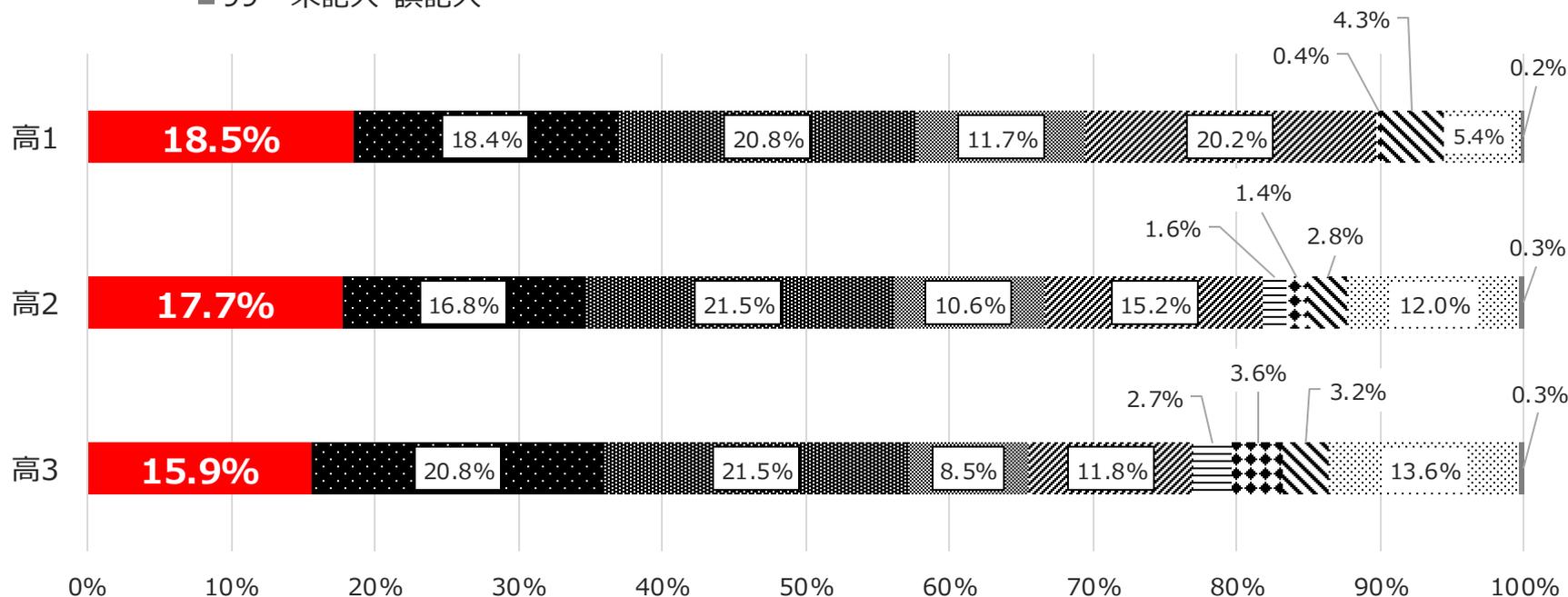


# 1.6.22 得意教科【R6年度】

- 「英語が最も得意だ」と感じる生徒は高1で約19%であり、学年が上がるにつれやや減少
- いずれの学年も「数学が最も得意だ」と感じる生徒の割合のほうが英語よりも高く、国語との比較でも、高1・2では同程度だが、高3になると約5ポイントの差がつく

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 6 - 社会（公民）
  - 7 - 情報
  - 8 - その他
  - 9 - なし
  - 99 - 未記入・誤記入

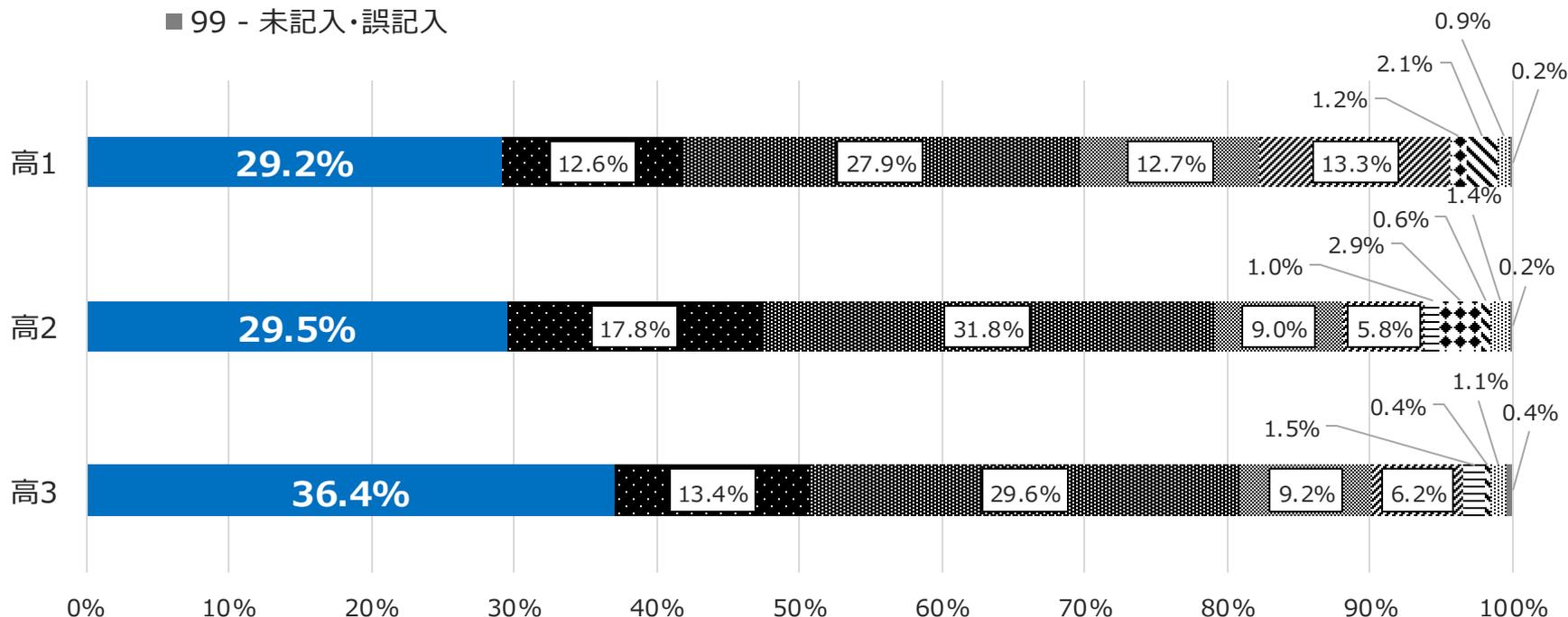


# 1.6.23 苦手教科【R6年度】

- 「英語が最も苦手だ」と感じる生徒は、高1・高2で約29～30%、高3になると約36%に増加
- 高2では「数学が最も苦手だ」と感じる生徒が最も多いが、高1・高3では「英語が苦手」と回答する生徒が最も多い

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 6 - 社会（公民）
  - 7 - 情報
  - 8 - その他
  - 9 - なし
  - 99 - 未記入・誤記入



## 1.7 英語学習調査（経年比較）

集計対象：以下の条件を満たすR1年度、R3年度、R6年度の生徒が集計対象である。

1つの学年次において、

- (a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を80名以上で実施した学校の生徒
- (b) - (a)かつ指定の問題版（※）を受検している生徒
- (c) - (a)かつ(b)かつスタディサポートを受験した生徒

※指定の問題版とは、高1 - Basicタイプの第38回、第48回、第66回 高2 - Advancedタイプの通算回第39回、第49回、第67回 高3 - Advancedタイプの通算回第38回、第48回、第66回である。

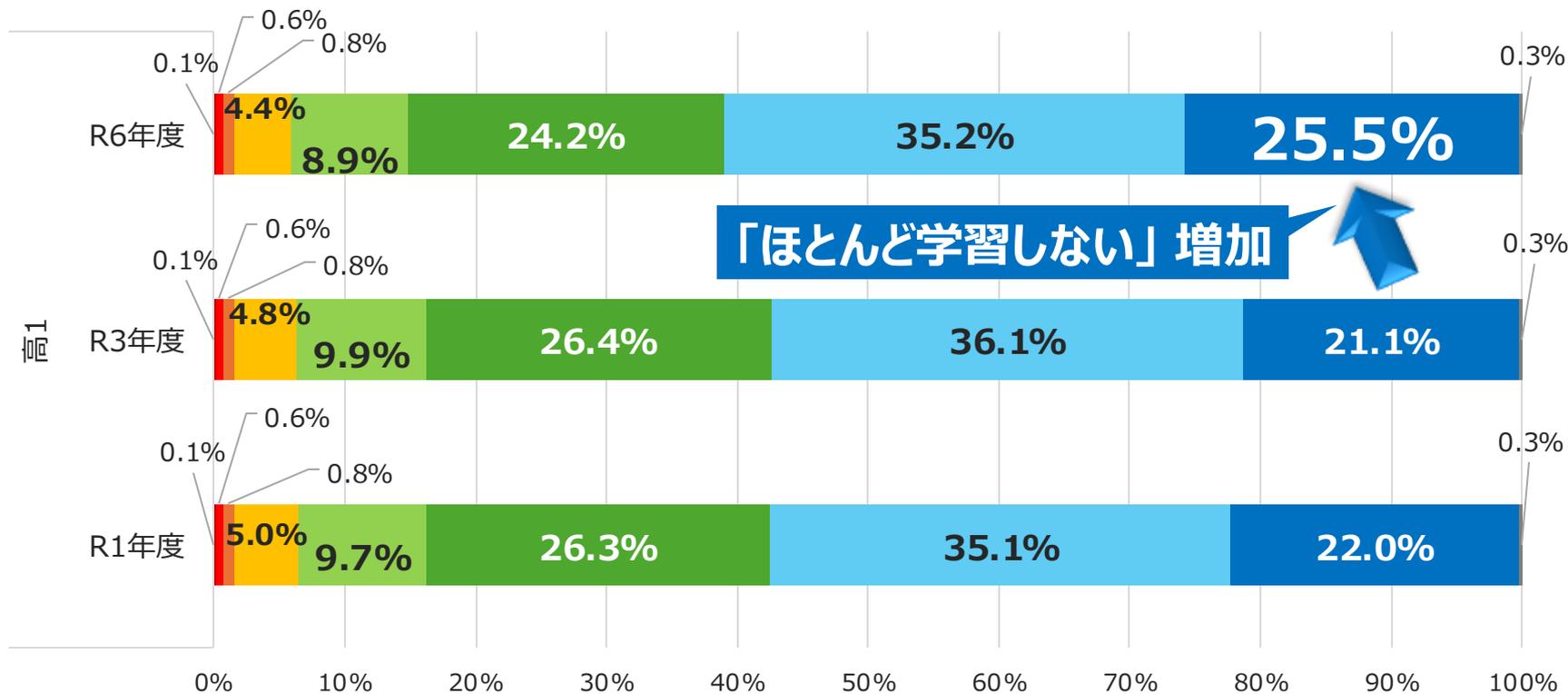
集計対象人数： R1 高1 - 34,349人、高2 - 29,439人、高3 - 6,096人  
R3 高1 - 33,434人、高2 - 28,207人、高3 - 7,853人  
R6 高1 - 27,541人、高2 - 23,828人、高3 - 5,826人

# 1.7.1.1 英語の平日の学習時間【高1】

- いずれの年度も、「30分」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が増加

質問：英語について、中学生のとき、1日にどの程度、自主学習をしていますか。  
最も近い時間を平日について1つ選んでください。

選択肢：  
■ 4時間以上  
■ 2時間  
■ 30分  
■ 3時間  
■ 1時間30分  
■ ほとんどしない  
■ 2時間30分  
■ 1時間  
■ 未記入・誤記入

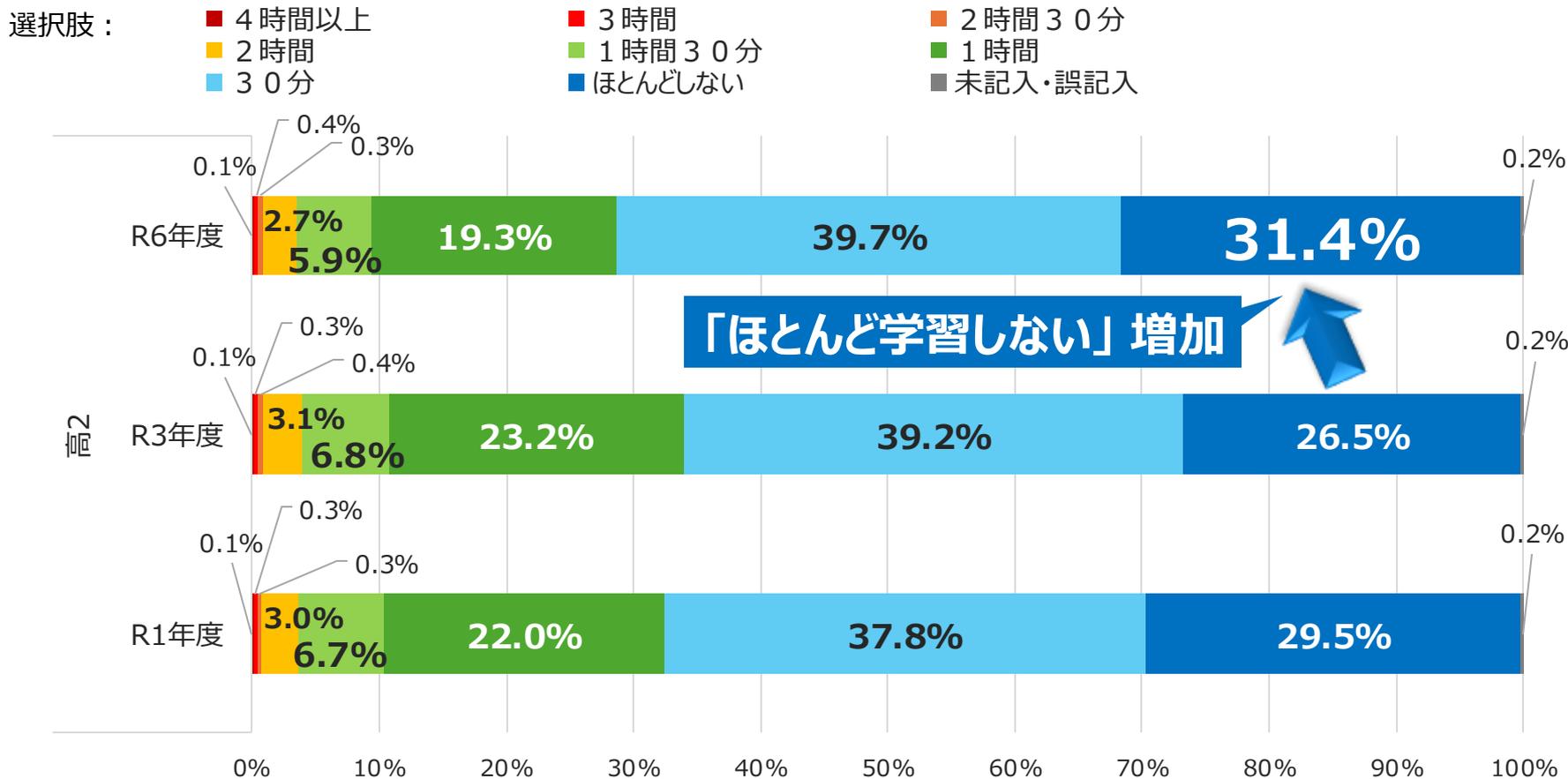


「ほとんど学習しない」増加

# 1.7.1.2 英語の平日の学習時間【高2】

- いずれの年度も、「30分」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が増加

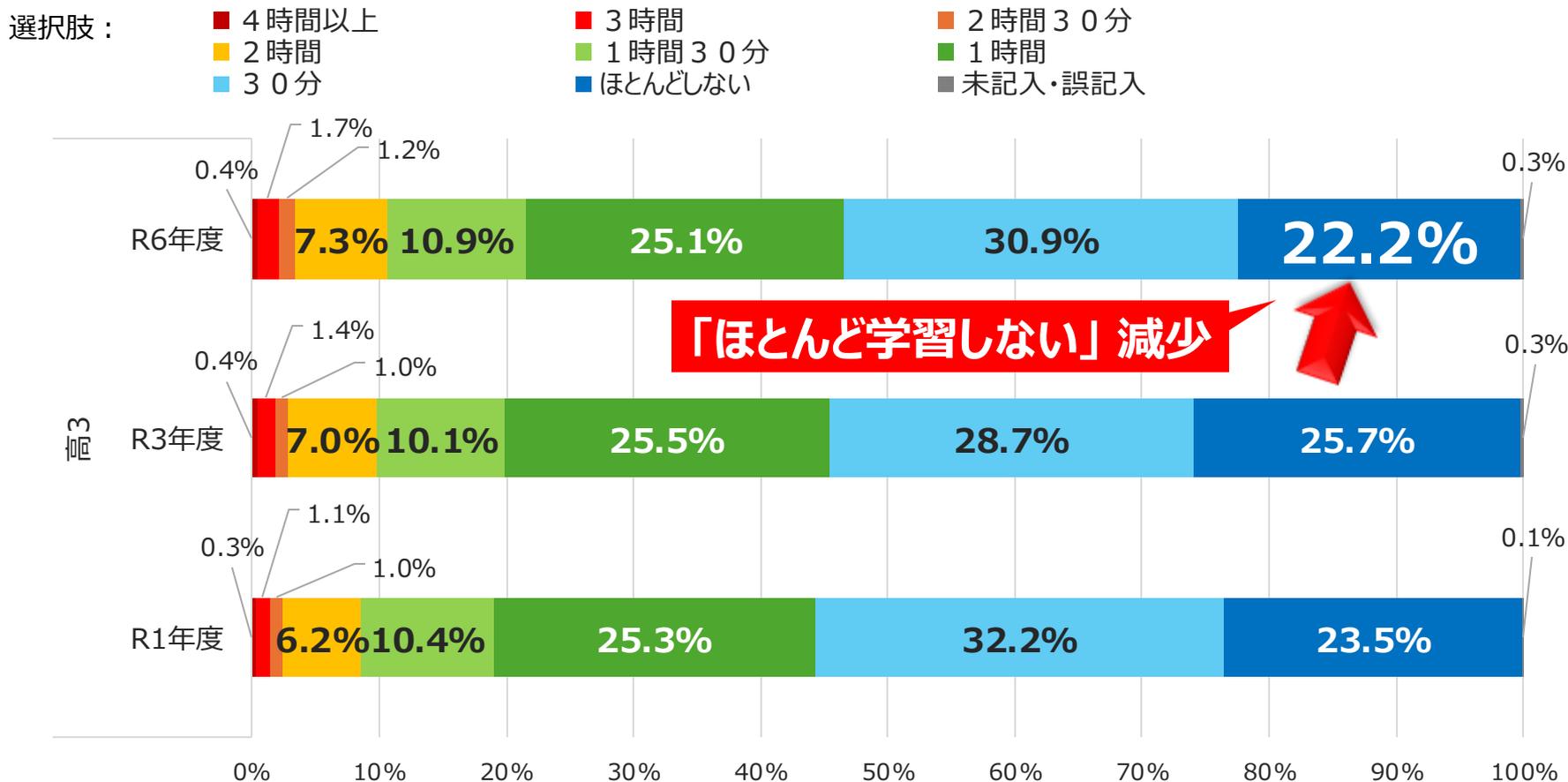
質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を平日について1つ選んでください。



# 1.7.1.3 英語の平日の学習時間【高3】

- いずれの年度も、「30分」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が減少

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を平日について1つ選んでください。

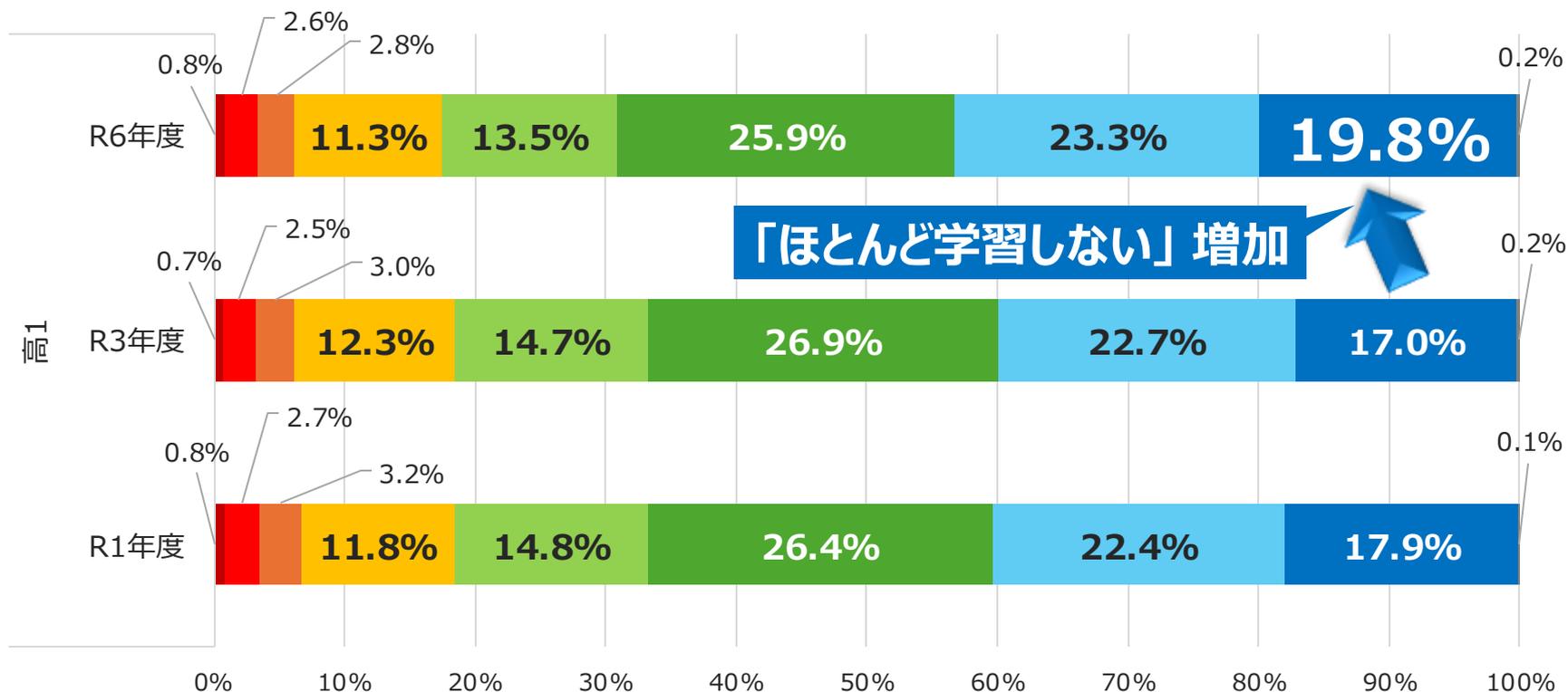


# 1.7.2.1 英語の休日の学習時間【高1】

- いずれの年度も、「1時間」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が増加

質問：英語について、中学生のとき、1日にどの程度、自主学習をしていますか。  
最も近い時間を休日について1つ選んでください。

- 選択肢：
- 4時間以上
  - 3時間
  - 2時間30分
  - 2時間
  - 1時間30分
  - 1時間
  - 30分
  - ほとんどしない
  - 未記入・誤記入



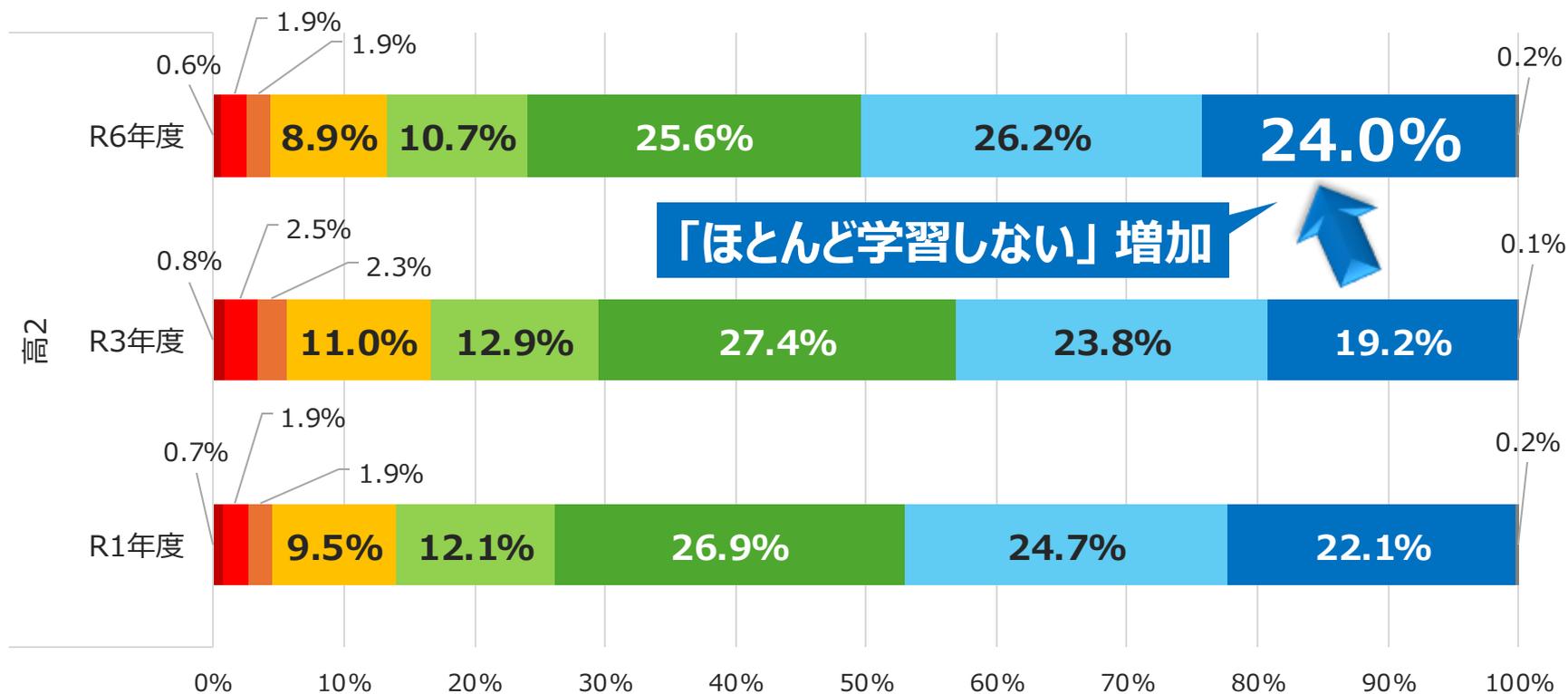
「ほとんど学習しない」増加

## 1.7.2.2 英語の休日の学習時間【高2】

・R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が増加

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を休日について1つ選んでください。

選択肢：  
■ 4時間以上  
■ 2時間  
■ 30分  
■ 3時間  
■ 1時間30分  
■ ほとんどしない  
■ 2時間30分  
■ 1時間  
■ 未記入・誤記入

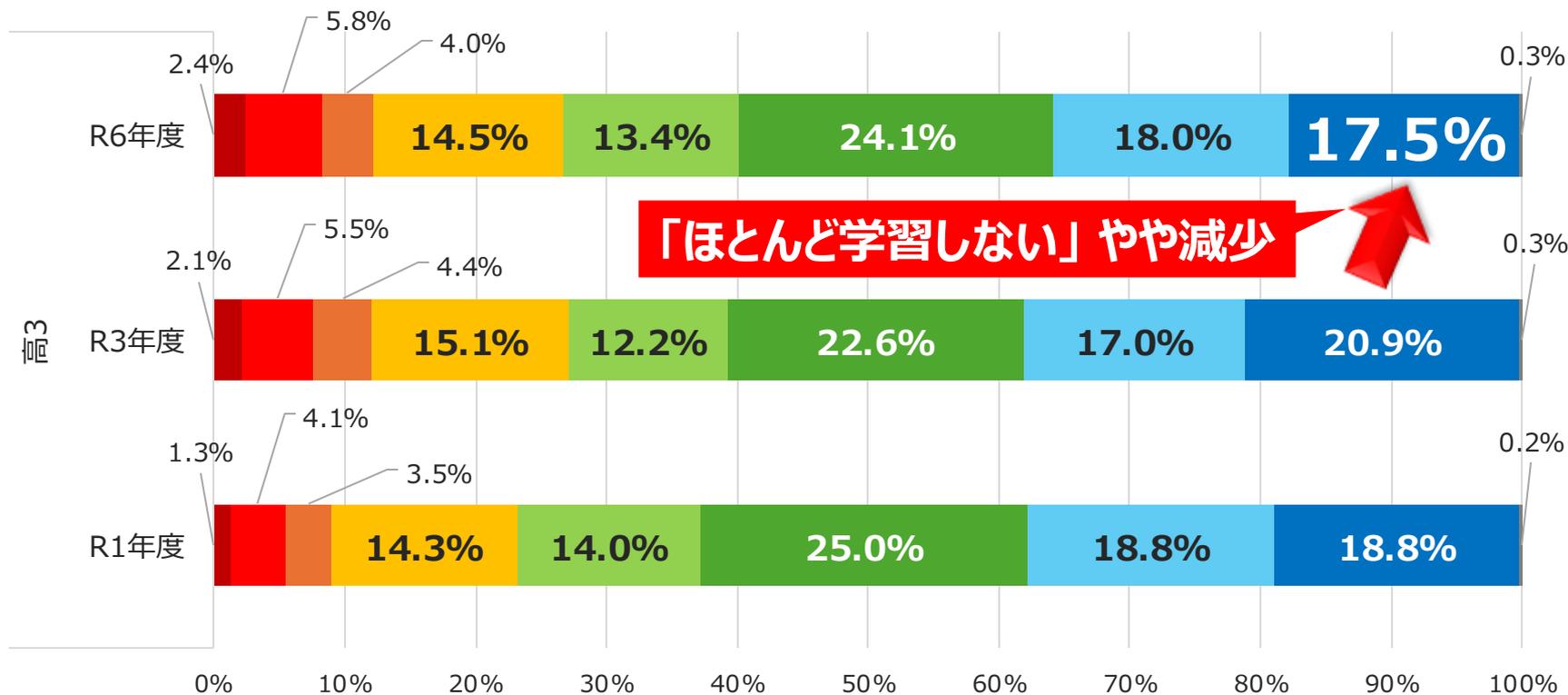


# 1.7.2.3 英語の休日の学習時間【高3】

•R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒がやや減少

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を休日について1つ選んでください。

- 選択肢：
- 4時間以上
  - 3時間
  - 2時間30分
  - 2時間
  - 1時間30分
  - 1時間
  - 30分
  - ほとんどしない
  - 未記入・誤記入

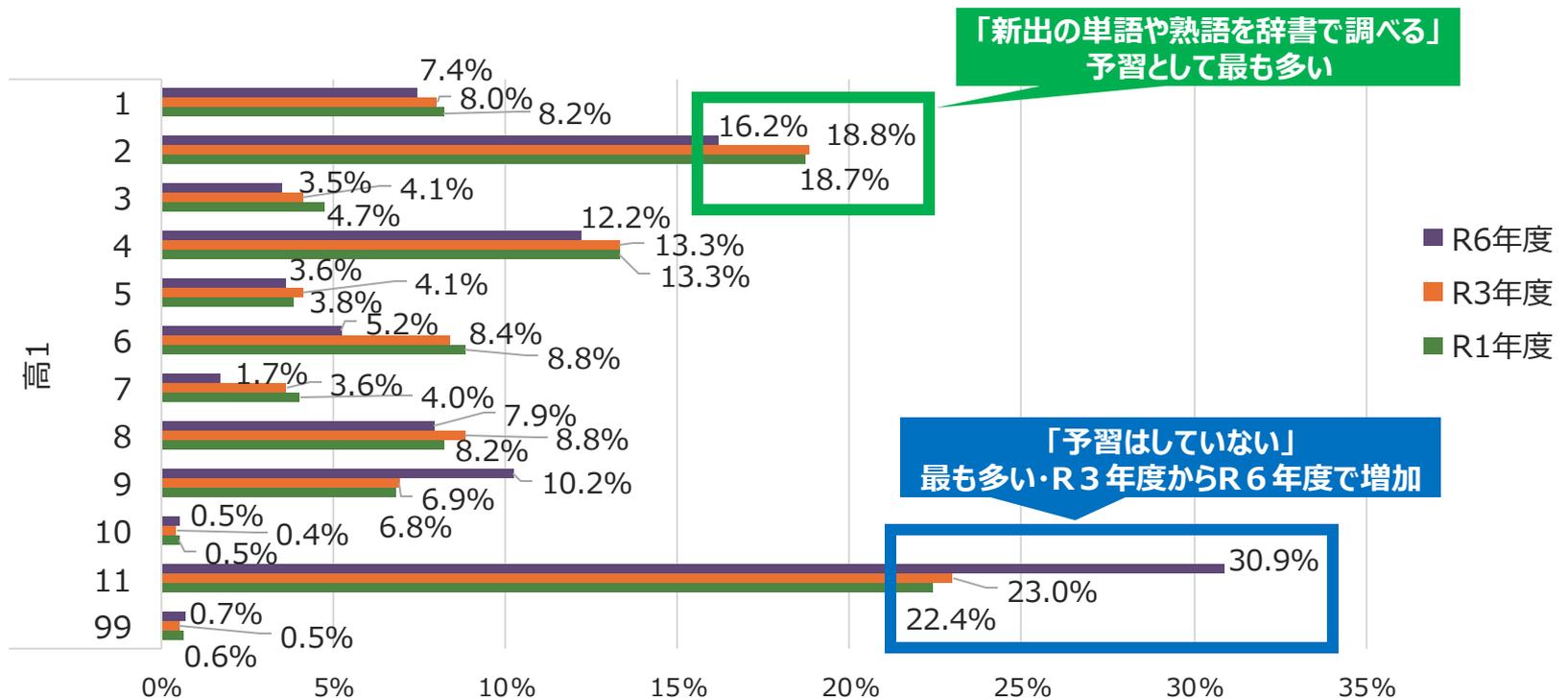


# 1.7.3.1 英語の授業の予習への取り組み【高1】

- いずれの年度も、「予習はしていない」と回答した生徒が最も多く、R3年度からR6年度で増加
- いずれの年度も、予習として「新出の単語や熟語を辞書で調べる」生徒が最も多い

質問：英語について、中学生のときの授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。

- 選択肢：
- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 教科書の本文を声に出して読む      | 2. 新出の単語や熟語を辞書で調べる      |
| 3. 本文を要約しておく           | 4. 本文を訳しておく（または訳を覚えておく） |
| 5. わからない文法事項を参考書などで調べる | 6. 本文をノートに写し授業で書き込むよう準備 |
| 7. 教科書のリスニングCDを聞く      | 8. 予習用のワークブックやプリントに取り組む |
| 9. その他／その他の取り組み方で予習をする | 10. 予習しないよう指示されている      |
| 11. 予習はしていない           | 99. 未記入・誤記入             |

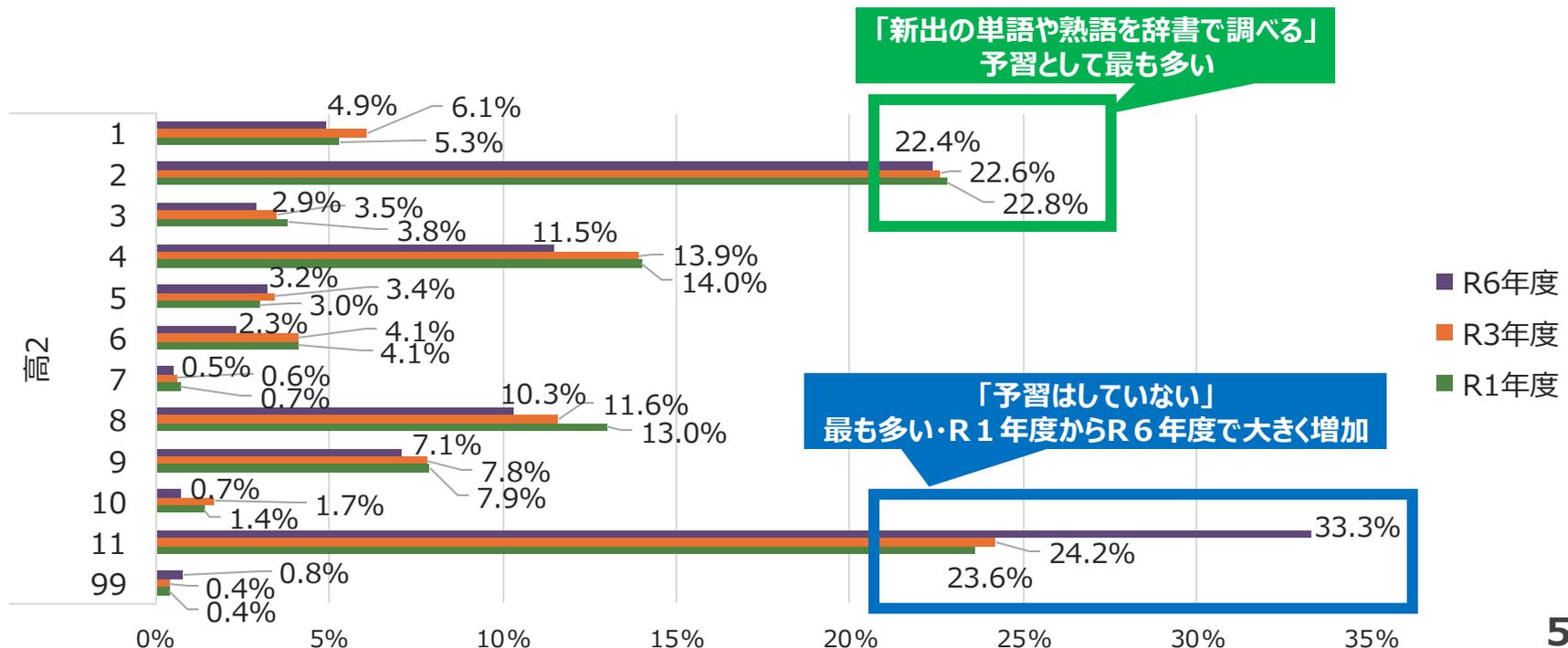


## 1.7.3.2 英語の授業の予習への取り組み【高2】

- いずれの年度も、「予習はしていない」と回答した生徒が最も多く、R1年度からR6年度で大きく増加
- いずれの年度も、予習として「新出の単語や熟語を辞書で調べる」生徒が最も多い

質問：英語について、授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。

- 選択肢：
- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 教科書の本文を声に出して読む      | 2. 新出の単語や熟語を辞書で調べる      |
| 3. 本文を要約しておく           | 4. 本文を訳しておく（または訳を考えておく） |
| 5. わからない文法事項を参考書などで調べる | 6. 本文をノートに写し授業で書き込むよう準備 |
| 7. 教科書のリスニングCDを聞く      | 8. 予習用のワークブックやプリントに取り組む |
| 9. その他／その他の取り組み方で予習をする | 10. 予習しないよう指示されている      |
| 11. 予習はしていない           | 99. 未記入・誤記入             |

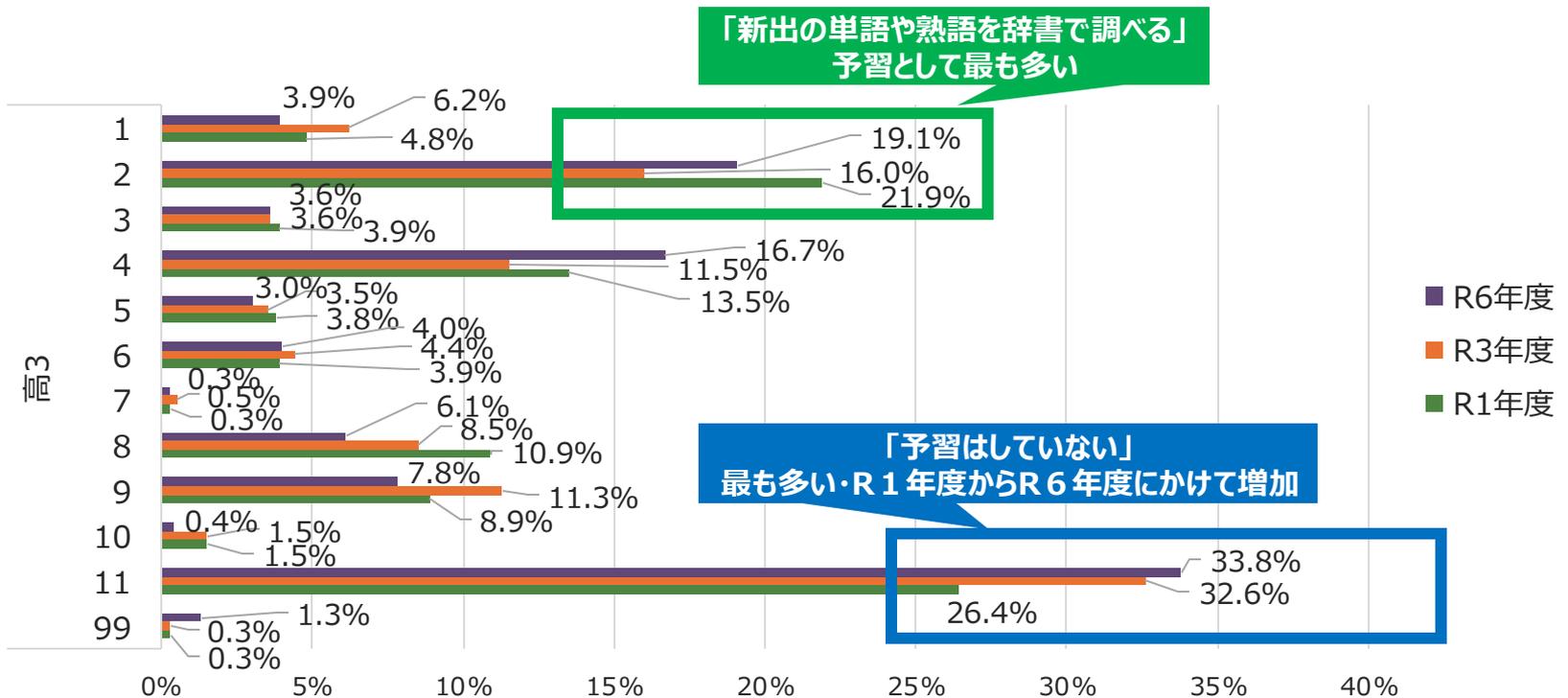


# 1.7.3.3 英語の授業の予習への取り組み【高3】

- いずれの年度も、「予習はしていない」と回答した生徒が最も多く、R1年度からR6年度にかけて増加
- いずれの年度も、予習として「新出の単語や熟語を辞書で調べる」生徒が最も多い

質問：英語について、授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。

- 選択肢：
- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 教科書の本文を声に出して読む      | 2. 新出の単語や熟語を辞書で調べる      |
| 3. 本文を要約しておく           | 4. 本文を訳しておく（または訳を考えておく） |
| 5. わからない文法事項を参考書などで調べる | 6. 本文をノートに写し授業で書き込むよう準備 |
| 7. 教科書のリスニングCDを聞く      | 8. 予習用のワークブックやプリントに取り組む |
| 9. その他／その他の取り組み方で予習をする | 10. 予習しないよう指示されている      |
| 11. 予習はしていない           | 99. 未記入・誤記入             |

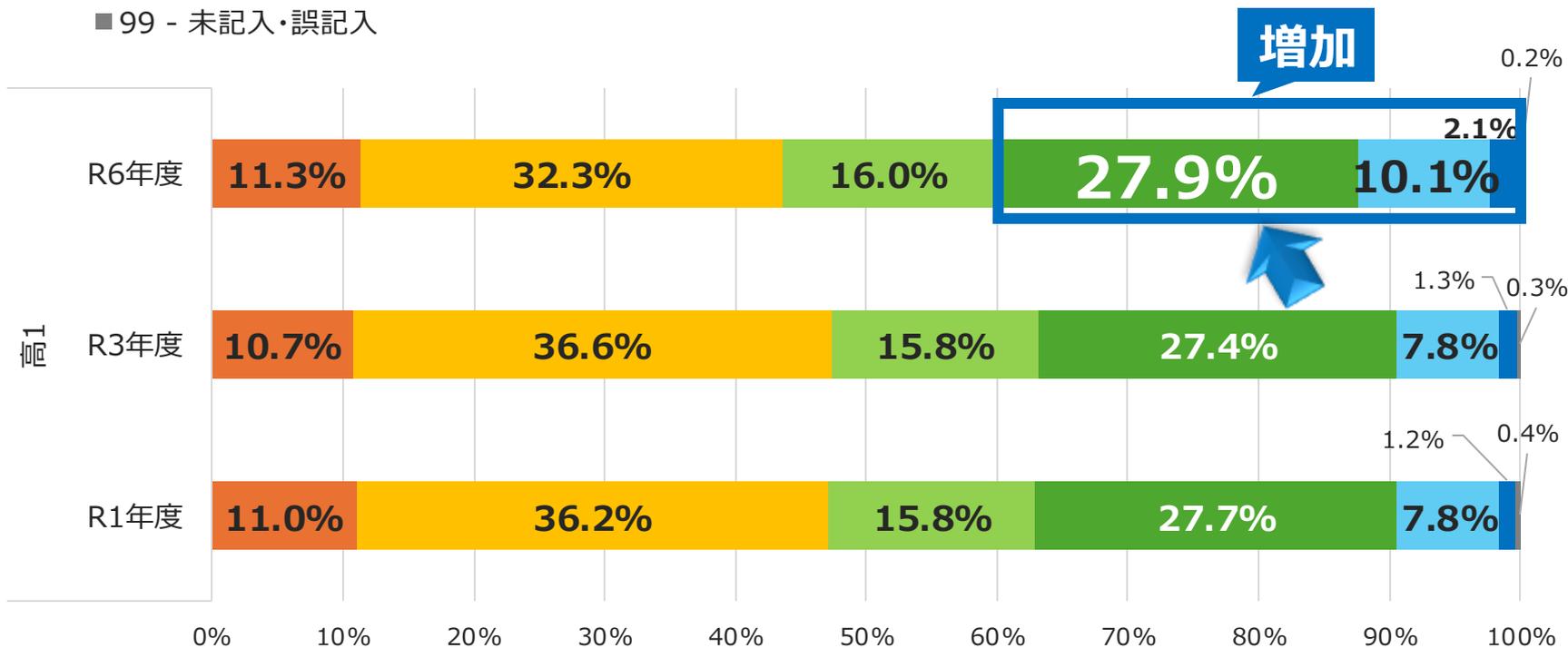


# 1.7.4.1 授業理解度（英語）【高1】

- いずれの年度も、「理解できているが少し不安である」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「（非常に）不安である」や「あきらめかけている」生徒は増加

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
  - 2 - 理解できているが少し不安である
  - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
  - 4 - 少しわからないところがあり不安である
  - 5 - 授業についていけず非常に不安である
  - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
  - 99 - 未記入・誤記入

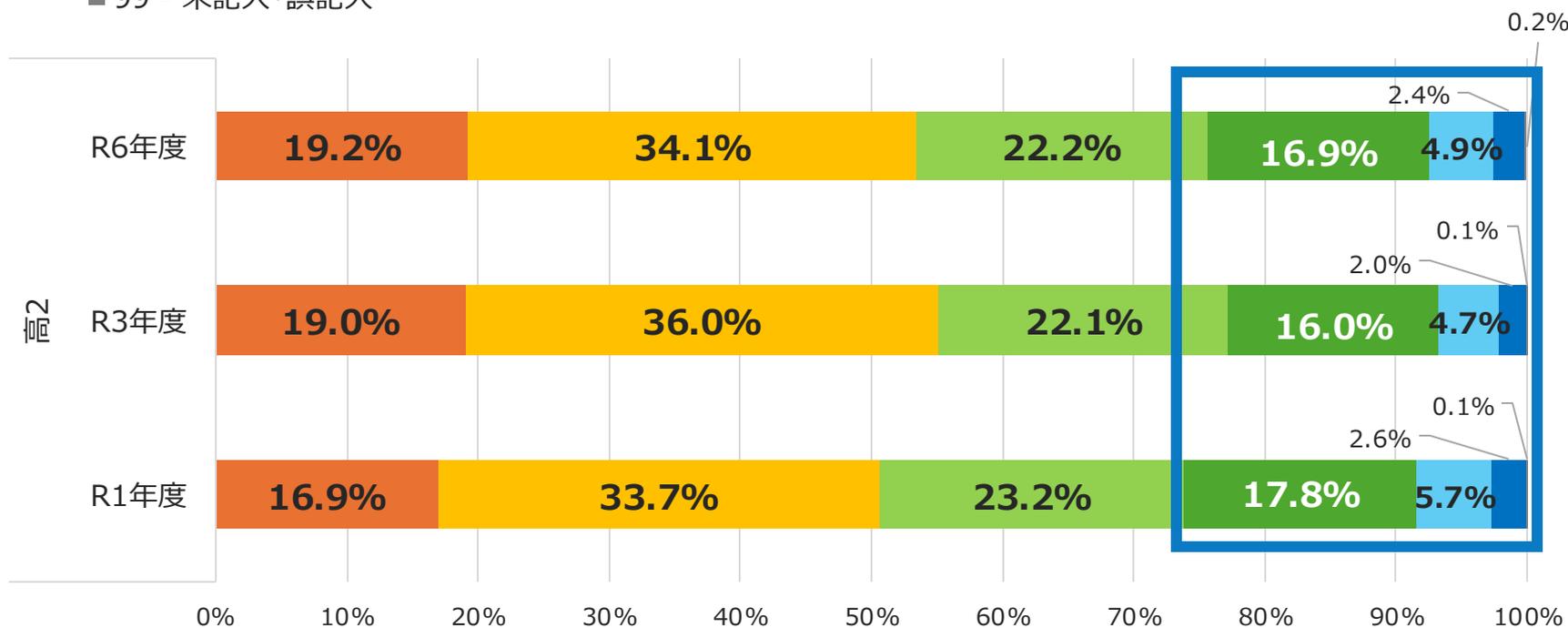


## 1.7.4.2 授業理解度（英語）【高2】

- いずれの年度も、「理解できているが少し不安である」と回答した生徒が最も多い
- 「（非常に）不安である」や「あきらめかけている」生徒も一定割合存在

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
  - 2 - 理解できているが少し不安である
  - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
  - 4 - 少しわからないところがあり不安である
  - 5 - 授業についていけず非常に不安である
  - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
  - 99 - 未記入・誤記入

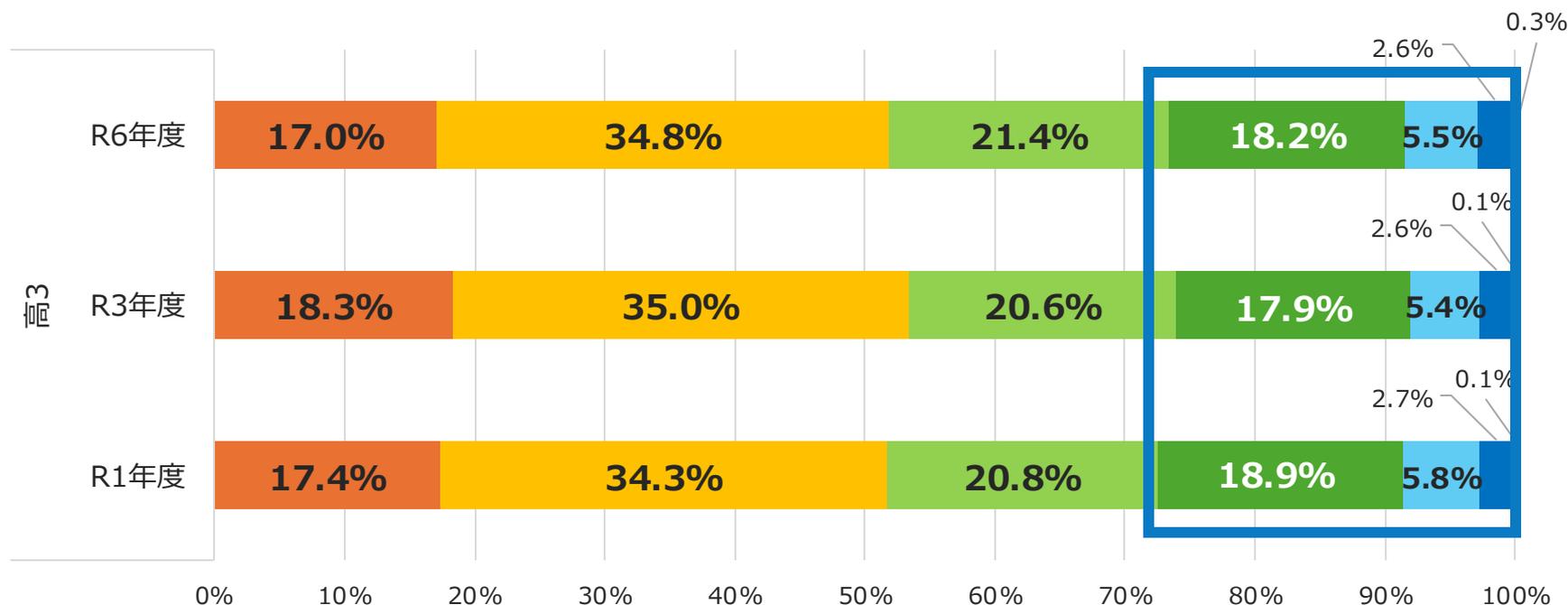


# 1.7.4.3 授業理解度（英語）【高3】

- いずれの年度も、「理解できているが少し不安である」と回答した生徒が最も多い
- 「（非常に）不安である」や「あきらめかけている」生徒も一定割合存在

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
  - 2 - 理解できているが少し不安である
  - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
  - 4 - 少しわからないところがあり不安である
  - 5 - 授業についていけず非常に不安である
  - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
  - 99 - 未記入・誤記入

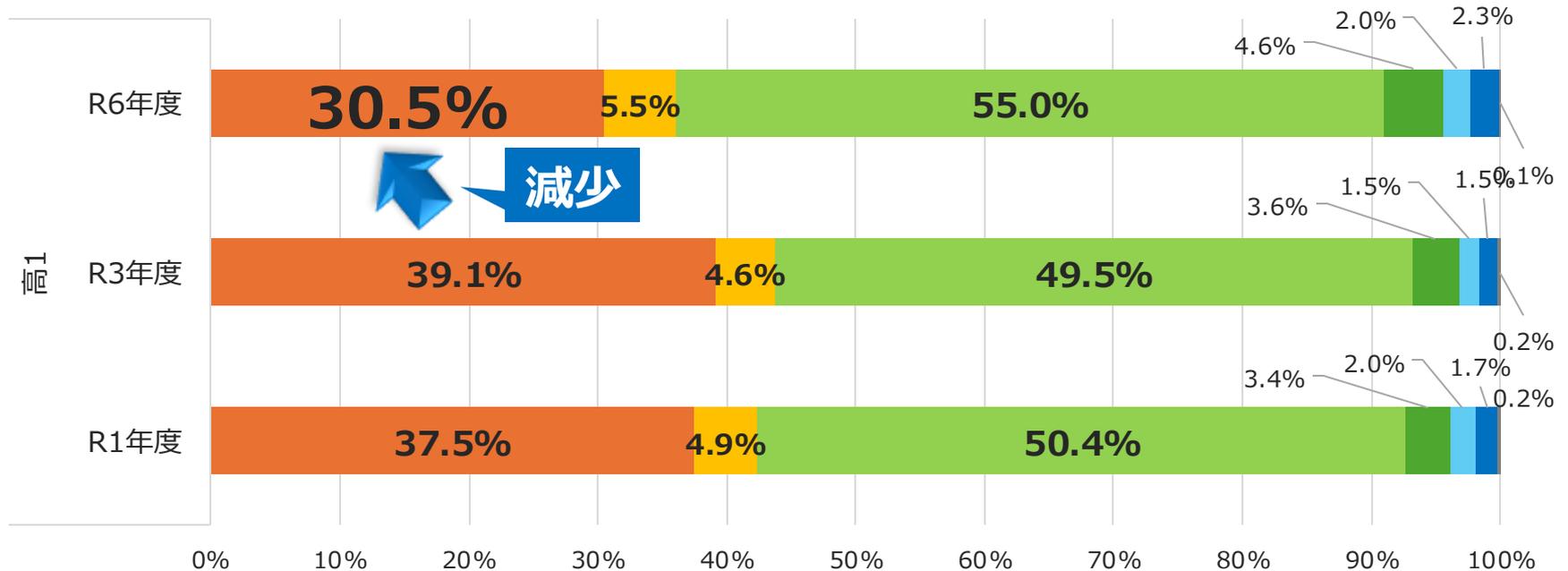


# 1.7.5.1 英語の宿題・授業の復習への取り組み【高1】

- いずれの年度も、「宿題はしているが復習はしていない」と回答した生徒が最も多い（約50～55%）
- R3年度からR6年度にかけて、「宿題と復習は必ずする」と回答した生徒は減少

質問：英語について、中学生のときの宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
  - 2 - 宿題はしていないが復習はする
  - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
  - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
  - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
  - 6 - 宿題も復習もしていない
  - 99 - 未記入・誤記入

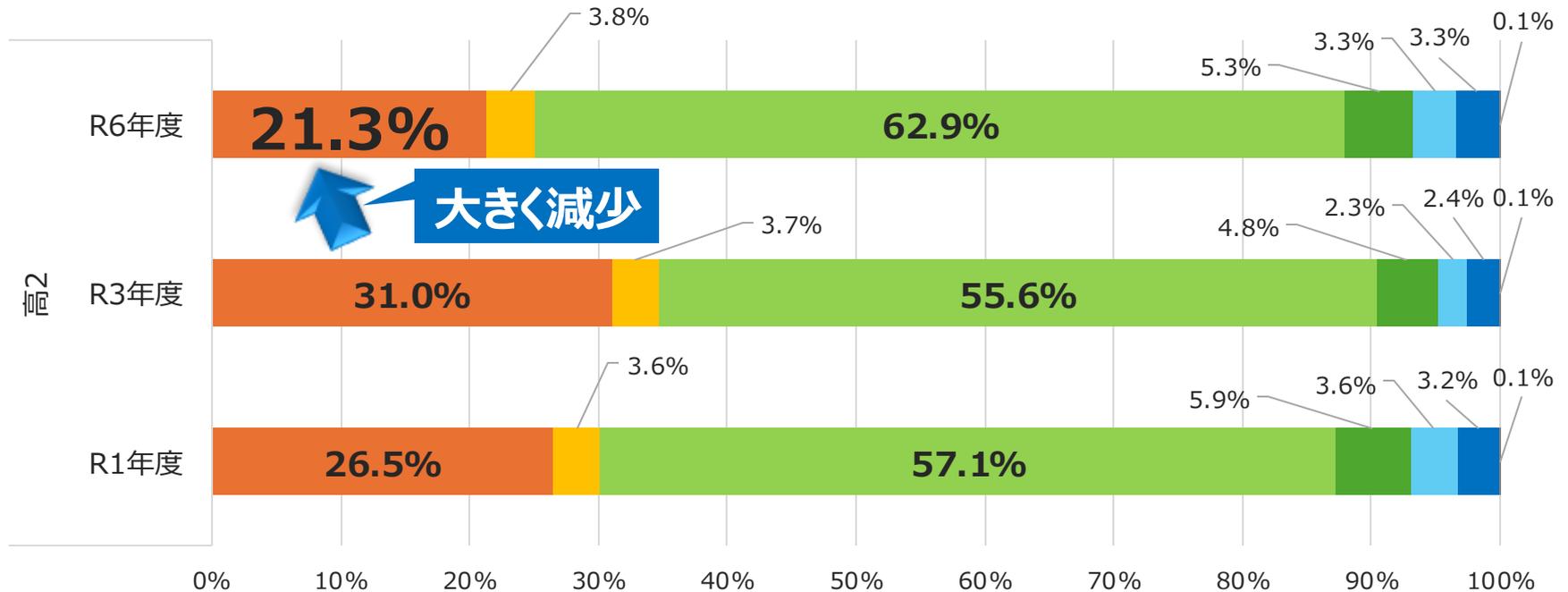


## 1.7.5.2 英語の宿題・授業の復習への取り組み【高2】

- いずれの年度も、「宿題はしているが復習はしていない」と回答した生徒が最も多い（約56～63%）
- R3年度からR6年度にかけて、「宿題と復習は必ずする」と回答した生徒は大きく減少

質問：英語について、宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
  - 2 - 宿題はしていないが復習はする
  - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
  - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
  - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
  - 6 - 宿題も復習もしていない
  - 99 - 未記入・誤記入

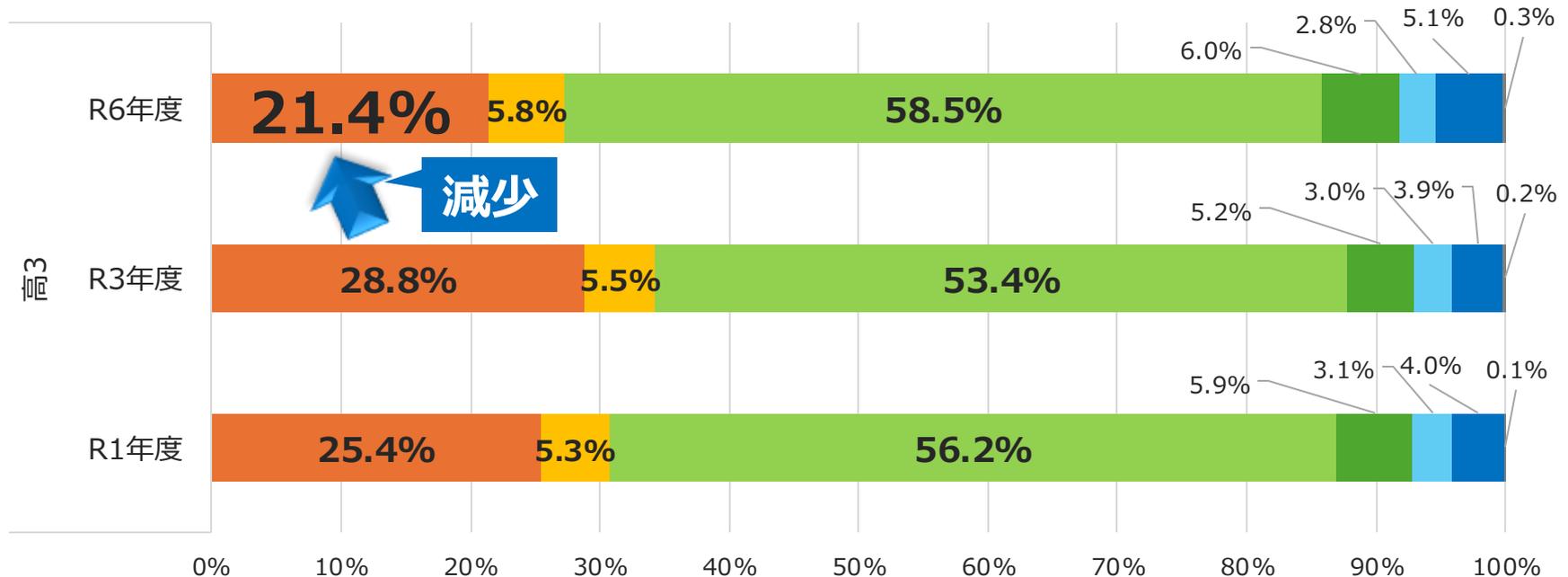


# 1.7.5.3 英語の宿題・授業の復習への取り組み【高3】

- いずれの年度も、「宿題はしているが復習はしていない」と回答した生徒が最も多い（約53～59%）
- R3年度からR6年度にかけて、「宿題と復習は必ずする」と回答した生徒は減少

質問：英語について、宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
  - 2 - 宿題はしていないが復習はする
  - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
  - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
  - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
  - 6 - 宿題も復習もしていない
  - 99 - 未記入・誤記入

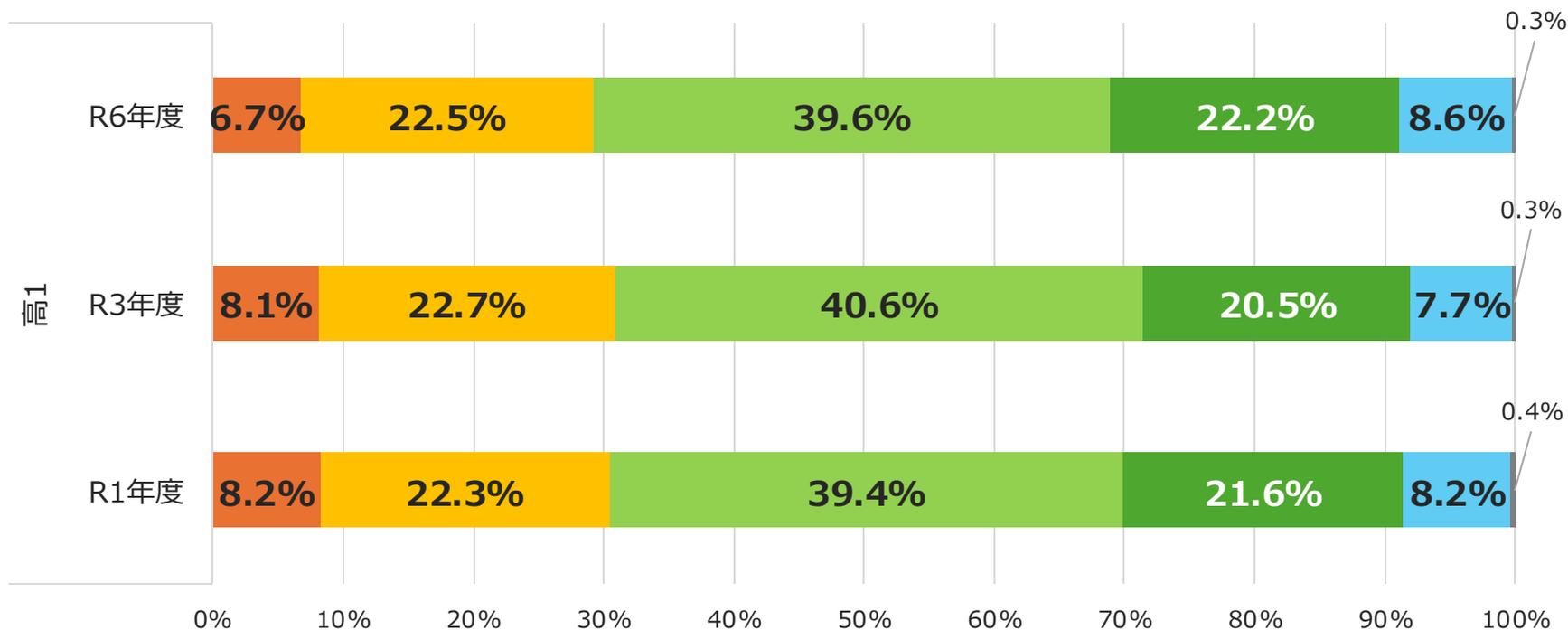


# 1.7.6.1 英語の定期試験後の復習【高1】

- いずれの年度も、「間違えた理由を確認したりして理解する」と回答した生徒が最も多い

質問：英語について、中学生のとき、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組めますか。  
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢： ■ 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する    ■ 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する  
■ 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する    ■ 4 - 間違えたところだけは確認する  
■ 5 - 復習は全くしていない    ■ 99 - 未記入・誤記入

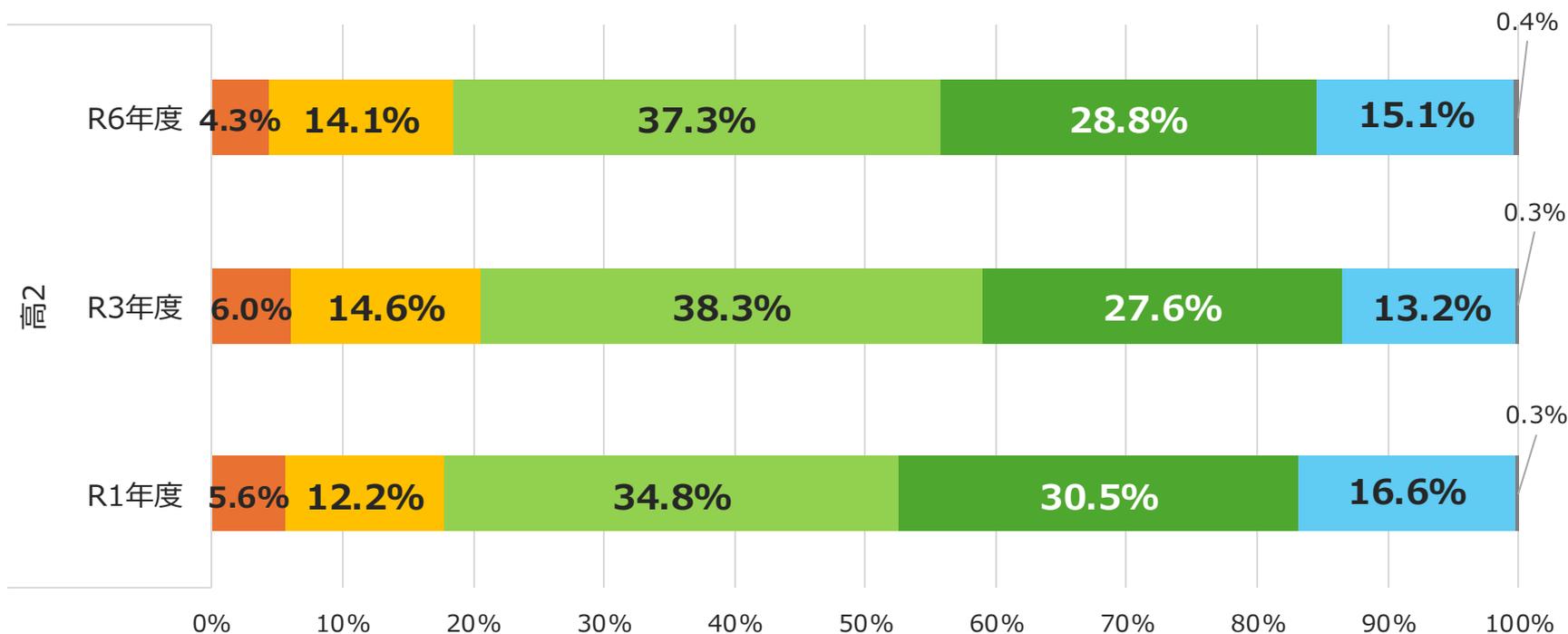


## 1.7.6.2 英語の定期試験後の復習【高2】

- いずれの年度も、「間違えた理由を確認したりして理解する」と回答した生徒が最も多い

質問：英語について、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組めますか。  
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する
  - 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する
  - 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する
  - 4 - 間違えたところだけは確認する
  - 5 - 復習は全くしていない
  - 99 - 未記入・誤記入

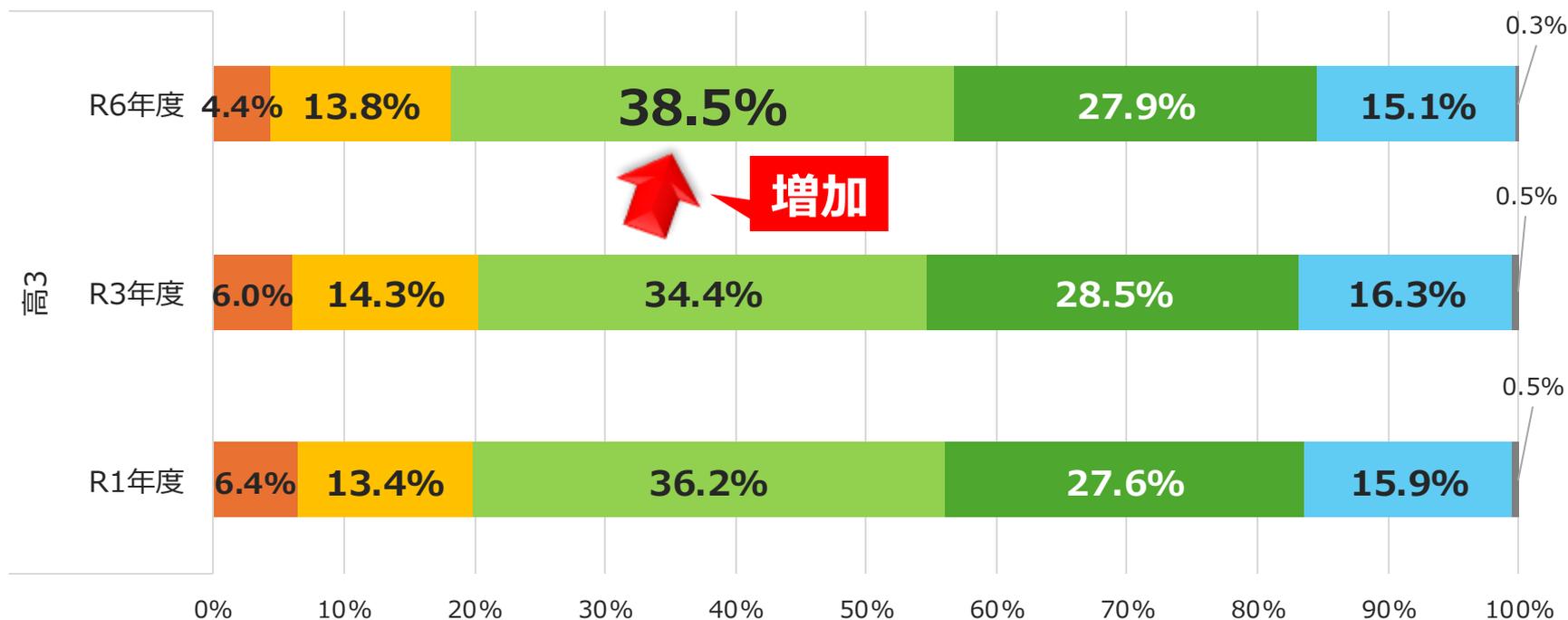


# 1.7.6.3 英語の定期試験後の復習【高3】

- いずれの年度も、「間違えた理由を確認したりして理解する」と回答した生徒が最も多く、R3年度からR6年度にかけて増加

質問：英語について、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組めますか。  
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢： ■ 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する      ■ 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する  
■ 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する      ■ 4 - 間違えたところだけは確認する  
■ 5 - 復習は全くしていない      ■ 99 - 未記入・誤記入

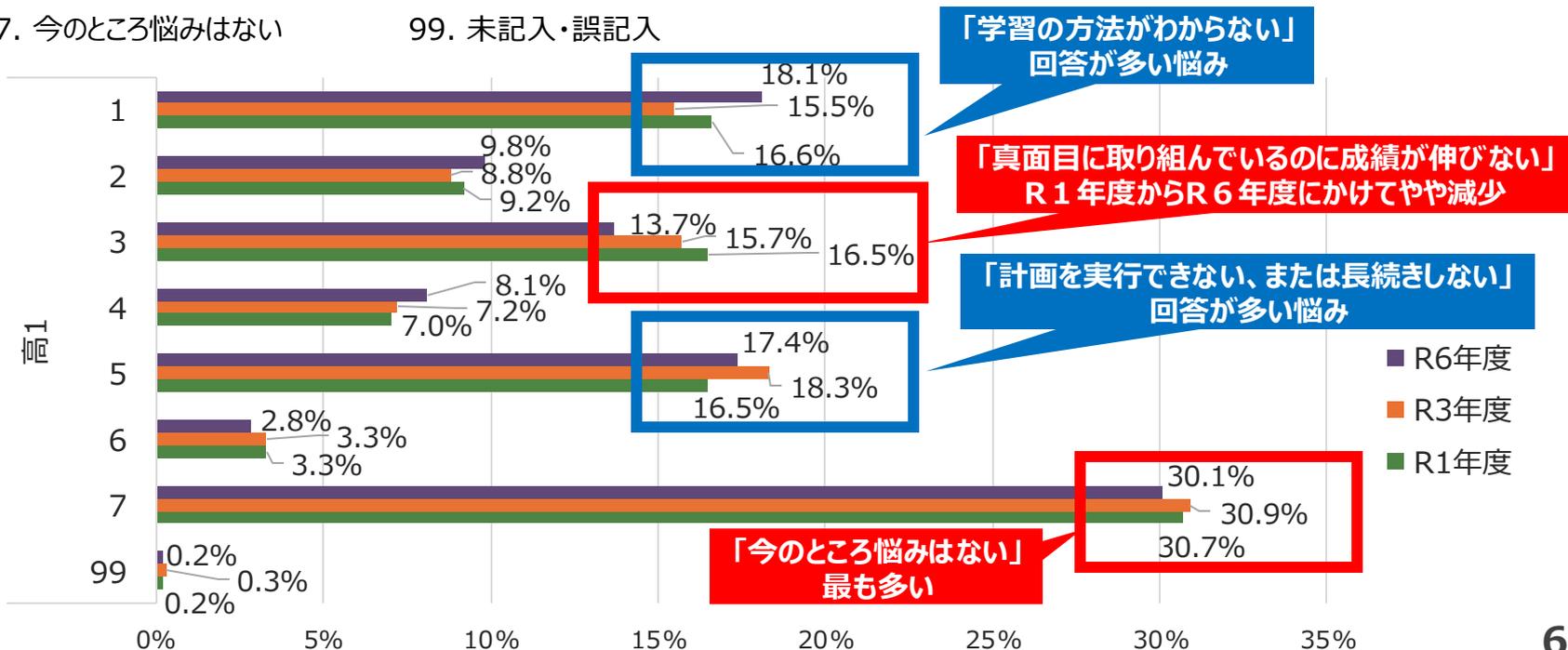


# 1.7.7.1 英語の学習上の悩み【高1】

- いずれの年度も、「今のところ悩みはない」と回答した生徒が最も多い
- 悩みの中では、「学習の方法がわからない」「計画を実行できない・長続きしない」が多い
- 「真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけてやや減少

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。  
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：1. 学習の方法がわからない      2. 授業の進度についていけない      3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない  
4. 学習に集中できない      5. 計画を実行できない、または長続きしない      6. その他  
7. 今のところ悩みはない      99. 未記入・誤記入

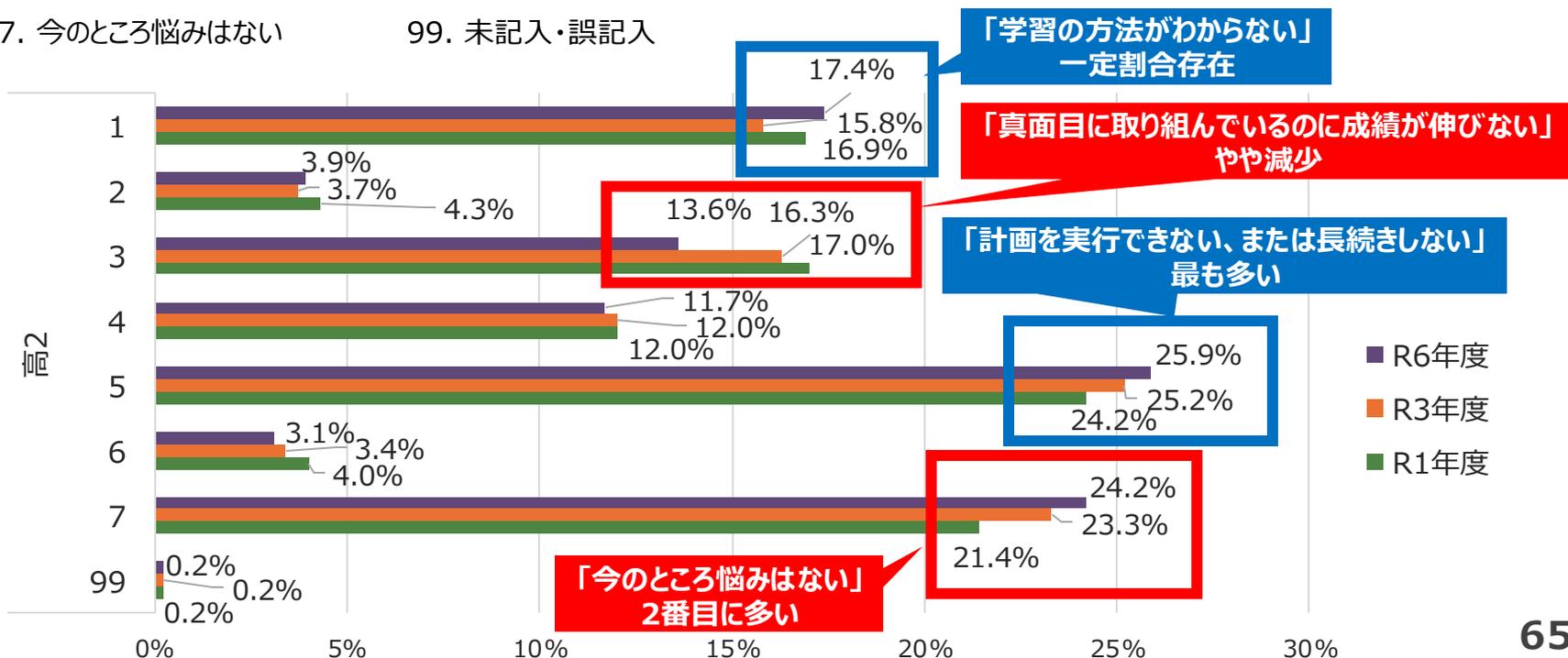


# 1.7.7.2 英語の学習上の悩み【高2】

- いずれの年度も、「計画を実行できない・長続きしない」と回答した生徒が最も多く、次いで「今のところ悩みはない」生徒が多い
- 「真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけてやや減少
- 「学習の方法がわからない」生徒も一定割合存在

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。  
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：1. 学習の方法がわからない      2. 授業の進度についていけない      3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない  
4. 学習に集中できない      5. 計画を実行できない、または長続きしない      6. その他  
7. 今のところ悩みはない      99. 未記入・誤記入

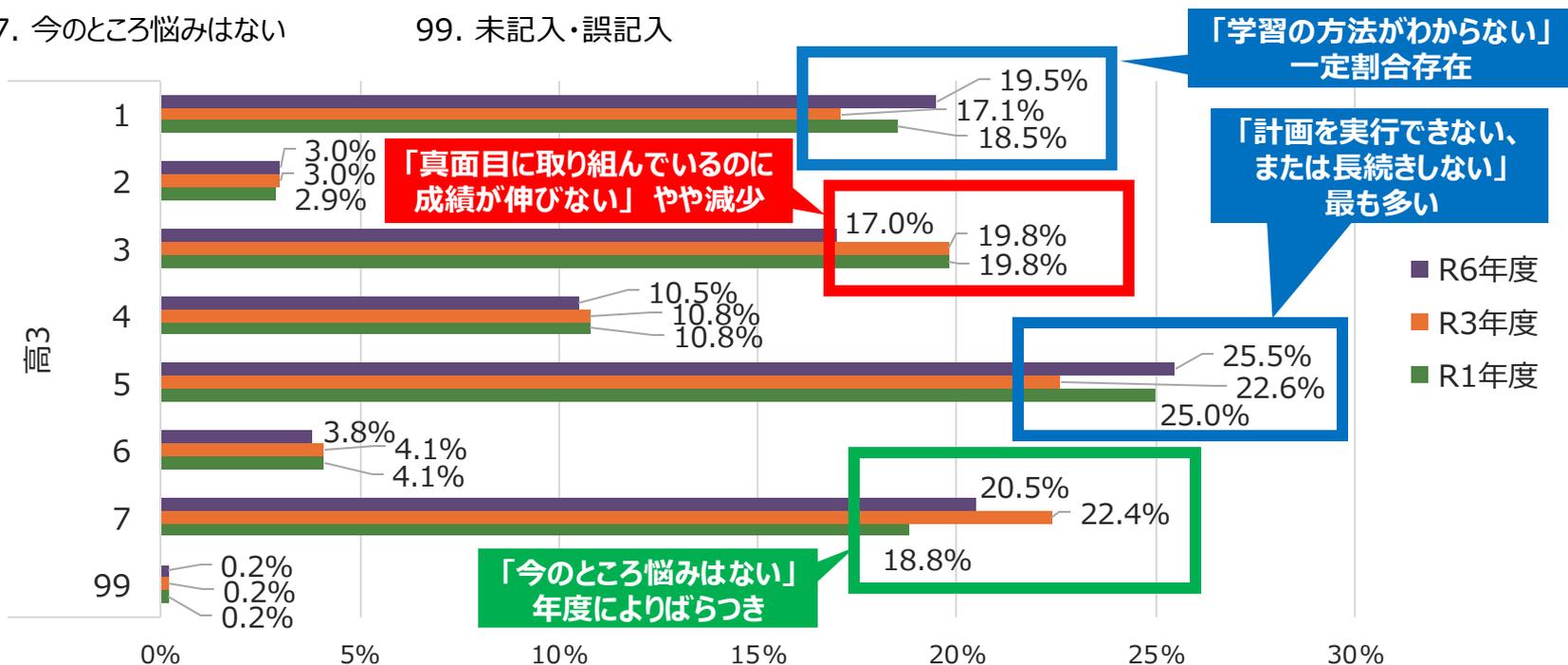


# 1.7.7.3 英語の学習上の悩み【高3】

- いずれの年度も、「計画を実行できない・長続きしない」と回答した生徒が最も多い
- 「今のところ悩みはない」と回答した生徒は、年度により約19～22%と、ばらつきあり
- 「真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけてやや減少
- 「学習の方法がわからない」生徒も一定割合存在

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。  
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢： 1. 学習の方法がわからない      2. 授業の進度についていけない      3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない  
4. 学習に集中できない      5. 計画を実行できない、または長続きしない      6. その他  
7. 今のところ悩みはない      99. 未記入・誤記入



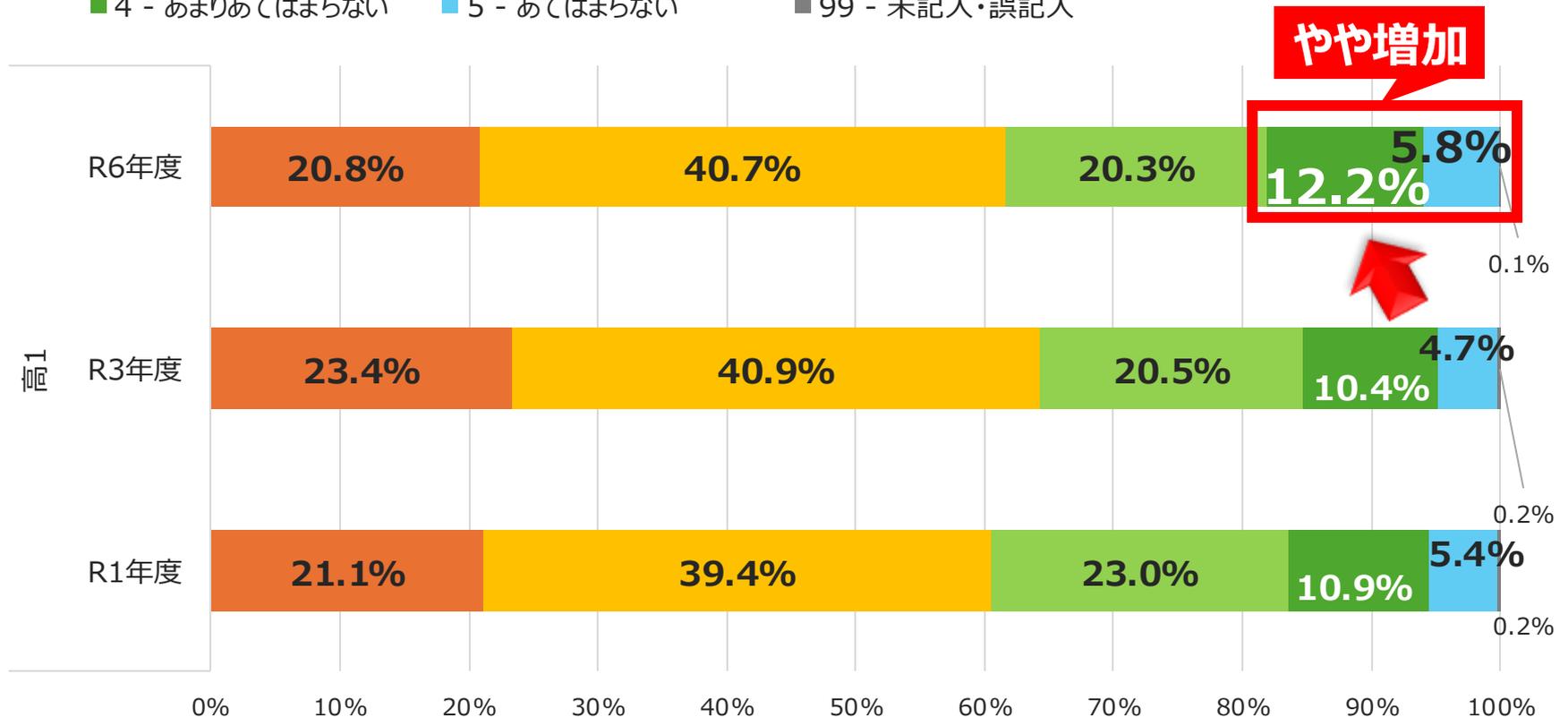
# 1.7.8.1 英語の授業における目標・目的の有無【高1】

- いずれの年度も、「ややあてはまる」と回答した生徒が最も多い（約39～41%）
- R3年度からR6年度にかけて、「（あまり）あてはまらない」と回答した生徒が、やや増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入



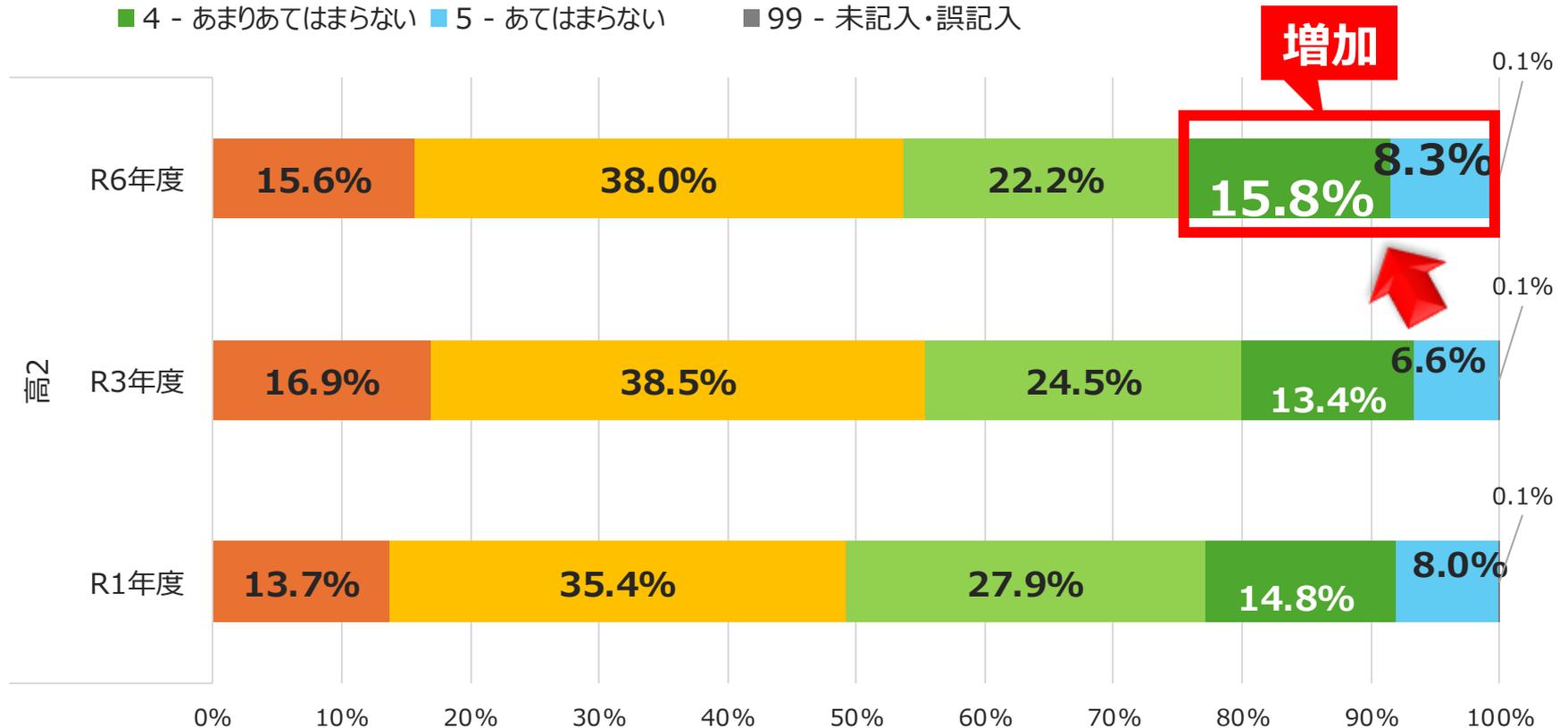
## 1.7.8.2 英語の授業における目標・目的の有無【高2】

- いずれの年度も、「ややあてはまる」と回答した生徒が最も多い（約35～39%）
- R3年度からR6年度にかけて、「（あまり）あてはまらない」と回答した生徒が増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる   ■ 2 - ややあてはまる   ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない   ■ 5 - あてはまらない   ■ 99 - 未記入・誤記入



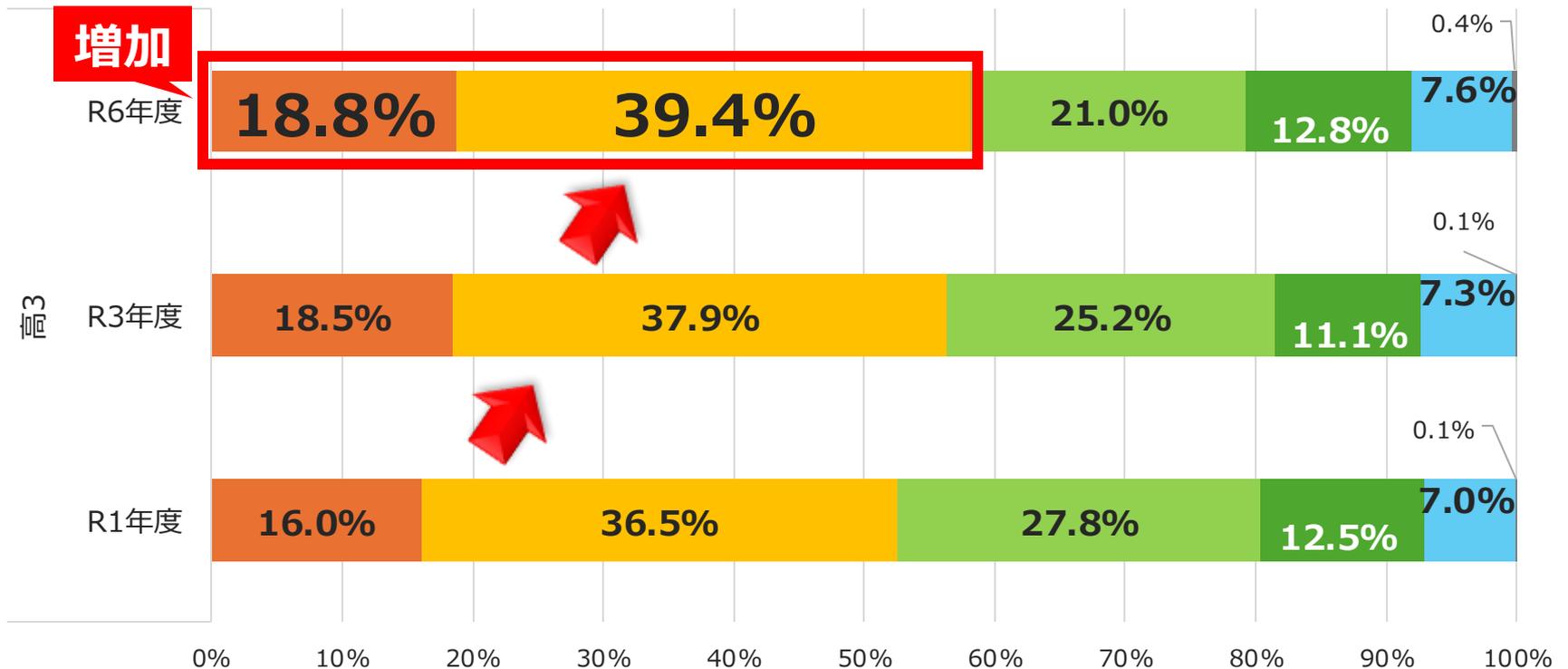
# 1.7.8.3 英語の授業における目標・目的の有無【高3】

- いずれの年度も、「ややあてはまる」と回答した生徒が最も多い（約37～39%）
- R1年度からR6年度にかけて、「（やや）あてはまる」と回答した生徒が増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入



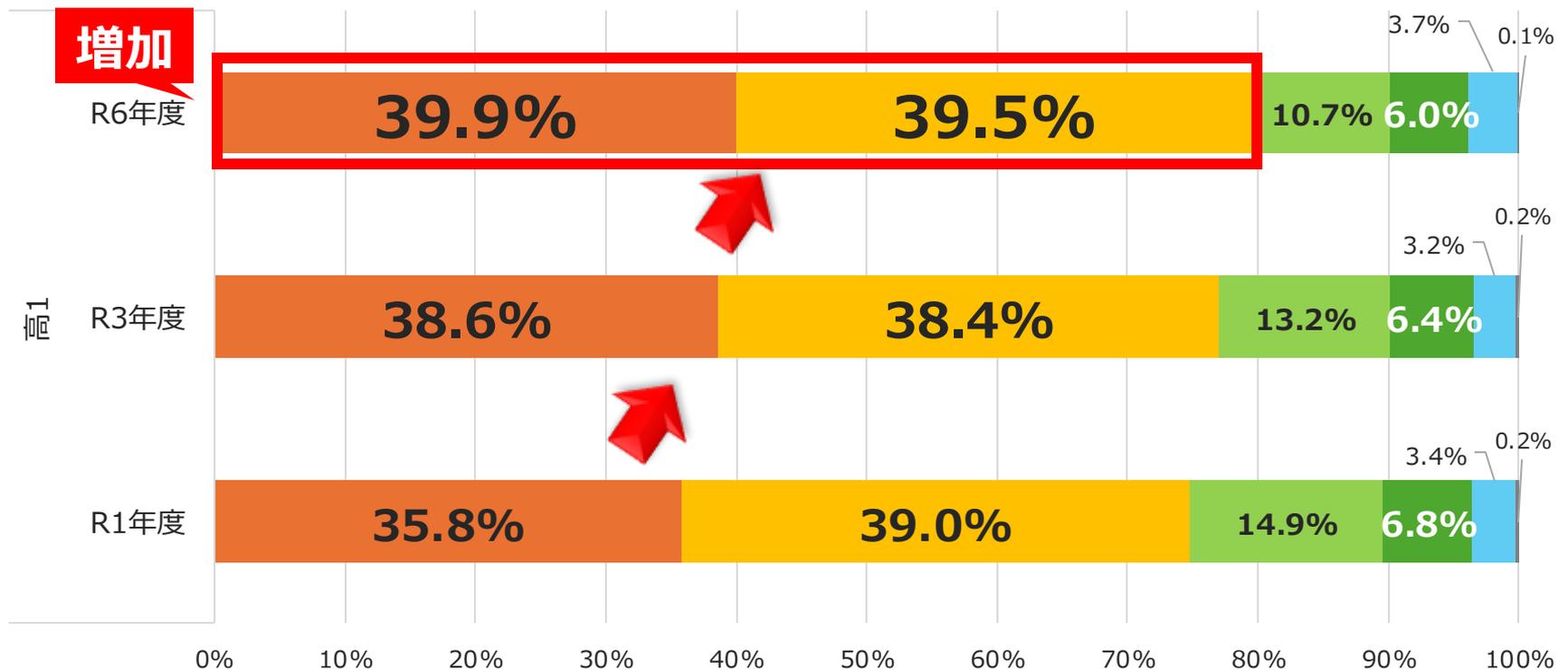
# 1.7.9.1 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【高1】

•R1年度からR6年度にかけて、「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決する」と回答した生徒が増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入



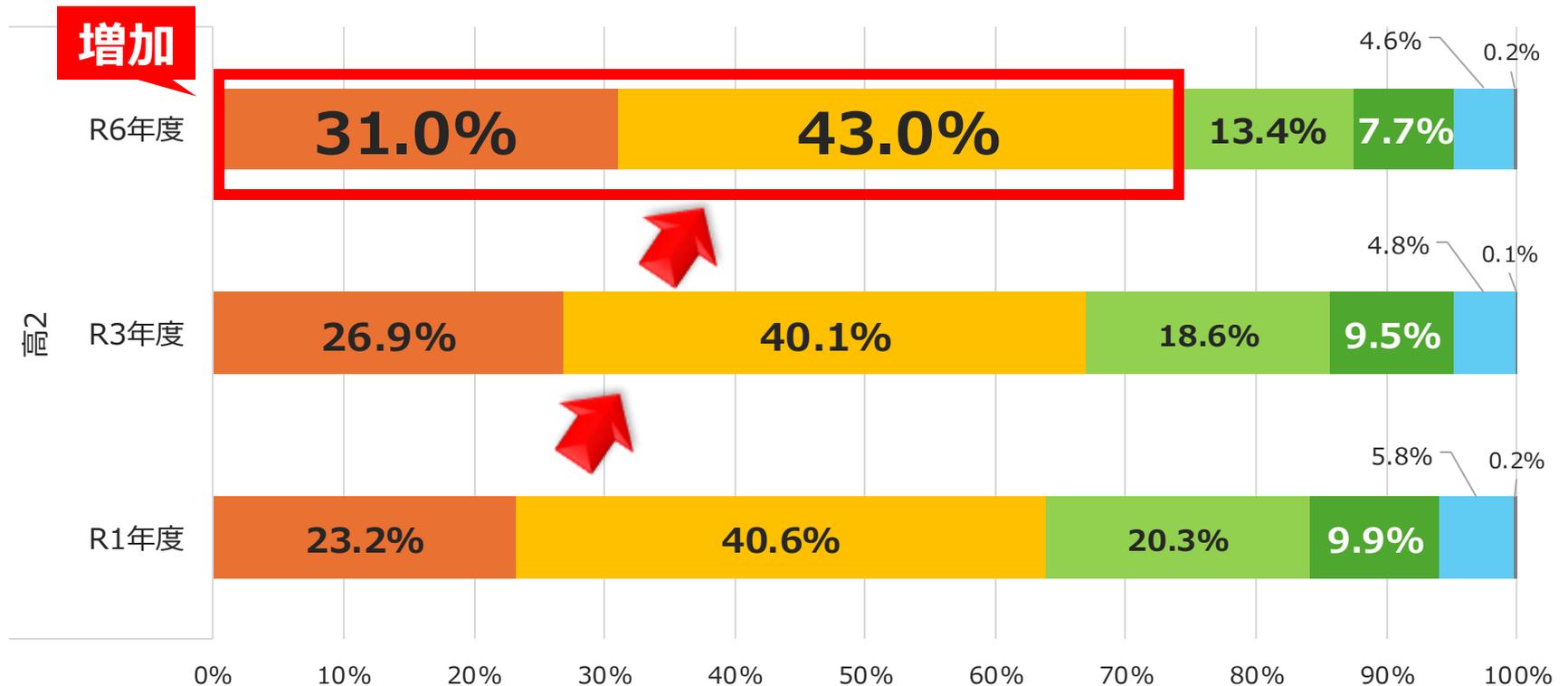
## 1.7.9.2 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【高2】

- いずれの年度も、「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決する」生徒が多く、R1年度からR6年度にかけて増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入



# 1.7.9.3 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【高3】

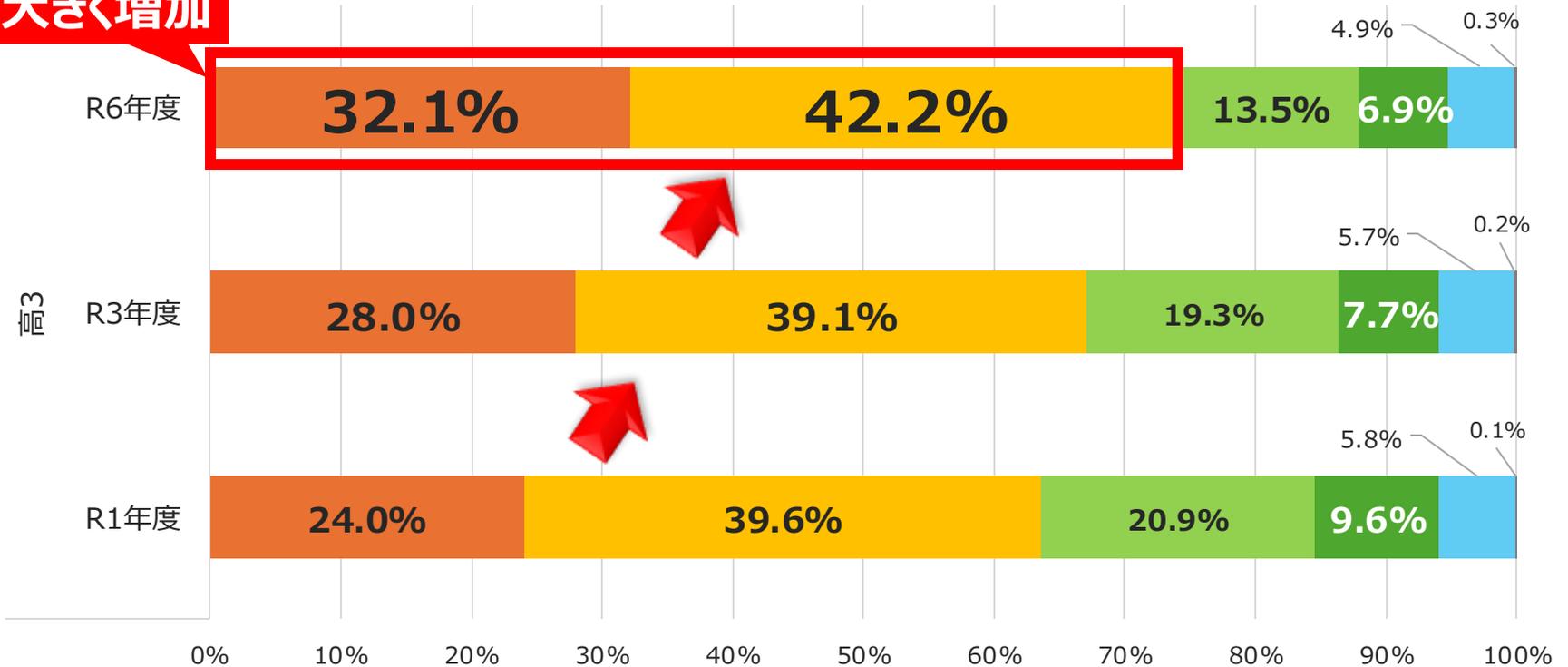
• いずれの年度も、「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決する」生徒が多く、R1年度からR6年度にかけて大きく増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる   ■ 2 - ややあてはまる   ■ 3 - どちらともいえない  
■ 4 - あまりあてはまらない   ■ 5 - あてはまらない   ■ 99 - 未記入・誤記入

**大きく増加**

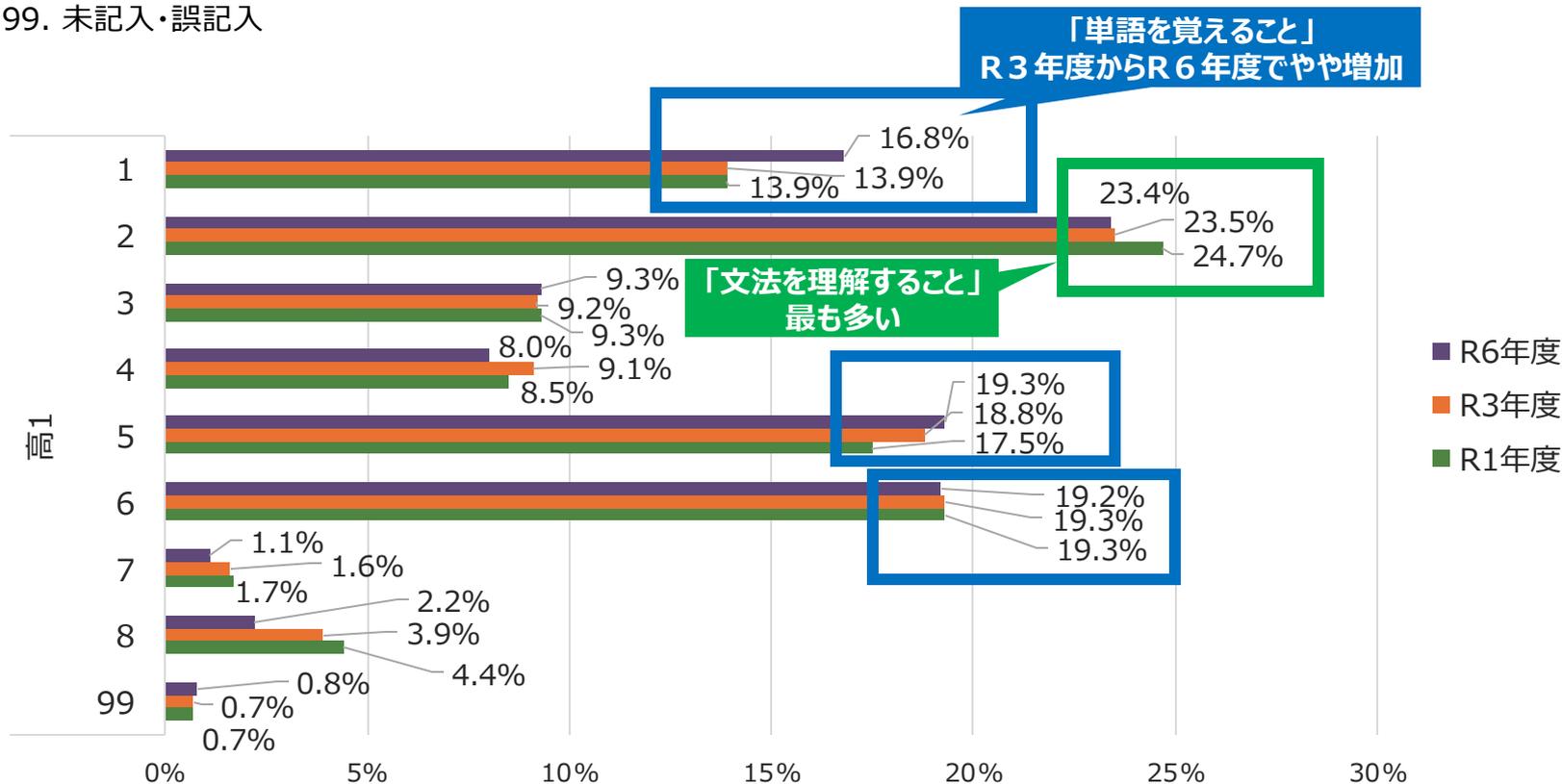


# 1.7.10.1 英語の最も苦手な事項【高1】

- いずれの年度も、「文法を理解することが最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い
- 「英語を聴き取ること」「英語を話すこと」「単語を覚えること」も多い。「単語を覚えること」が苦手な生徒はR3年度からR6年度にかけてやや増加

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢： 1. 単語を覚えること                      2. 文法を理解すること                      3. 英語を書くこと                      4. 英語を読むこと  
 5. 英語を聴き取ること                      6. 英語を話すこと                      7. その他                      8. 苦手なことはない  
 99. 未記入・誤記入

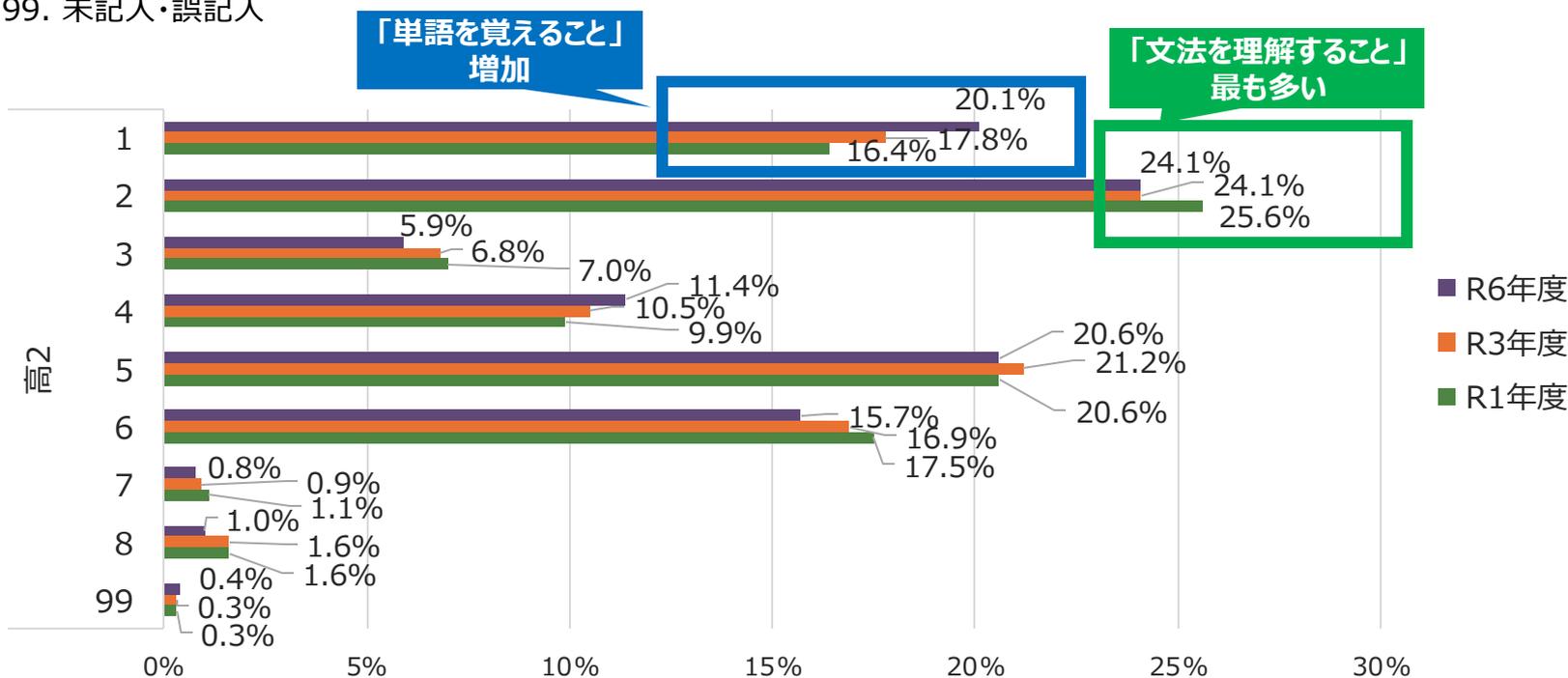


# 1.7.10.2 英語の最も苦手な事項【高2】

- いずれの年度も、「文法を理解することが最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い
- 「単語を覚えることが最も苦手だ」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけて増加

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢： 1. 単語を覚えること                      2. 文法を理解すること                      3. 英語を書くこと                      4. 英語を読むこと  
 5. 英語を聴き取ること                      6. 英語を話すこと                      7. その他                      8. 苦手なことはない  
 99. 未記入・誤記入

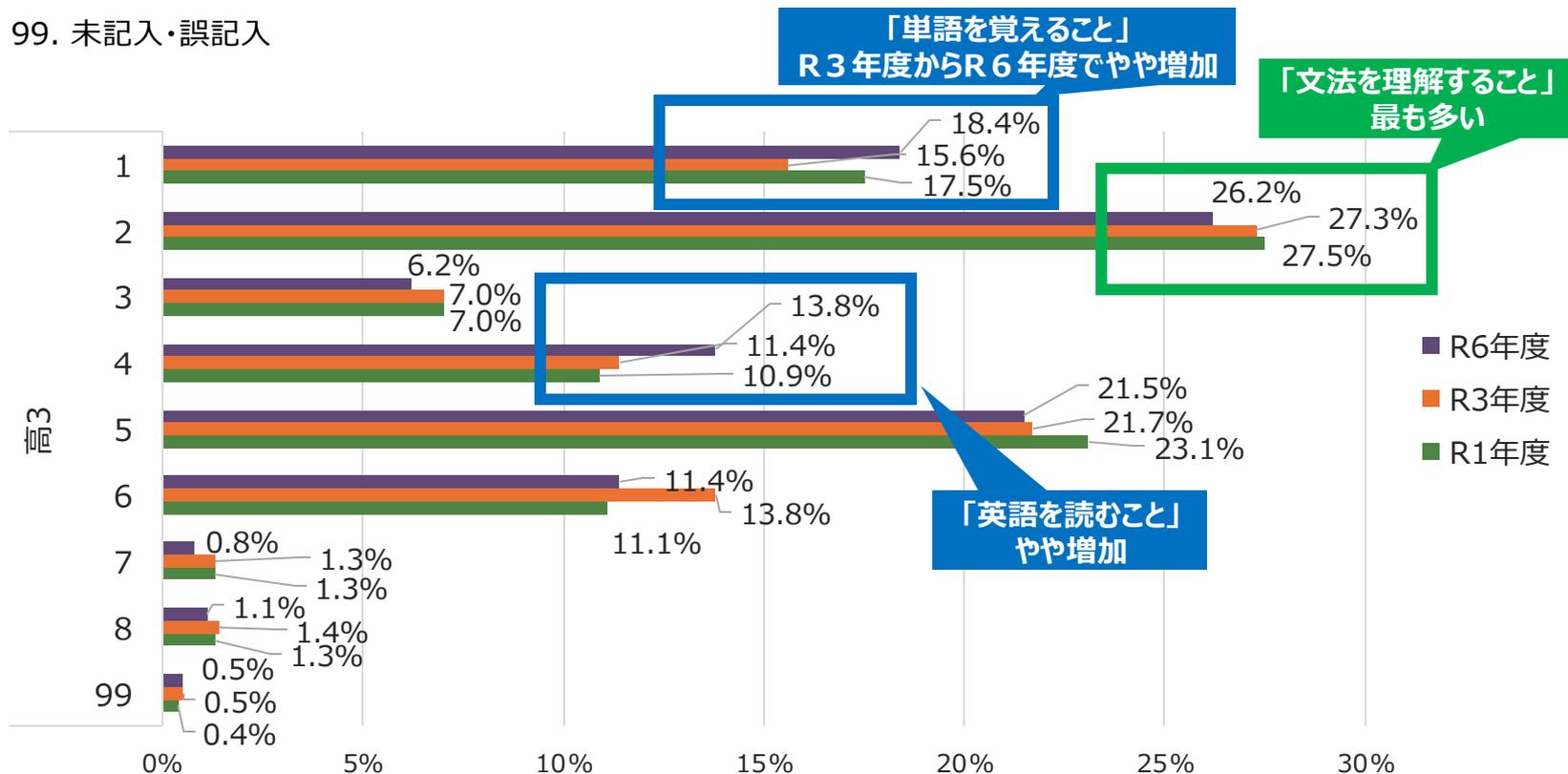


# 1.7.10.3 英語の最も苦手な事項【高3】

- いずれの年度も、「文法を理解することが最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い
- 「単語を覚えることが最も苦手だ」と回答した生徒はR3年度からR6年度にかけてやや増加し、「英語を読むことが最も苦手だ」と回答した生徒はR1年度からR6年度にかけてやや増加

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢：1. 単語を覚えること      2. 文法を理解すること      3. 英語を書くこと      4. 英語を読むこと  
 5. 英語を聴き取ること      6. 英語を話すこと      7. その他      8. 苦手なことはない  
 99. 未記入・誤記入







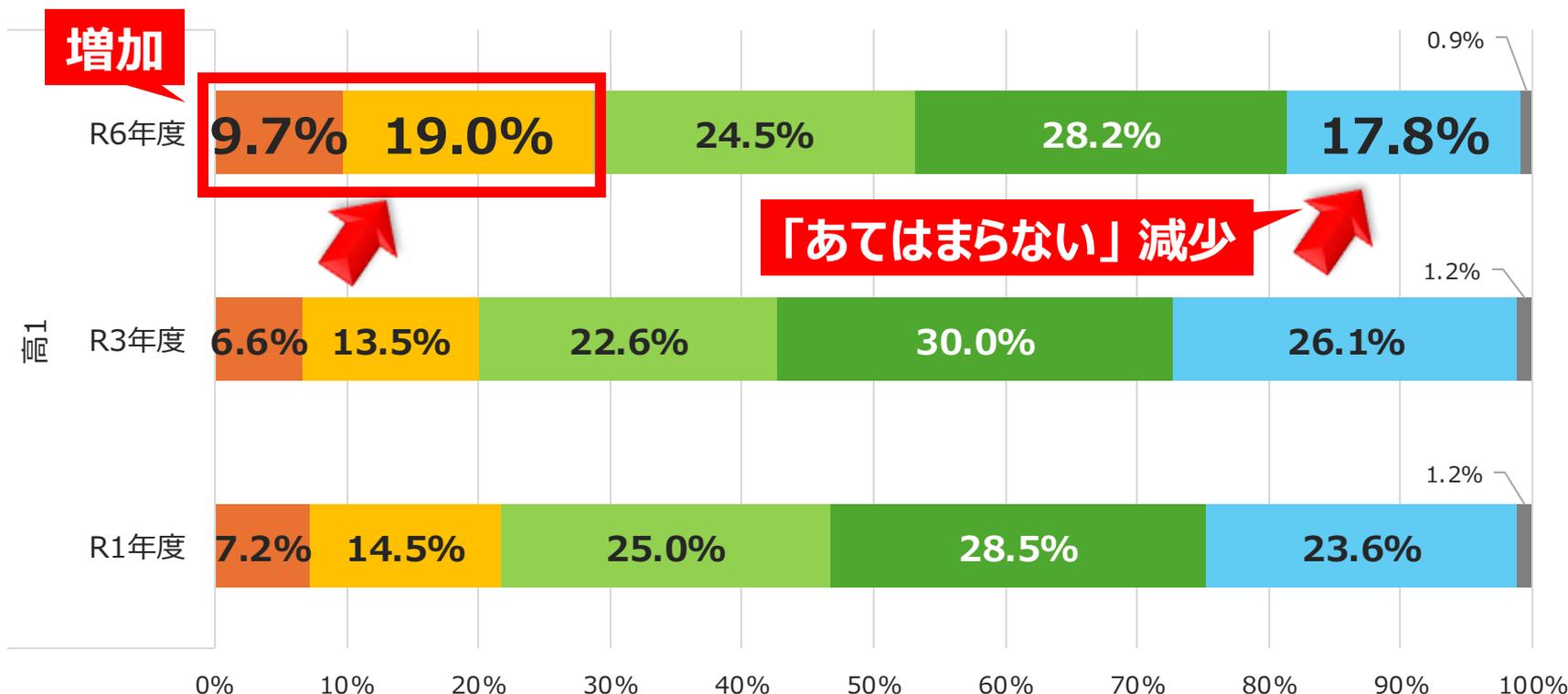


# 1.7.12.1 積極的に英語を話すようにしていること【高1】

- R3年度からR6年度にかけて、「とても（やや）あてはまる」と回答した生徒は増加
- R3年度からR6年度にかけて、「あてはまらない」と回答した生徒は減少

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
          ■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入

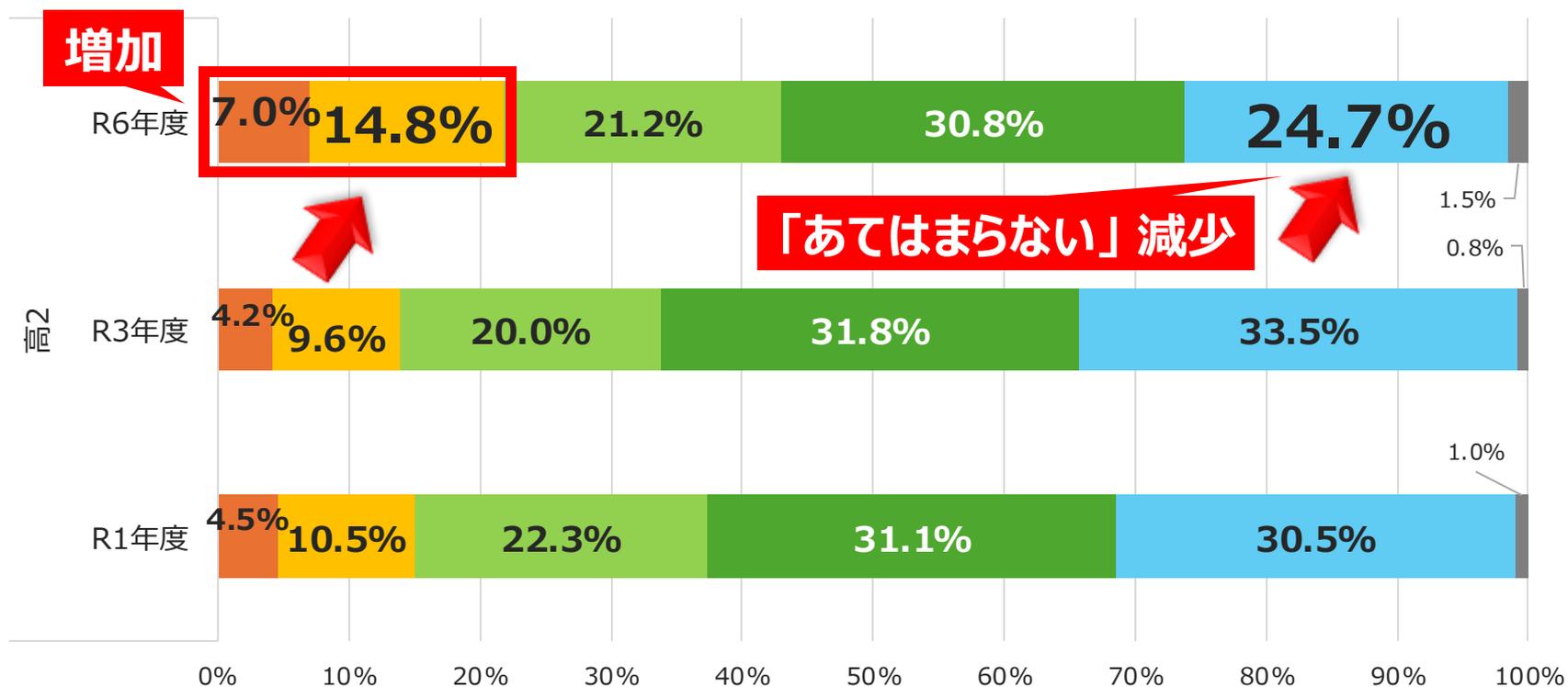


## 1.7.12.2 積極的に英語を話すようにしていること【高2】

- R3年度からR6年度にかけて、「とても（やや）あてはまる」と回答した生徒は増加
- R3年度からR6年度にかけて、「あてはまらない」と回答した生徒は減少

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
          ■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入

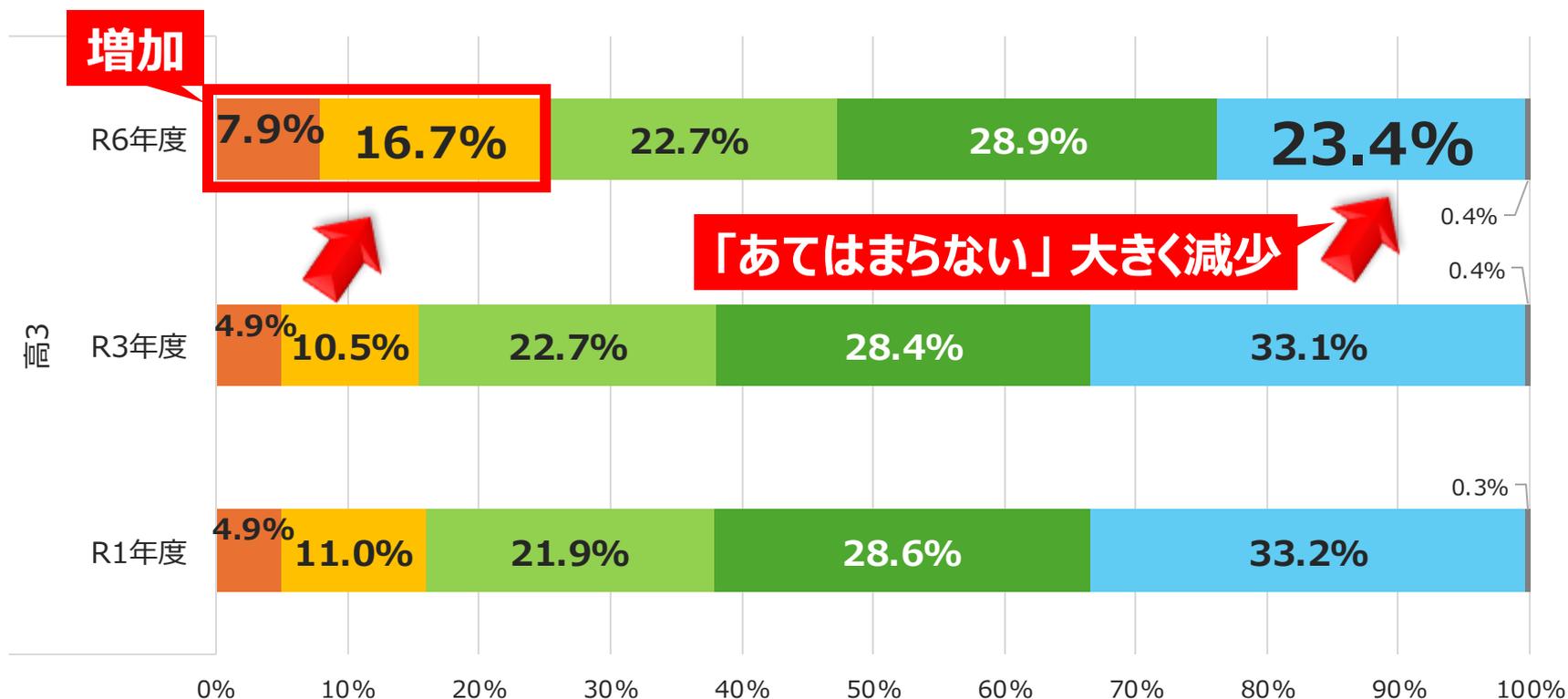


# 1.7.12.3 積極的に英語を話すようにしていること【高3】

- R3年度からR6年度にかけて、「とても（やや）あてはまる」と回答した生徒は増加
- R3年度からR6年度にかけて、「あてはまらない」と回答した生徒は大きく減少

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。  
「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる    ■ 2 - ややあてはまる    ■ 3 - どちらともいえない  
          ■ 4 - あまりあてはまらない    ■ 5 - あてはまらない    ■ 99 - 未記入・誤記入

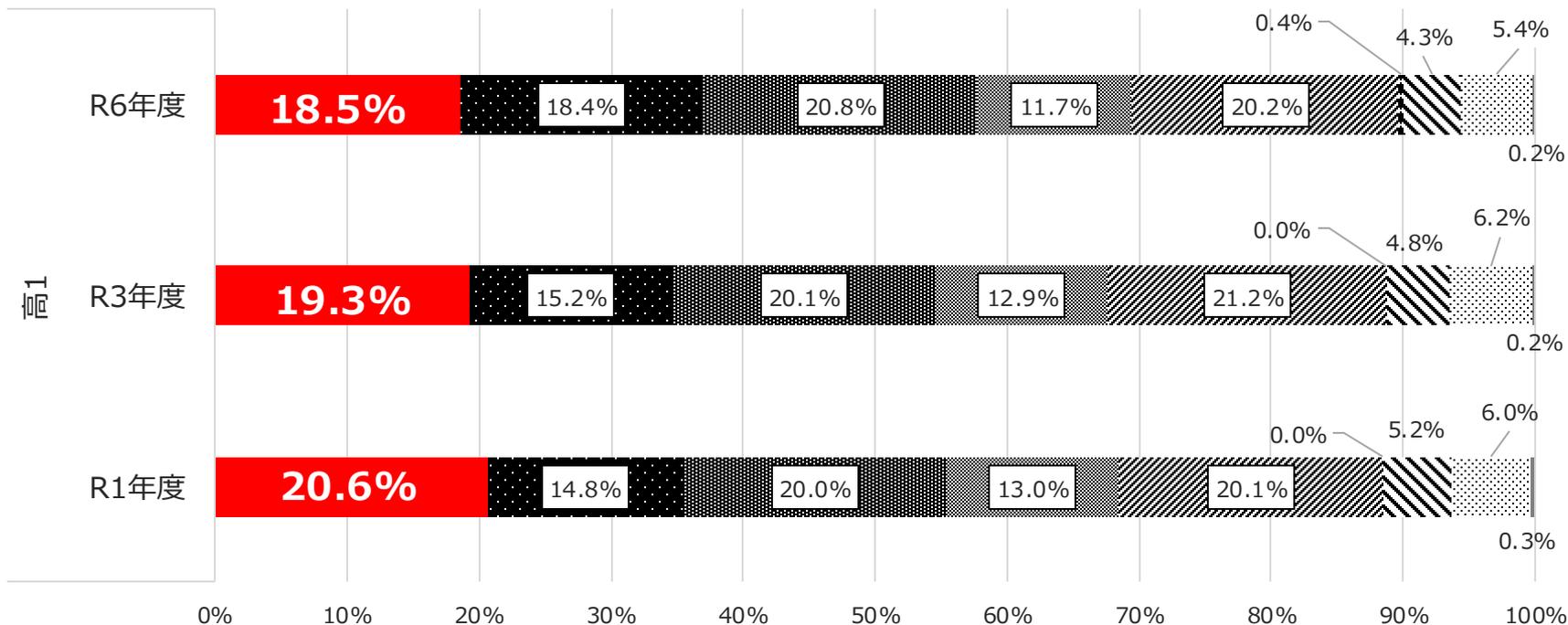


# 1.7.13.1 得意教科【高1】

• いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約19～21%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 7 - 情報
  - 8 - その他
  - 9 - なし
  - 99 - 未記入・誤記入

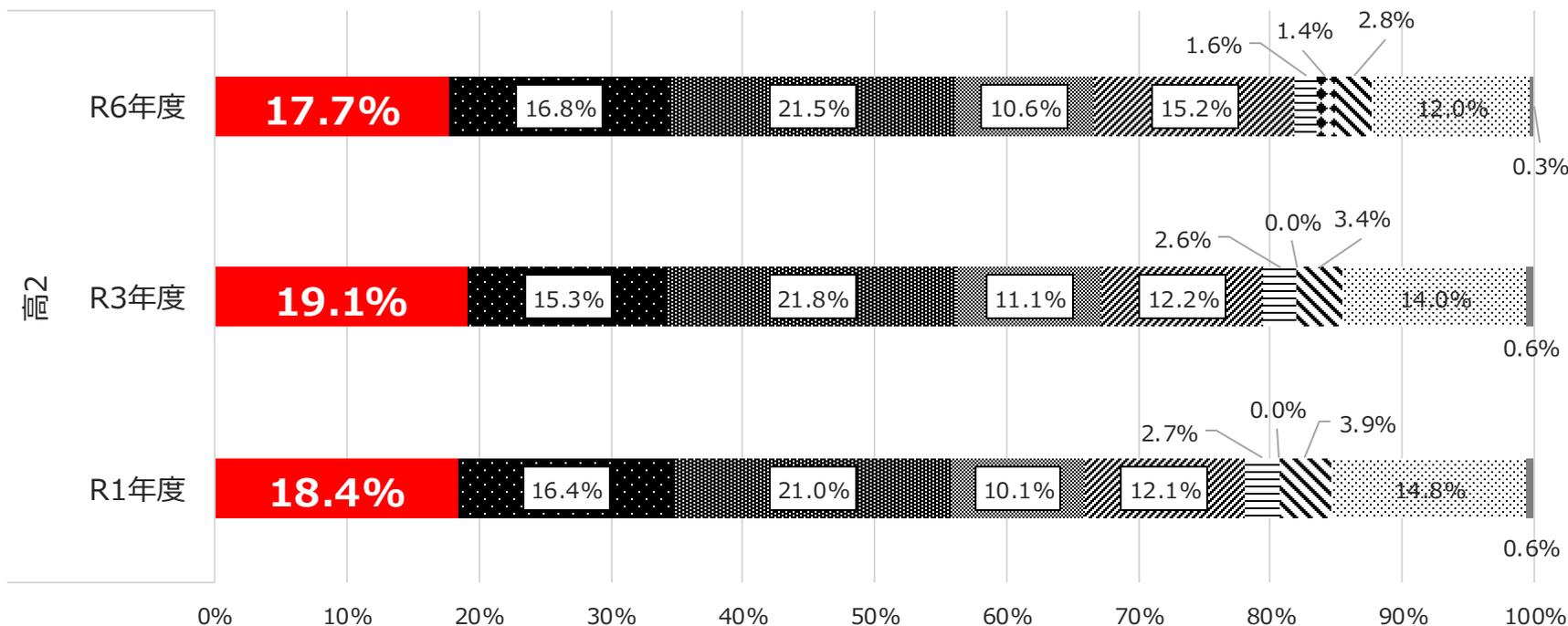


# 1.7.13.2 得意教科【高2】

• いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約18～19%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つを選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 6 - 社会（公民）
  - 7 - 情報
  - 8 - その他
  - 9 - なし
  - 99 - 未記入・誤記入

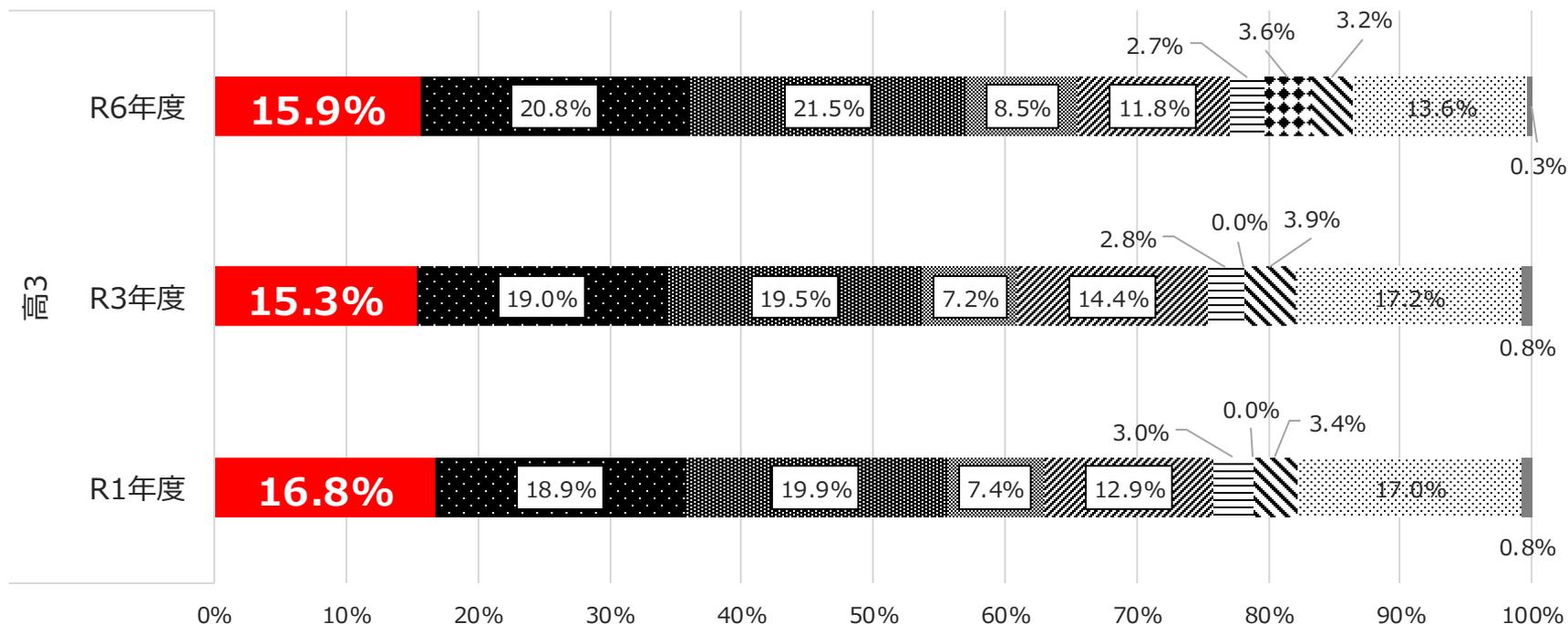


# 1.7.13.3 得意教科【高3】

• いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約15～17%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 6 - 社会（公民）
  - 7 - 情報
  - 8 - その他
  - 9 - なし
  - 99 - 未記入・誤記入

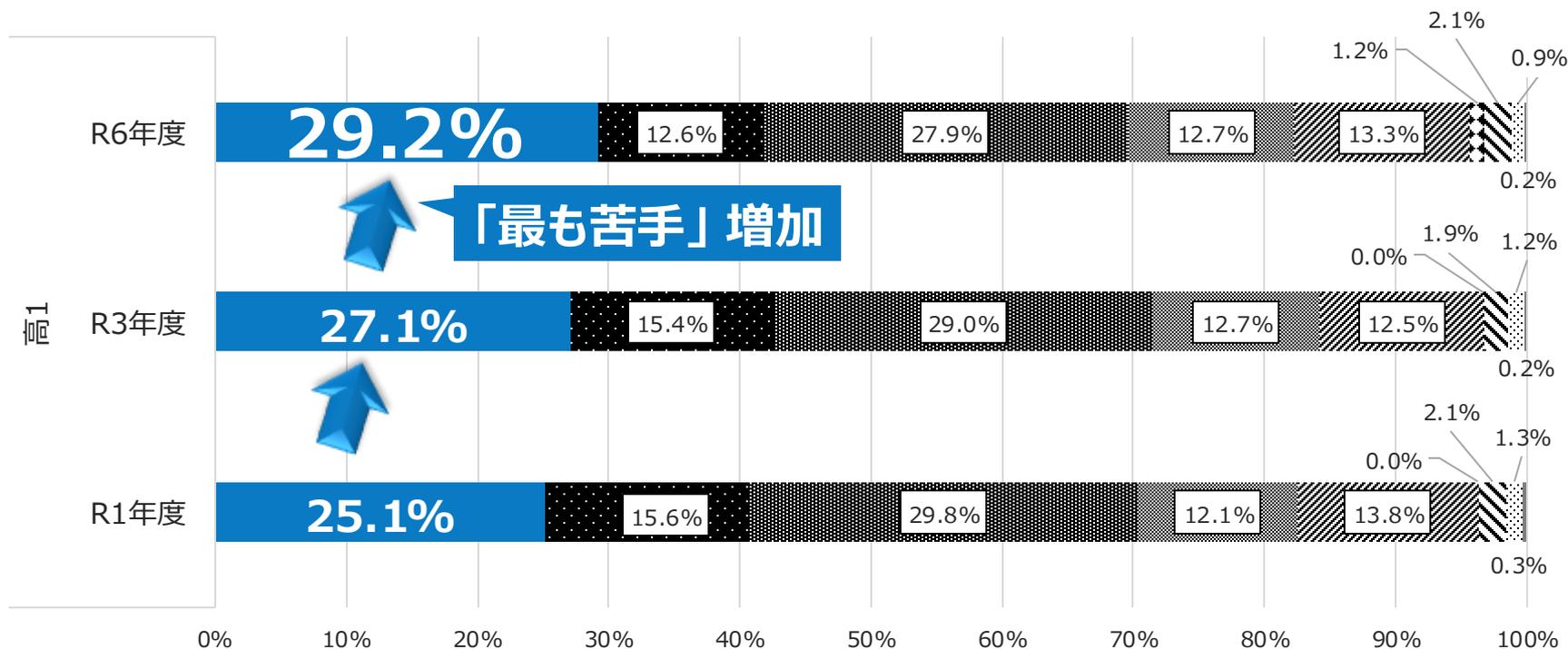


# 1.7.14.1 苦手教科【高1】

- 「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけて増加
- R6年度において、英語は「最も苦手だ」という回答が一番多かった教科

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 7 - 情報
  - 8 - その他
  - 9 - なし
  - 99 - 未記入・誤記入

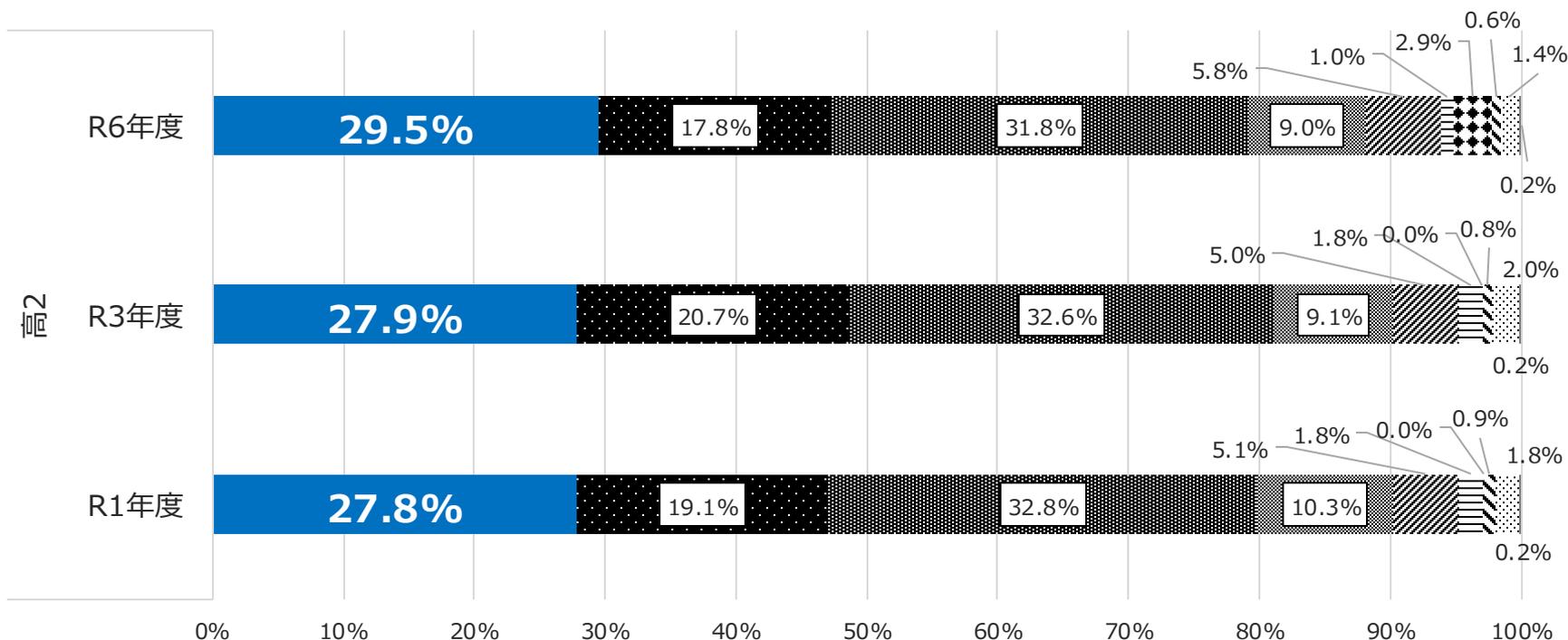


# 1.7.14.2 苦手教科【高2】

• いずれの年度も、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は約28～30%

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 6 - 社会（公民）
  - 7 - 情報
  - 8 - その他
  - 9 - なし
  - 99 - 未記入・誤記入

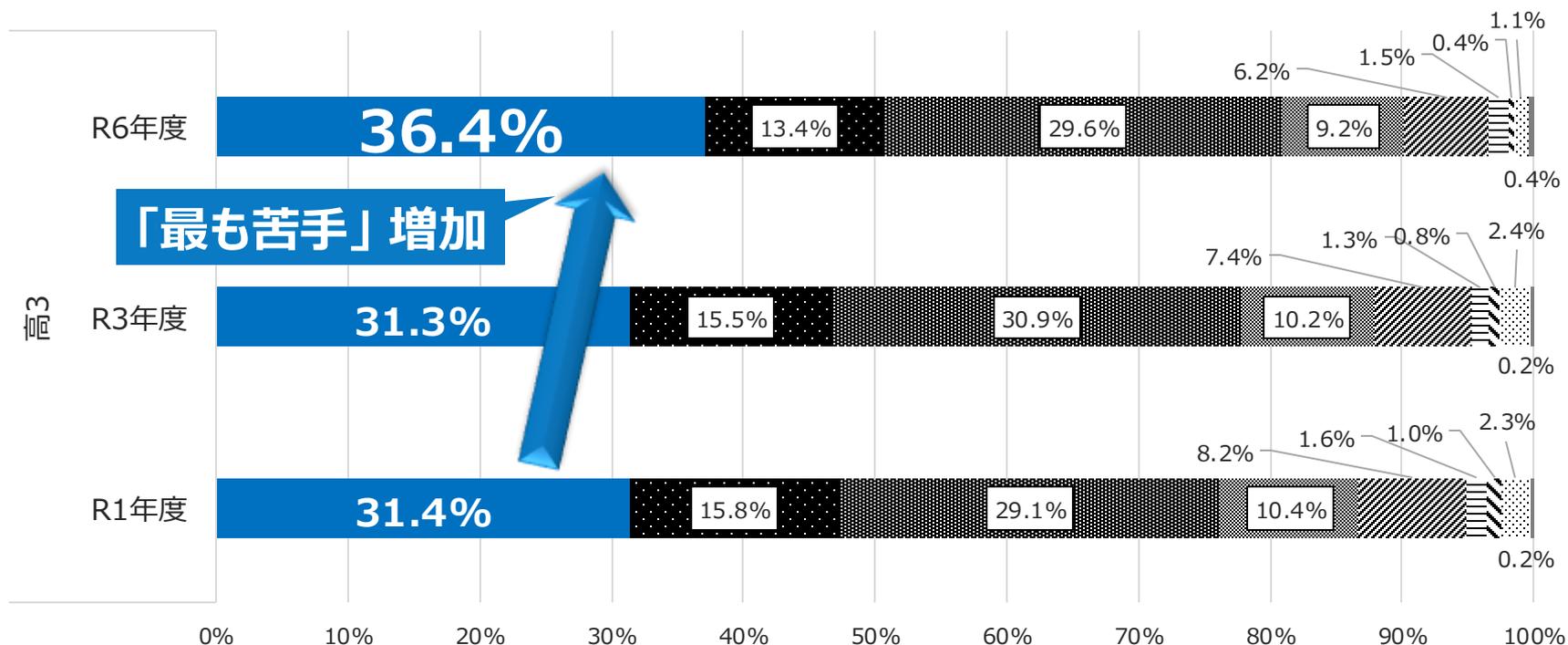


# 1.7.14.3 苦手教科【高3】

- R1年度に比べて、R6年度は「英語が最も苦手だ」と回答した生徒が増加
- いずれの年度も、英語は「最も苦手だ」という回答が一番多かった教科

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
  - 2 - 国語
  - 3 - 数学
  - 4 - 理科
  - 5 - 社会（地歴）
  - 6 - 社会（公民）
  - 8 - その他
  - 9 - なし



「最も苦手」増加

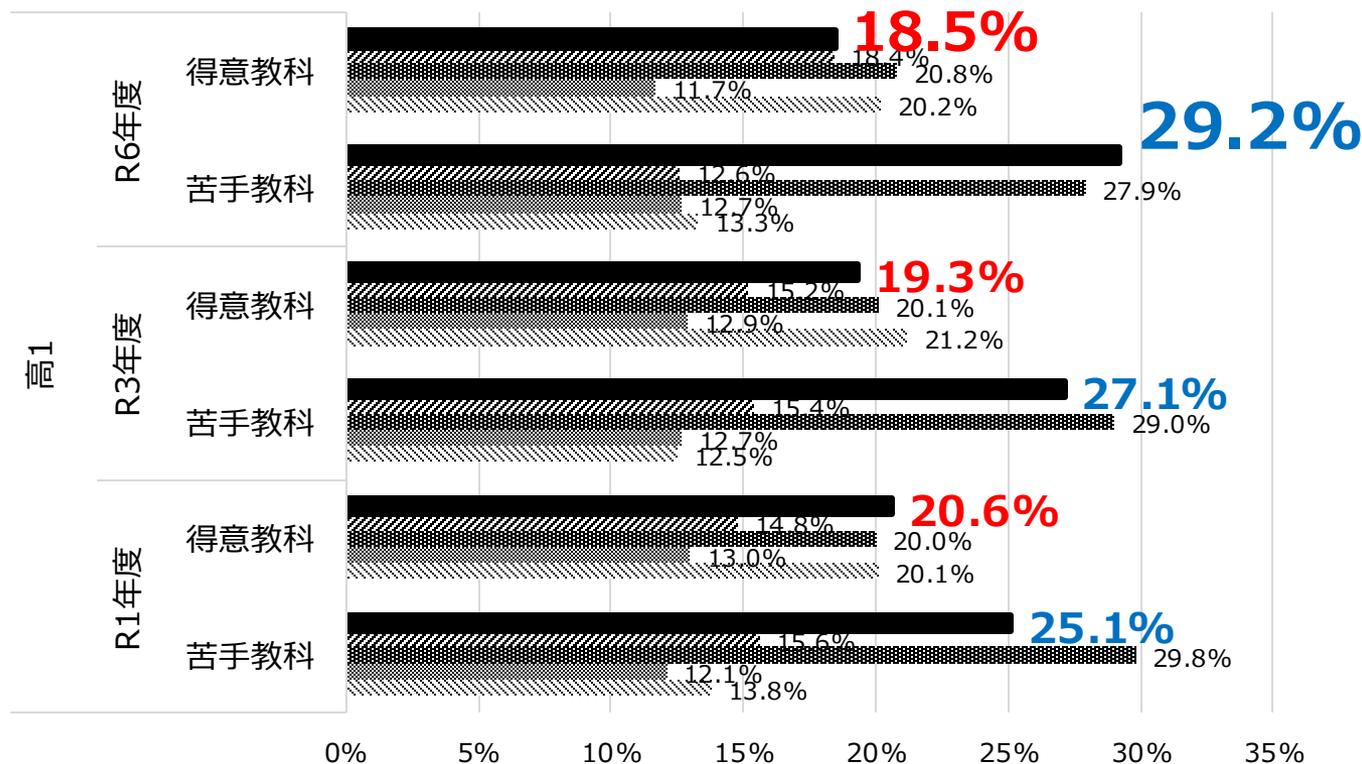
# 1.7.15.1 得意教科・苦手教科【高1】

- いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約19～21%
- 「英語が最も苦手だ」と回答した生徒はR 1 年度からR 6 年度にかけて増加
- R 6 年度において、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

選択肢： ■ 1 - 英語 ※ 2 - 国語 ■ 3 - 数学 ■ 4 - 理科 ※ 5 - 社会（地歴） ※左記の選択肢の割合のみ掲載



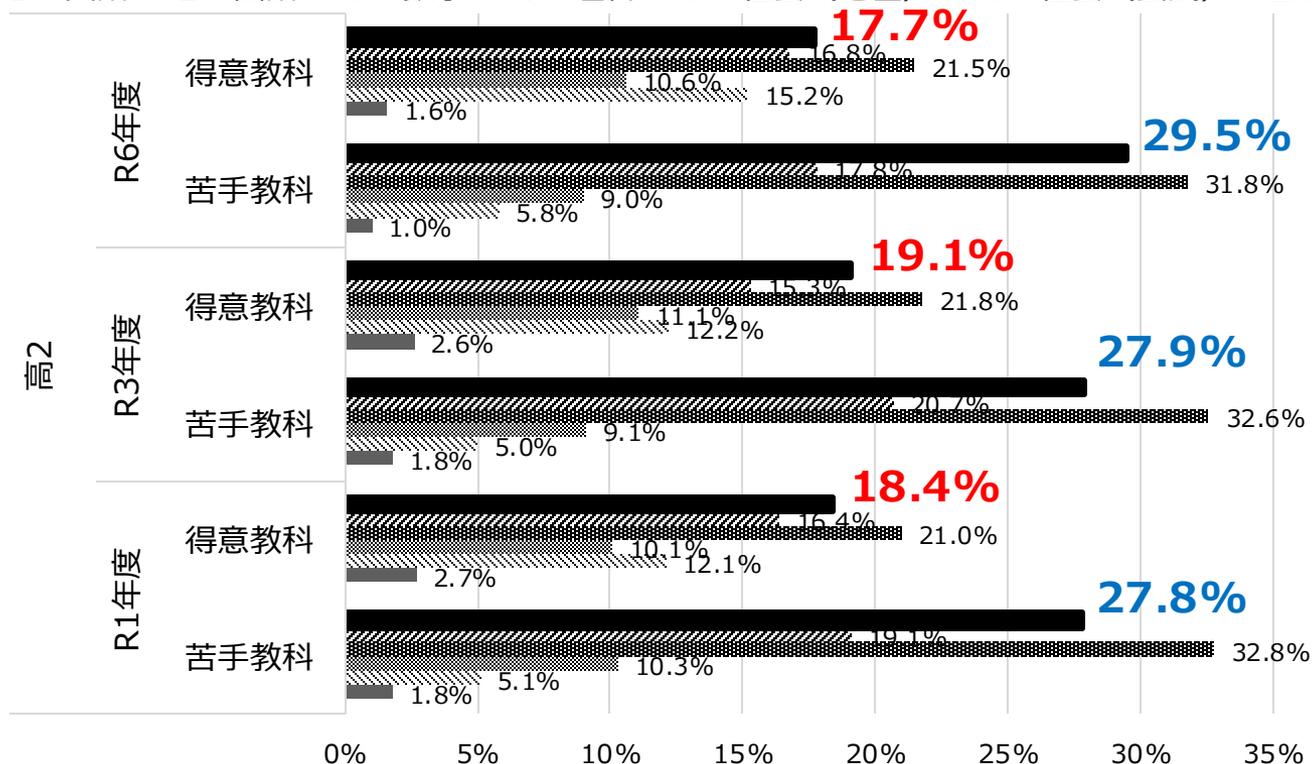
# 1.7.15.2 得意教科・苦手教科【高2】

- いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約18～19%
- いずれの年度も、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は約28～30%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

選択肢： ■ 1 - 英語 ※ 2 - 国語 ■ 3 - 数学 ■ 4 - 理科 ※ 5 - 社会（地歴） ■ 6 - 社会（公民） ※左記の選択肢の割合のみ掲載



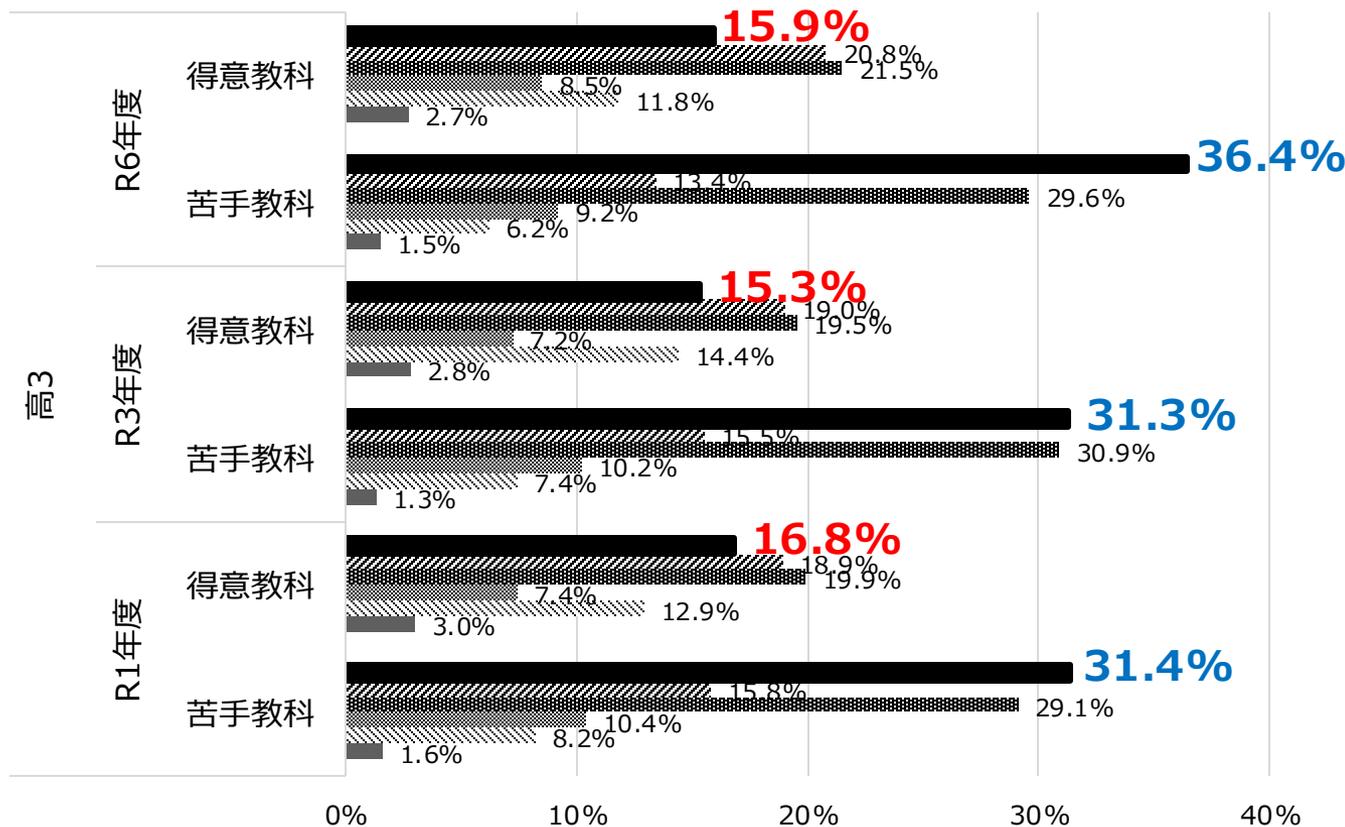
# 1.7.15.3 得意教科・苦手教科【高3】

- いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約15～17%
- R1年度と比べて、R6年度は「英語が最も苦手だ」と回答した生徒が増加
- いずれの年度も、英語は「最も苦手だ」という回答が一番多かった教科

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

選択肢： ■ 1 - 英語   〰 2 - 国語   ▨ 3 - 数学   ▩ 4 - 理科   ▩ 5 - 社会（地歴）   ■ 6 - 社会（公民） ※左記の選択肢の割合のみ掲載

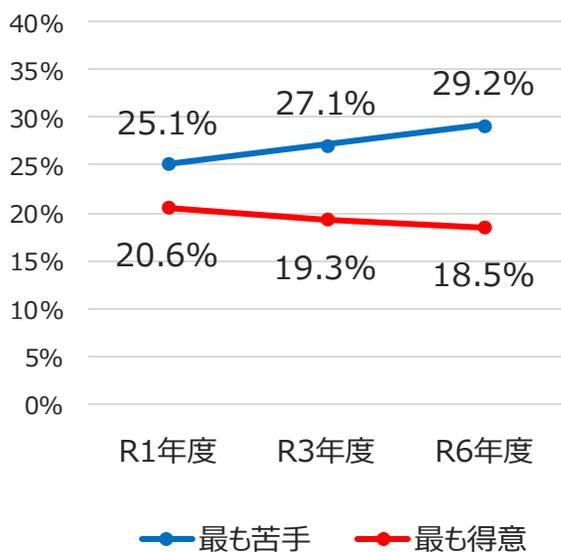


# 1.7.16 英語が得意教科・苦手教科であること【3学年】

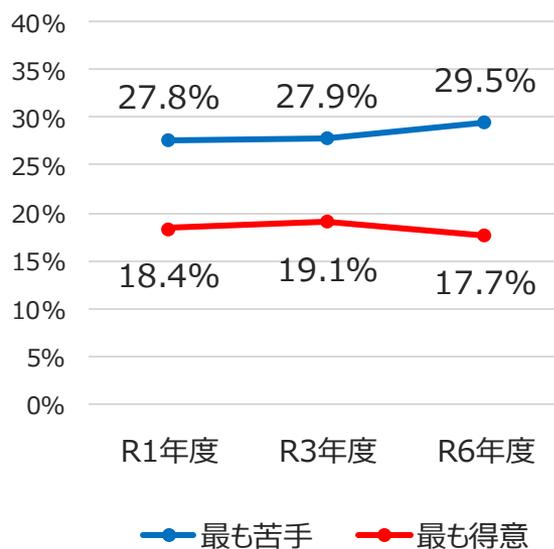
- いずれの学年も、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は、「英語が最も得意だ」と回答した生徒よりも多い

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。  
 最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

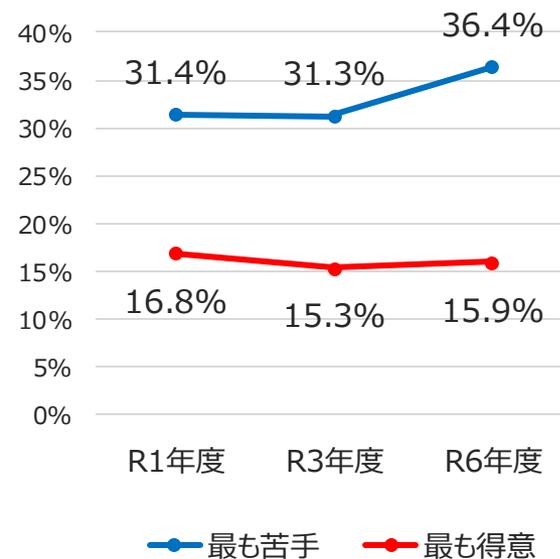
選択肢：英語、国語、数学、理科、社会（地歴）、社会（公民）  
 ※上記の選択肢のうち、「英語」についての回答のみを抜粋



高1



高2



高3

# 1.8 高校 付録

## 使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
高1	第38, 48, 66回	Basic
高2	第39, 49, 67回	Advanced
高3	第38, 48, 66回	Advanced

注1 : Basicタイプ (高1) の測定可能範囲は、トータルスコア 0(Pre-A1)~1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)~270(B1.2 \*SpeakingのみB1.1)]  
Advancedタイプ (高2・3) の測定可能範囲は、トータルスコア 0(Pre-A1)~1280(B2) [各技能0(Pre-A1)~ 320(B2)]  
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天井効果 (より高い能力だとしても上限スコアに留まる) が発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

# 1.8.1 高1 技能別スコア 経年比較

## R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	1.0%	0.8%	4.7%	0.9%
260~	0.6%	0.4%	9.4%	0.5%
250~	0.8%	0.6%	11.7%	1.4%
240~	1.1%	0.9%	9.7%	2.1%
230~	1.4%	1.3%	10.5%	10.9%
220~	1.9%	1.8%	9.9%	13.0%
210~	2.5%	2.4%	9.2%	8.9%
200~	3.5%	3.3%	7.5%	10.1%
190~	4.3%	4.1%	6.8%	7.0%
180~	5.5%	5.6%	5.1%	17.8%
170~	6.9%	6.8%	4.0%	6.4%
160~	7.8%	8.2%	3.0%	5.4%
150~	9.4%	9.7%	2.4%	3.2%
140~	10.1%	10.5%	1.8%	4.3%
130~	9.8%	11.3%	1.2%	2.3%
120~	9.2%	10.5%	0.8%	1.1%
110~	8.0%	8.9%	0.8%	0.8%
100~	6.1%	6.2%	0.5%	0.8%
90~	4.5%	3.6%	0.3%	0.4%
80~	2.7%	1.6%	0.2%	0.2%
70~	1.5%	0.8%	0.1%	0.2%
60~	0.7%	0.3%	0.1%	0.2%
50~	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%
40~	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	2.1%

## R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	1.7%	1.1%	3.1%	0.0%
260~	0.6%	0.6%	4.2%	0.5%
250~	0.9%	0.7%	5.8%	0.6%
240~	1.1%	1.1%	8.9%	4.8%
230~	1.6%	1.3%	10.2%	8.7%
220~	2.2%	1.7%	11.2%	14.0%
210~	2.7%	2.5%	11.0%	6.6%
200~	3.6%	3.4%	9.9%	10.7%
190~	4.4%	4.3%	8.8%	22.3%
180~	5.4%	5.5%	8.3%	12.4%
170~	6.6%	7.0%	6.0%	3.7%
160~	7.4%	8.4%	4.1%	5.6%
150~	8.3%	10.1%	2.8%	2.9%
140~	9.2%	11.1%	2.0%	1.6%
130~	9.1%	11.3%	1.0%	0.7%
120~	8.8%	9.9%	0.9%	1.0%
110~	7.6%	8.0%	0.6%	0.3%
100~	6.4%	5.8%	0.3%	0.2%
90~	4.8%	3.4%	0.5%	0.2%
80~	3.3%	1.7%	0.2%	0.7%
70~	2.1%	0.7%	0.1%	0.2%
60~	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%
50~	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%
40~	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	2.4%

## R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	1.9%	1.3%	2.5%	0.3%
260~	0.7%	0.6%	3.5%	0.4%
250~	1.0%	0.8%	7.9%	0.2%
240~	1.4%	1.3%	8.0%	6.9%
230~	1.6%	1.6%	11.3%	0.1%
220~	2.2%	2.1%	10.6%	10.0%
210~	2.9%	2.9%	11.9%	8.7%
200~	3.5%	3.7%	11.1%	8.5%
190~	4.5%	4.6%	9.0%	14.4%
180~	5.7%	5.7%	6.2%	13.0%
170~	6.8%	7.0%	5.0%	9.4%
160~	7.6%	8.4%	3.6%	6.7%
150~	8.3%	9.2%	3.5%	5.7%
140~	8.8%	10.3%	2.1%	3.4%
130~	8.6%	10.8%	1.1%	3.2%
120~	8.1%	9.7%	0.7%	2.0%
110~	7.2%	7.9%	0.9%	1.3%
100~	6.3%	5.8%	0.4%	1.3%
90~	4.9%	3.4%	0.2%	0.6%
80~	3.6%	1.6%	0.0%	0.0%
70~	2.1%	0.8%	0.0%	0.1%
60~	1.1%	0.3%	0.0%	0.2%
50~	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%
40~	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.5%	3.8%

平均	150.3	150.6	218.5	191.3
標準偏差	42.2	39.0	39.9	43.9

平均	150.0	152.5	209.8	194.3
標準偏差	45.7	39.7	36.9	41.9

平均	151.2	154.4	210.3	180.8
標準偏差	46.8	41.2	38.0	48.7

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.8.2 高1 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

## CEFR-J

### R1年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	2.3%	1.9%	0.0%	1.4%
B1.1	4.5%	3.9%	14.1%	14.4%
A2.2	10.3%	15.4%	31.9%	21.9%
A2.1	20.3%	24.7%	38.5%	17.1%
A1.3	29.4%	41.3%	12.4%	37.0%
A1.2	27.9%	11.4%	2.4%	5.0%
A1.1	4.2%	1.1%	0.4%	0.8%
Pre-A1	1.3%	0.3%	0.3%	2.3%

### R3年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	3.2%	2.4%	0.0%	0.5%
B1.1	4.9%	4.1%	7.3%	14.1%
A2.2	10.7%	15.7%	24.9%	20.6%
A2.1	19.4%	25.5%	49.2%	33.0%
A1.3	26.7%	40.2%	15.9%	26.2%
A1.2	27.6%	10.9%	2.2%	2.1%
A1.1	5.4%	1.0%	0.3%	1.0%
Pre-A1	2.2%	0.1%	0.2%	2.4%

### R6年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	3.6%	2.7%	0.0%	0.6%
B1.1	5.2%	5.0%	6.0%	7.1%
A2.2	10.9%	17.0%	27.2%	18.7%
A2.1	20.1%	24.6%	48.8%	22.9%
A1.3	25.7%	38.7%	15.3%	38.1%
A1.2	26.5%	10.8%	2.1%	7.9%
A1.1	5.7%	1.0%	0.0%	0.6%
Pre-A1	2.2%	0.2%	0.5%	4.0%

## CEFR

### R1年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	6.8%	5.8%	14.1%	15.8%
A2	30.5%	40.2%	70.4%	39.0%
A1	61.4%	53.8%	15.2%	42.8%
Pre-A1	1.3%	0.3%	0.3%	2.3%

### R3年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	8.1%	6.5%	7.3%	14.6%
A2	30.1%	41.2%	74.1%	53.6%
A1	59.7%	52.1%	18.4%	29.4%
Pre-A1	2.2%	0.1%	0.2%	2.4%

### R6年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	8.8%	7.7%	6.0%	7.8%
A2	30.9%	41.6%	76.0%	41.6%
A1	58.0%	50.5%	17.4%	46.7%
Pre-A1	2.2%	0.2%	0.5%	4.0%

※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.8.3 高2 技能別スコア 経年比較

## R1年度

## R3年度

## R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	2.1%	0.7%	3.1%	0.0%
310~	0.6%	0.3%	1.4%	0.0%
300~	0.8%	0.4%	1.2%	0.2%
290~	1.0%	0.5%	2.6%	0.3%
280~	1.3%	0.7%	2.7%	2.5%
270~	1.6%	1.0%	7.0%	2.3%
260~	2.0%	1.3%	9.9%	3.9%
250~	2.6%	1.7%	11.8%	7.2%
240~	3.5%	2.2%	11.5%	23.8%
230~	4.3%	3.2%	10.0%	9.7%
220~	5.6%	4.3%	8.8%	11.2%
210~	6.9%	5.6%	7.7%	13.0%
200~	8.3%	7.5%	6.0%	11.2%
190~	9.4%	9.7%	4.8%	3.9%
180~	10.2%	12.1%	3.5%	3.1%
170~	10.2%	13.3%	2.3%	2.8%
160~	9.0%	12.7%	1.6%	1.0%
150~	7.4%	10.4%	1.1%	0.9%
140~	5.5%	6.6%	0.8%	0.3%
130~	3.4%	3.3%	0.5%	0.7%
120~	1.9%	1.5%	0.3%	0.0%
110~	1.1%	0.6%	0.3%	0.0%
100~	0.7%	0.2%	0.3%	0.0%
90~	0.3%	0.1%	0.2%	0.0%
80~	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	1.9%

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	3.2%	1.1%	1.4%	0.0%
310~	0.9%	0.4%	0.8%	0.0%
300~	1.1%	0.6%	1.4%	0.0%
290~	1.5%	0.8%	2.3%	0.0%
280~	1.8%	1.0%	3.4%	0.1%
270~	2.3%	1.4%	6.6%	0.4%
260~	2.9%	1.8%	8.0%	4.1%
250~	3.5%	2.5%	13.3%	4.1%
240~	4.2%	3.2%	11.6%	20.9%
230~	5.0%	4.1%	12.8%	28.3%
220~	6.2%	5.4%	11.5%	10.5%
210~	7.3%	6.9%	7.8%	18.4%
200~	8.3%	8.7%	6.0%	6.2%
190~	9.0%	10.7%	4.3%	2.4%
180~	9.5%	12.9%	2.9%	1.6%
170~	8.8%	13.5%	1.8%	0.6%
160~	7.6%	11.9%	1.2%	0.3%
150~	6.0%	7.6%	0.9%	0.3%
140~	4.2%	3.8%	0.6%	0.2%
130~	2.9%	1.4%	0.3%	0.0%
120~	1.8%	0.4%	0.2%	0.0%
110~	1.0%	0.1%	0.3%	0.0%
100~	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%
90~	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%
80~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	1.6%

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	5.6%	4.4%	0.8%	0.2%
310~	1.6%	1.3%	0.6%	0.0%
300~	2.0%	1.8%	0.8%	0.3%
290~	2.4%	2.1%	1.5%	2.0%
280~	3.0%	2.6%	2.7%	0.7%
270~	3.8%	3.3%	6.3%	2.2%
260~	4.3%	4.0%	10.1%	2.3%
250~	5.2%	4.6%	14.4%	8.8%
240~	5.8%	5.7%	14.3%	7.7%
230~	6.3%	6.5%	12.6%	7.9%
220~	6.9%	7.4%	13.1%	14.3%
210~	7.2%	8.0%	7.1%	15.7%
200~	7.4%	8.9%	5.5%	11.1%
190~	7.4%	9.4%	3.8%	10.9%
180~	7.1%	9.1%	2.2%	4.8%
170~	6.4%	8.2%	1.3%	3.6%
160~	5.4%	6.4%	0.8%	2.3%
150~	4.2%	3.6%	0.6%	1.3%
140~	3.0%	1.8%	0.4%	1.1%
130~	2.1%	0.6%	0.2%	0.1%
120~	1.3%	0.2%	0.3%	0.0%
110~	0.8%	0.1%	0.1%	0.1%
100~	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%
90~	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
80~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	2.5%

平均	195.6	186.9	236.0	223.6
標準偏差	45.7	37.3	42.0	41.6

平均	203.9	195.8	236.8	225.9
標準偏差	48.7	37.9	36.3	34.7

平均	219.2	219.0	237.3	214.6
標準偏差	52.4	45.9	33.1	45.9

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.8.4 高2 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

## CEFR-J

### R1年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	4.6%	2.7%	3.1%	0.6%
B1.2	7.5%	4.0%	5.2%	8.7%
B1.1	13.4%	9.8%	19.7%	40.7%
A2.2	24.5%	34.9%	33.3%	24.2%
A2.1	29.4%	36.3%	30.7%	15.0%
A1.3	16.3%	12.0%	6.3%	8.1%
A1.2	3.9%	0.2%	1.2%	0.8%
A1.1	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.9%

### R3年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	6.8%	3.8%	1.4%	0.0%
B1.2	10.5%	5.7%	4.5%	4.6%
B1.1	15.4%	12.7%	18.1%	53.2%
A2.2	24.6%	39.1%	37.8%	28.8%
A2.1	25.8%	33.0%	32.4%	8.6%
A1.3	13.1%	5.7%	4.9%	3.0%
A1.2	3.5%	0.1%	0.7%	0.1%
A1.1	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	1.6%

### R6年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	11.7%	12.3%	0.8%	2.5%
B1.2	16.2%	11.8%	3.0%	5.2%
B1.1	19.0%	19.7%	19.1%	24.4%
A2.2	22.0%	35.4%	41.3%	30.0%
A2.1	18.9%	18.1%	31.7%	22.1%
A1.3	9.3%	2.7%	3.3%	13.1%
A1.2	2.7%	0.1%	0.6%	0.2%
A1.1	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	2.5%

## CEFR

### R1年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	4.6%	2.7%	3.1%	0.6%
B1	20.9%	13.8%	24.9%	49.5%
A2	53.9%	71.2%	64.0%	39.2%
A1	20.5%	12.3%	7.7%	8.8%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.9%

### R3年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	6.8%	3.8%	1.4%	0.0%
B1	25.9%	18.3%	22.6%	57.9%
A2	50.4%	72.0%	70.2%	37.4%
A1	16.9%	5.8%	5.6%	3.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	1.6%

### R6年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	11.7%	12.3%	0.8%	2.5%
B1	35.2%	31.5%	22.0%	29.6%
A2	40.9%	53.5%	73.0%	52.1%
A1	12.2%	2.8%	3.9%	13.3%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	2.5%

※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.8.5 高3 技能別スコア 経年比較

## R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	0.7%	0.2%	2.8%	0.4%
310~	0.4%	0.2%	1.1%	0.3%
300~	0.5%	0.1%	1.4%	1.0%
290~	0.7%	0.2%	2.1%	0.7%
280~	0.8%	0.4%	3.7%	5.1%
270~	1.3%	0.7%	3.1%	2.9%
260~	1.8%	0.7%	12.4%	6.2%
250~	2.4%	1.1%	13.0%	5.0%
240~	3.5%	1.4%	10.5%	3.6%
230~	4.5%	2.3%	9.9%	17.9%
220~	5.8%	3.4%	8.7%	8.7%
210~	7.0%	4.6%	7.1%	9.6%
200~	8.8%	6.5%	6.1%	9.6%
190~	9.8%	8.8%	4.8%	5.9%
180~	10.3%	11.7%	3.4%	10.8%
170~	9.7%	15.1%	2.9%	3.3%
160~	8.7%	15.9%	2.0%	2.8%
150~	7.4%	13.4%	1.5%	2.3%
140~	6.0%	8.2%	0.9%	1.2%
130~	4.1%	3.6%	0.6%	0.6%
120~	2.6%	1.1%	0.4%	0.4%
110~	1.5%	0.2%	0.3%	0.1%
100~	0.9%	0.1%	0.2%	0.1%
90~	0.4%	0.0%	0.1%	0.3%
80~	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	1.1%

## R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	1.7%	0.6%	1.5%	0.0%
310~	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%
300~	0.8%	0.5%	1.4%	0.0%
290~	0.9%	0.7%	1.7%	0.0%
280~	1.0%	0.8%	3.2%	0.1%
270~	1.6%	1.1%	3.7%	0.3%
260~	2.1%	1.6%	9.1%	3.3%
250~	2.7%	2.2%	10.1%	2.0%
240~	3.8%	2.9%	12.2%	9.7%
230~	4.9%	4.0%	12.5%	22.1%
220~	6.0%	5.4%	9.5%	11.3%
210~	7.4%	6.7%	7.6%	12.0%
200~	8.1%	8.7%	6.4%	15.5%
190~	9.1%	10.9%	5.6%	9.5%
180~	9.2%	12.2%	4.5%	5.2%
170~	9.0%	12.7%	3.2%	3.9%
160~	8.5%	12.1%	2.3%	1.6%
150~	7.5%	8.3%	1.4%	0.6%
140~	5.6%	5.0%	1.1%	0.5%
130~	3.9%	2.1%	0.5%	0.3%
120~	2.7%	0.8%	0.3%	0.2%
110~	1.5%	0.3%	0.3%	0.0%
100~	0.8%	0.1%	0.2%	0.0%
90~	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%
80~	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.3%	1.8%

## R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	3.3%	2.7%	0.8%	0.1%
310~	1.2%	1.0%	0.6%	0.0%
300~	1.3%	1.1%	0.9%	0.0%
290~	1.6%	1.5%	1.4%	1.8%
280~	2.1%	1.8%	2.9%	0.8%
270~	2.6%	2.2%	5.6%	0.9%
260~	3.4%	2.8%	8.5%	0.5%
250~	4.0%	3.7%	14.0%	12.9%
240~	5.2%	4.4%	11.9%	4.5%
230~	5.9%	5.4%	12.0%	13.0%
220~	7.1%	6.3%	9.8%	10.2%
210~	7.4%	7.3%	9.1%	11.7%
200~	8.3%	9.0%	6.8%	16.5%
190~	8.6%	10.7%	5.0%	8.6%
180~	7.9%	11.0%	3.3%	5.6%
170~	7.7%	10.7%	2.7%	4.1%
160~	6.5%	8.2%	1.4%	2.8%
150~	5.1%	5.4%	1.1%	1.9%
140~	3.8%	2.7%	0.8%	1.4%
130~	2.7%	1.2%	0.4%	0.1%
120~	1.8%	0.6%	0.3%	0.3%
110~	1.2%	0.2%	0.4%	0.0%
100~	0.6%	0.1%	0.1%	0.0%
90~	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%
80~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
60~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.3%	2.1%

平均	190.3	180.0	234.3	218.4
標準偏差	42.2	31.9	42.3	44.1

平均	194.3	192.4	230.5	213.7
標準偏差	45.6	36.7	40.6	37.6

平均	207.7	207.6	232.4	212.0
標準偏差	49.8	43.7	37.4	43.4

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

# 1.8.6 高3 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

## CEFR-J

### R1年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	2.2%	1.2%	2.8%	2.3%
B1.2	6.4%	2.5%	4.6%	14.2%
B1.1	13.8%	7.1%	19.2%	26.5%
A2.2	25.5%	31.6%	33.4%	18.2%
A2.1	28.7%	44.4%	30.2%	15.5%
A1.3	17.4%	13.1%	8.0%	20.5%
A1.2	5.5%	0.1%	1.1%	1.2%
A1.1	0.3%	0.0%	0.4%	0.4%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.1%

### R3年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	3.9%	2.9%	1.5%	0.0%
B1.2	7.4%	4.8%	4.2%	3.8%
B1.1	14.7%	12.3%	16.0%	33.8%
A2.2	24.6%	38.6%	34.8%	23.3%
A2.1	26.7%	33.0%	33.7%	25.0%
A1.3	17.0%	8.2%	8.5%	11.8%
A1.2	5.4%	0.1%	1.0%	0.6%
A1.1	0.3%	0.0%	0.2%	0.0%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.3%	1.8%

### R6年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	7.3%	8.2%	0.8%	2.0%
B1.2	12.1%	8.7%	2.9%	2.2%
B1.1	18.1%	16.1%	16.9%	30.4%
A2.2	24.3%	38.1%	37.8%	21.8%
A2.1	22.1%	24.2%	34.0%	25.2%
A1.3	11.6%	4.6%	6.4%	15.8%
A1.2	4.0%	0.1%	0.8%	0.4%
A1.1	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	2.1%

## CEFR

### R1年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	2.2%	1.2%	2.8%	2.3%
B1	20.2%	9.6%	23.9%	40.7%
A2	54.2%	76.0%	63.7%	33.7%
A1	23.3%	13.2%	9.4%	22.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.1%

### R3年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	3.9%	2.9%	1.5%	0.0%
B1	22.1%	17.1%	20.1%	37.6%
A2	51.3%	71.6%	68.5%	48.3%
A1	22.6%	8.3%	9.7%	12.4%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.3%	1.8%

### R6年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	7.3%	8.2%	0.8%	2.0%
B1	30.2%	24.8%	19.8%	32.6%
A2	46.4%	62.3%	71.9%	47.0%
A1	15.8%	4.7%	7.2%	16.3%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	2.1%

※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

## 2.1 中学校の母集団について

・調査対象：本調査では、現行学習指導要領とそれ以前の指導要領との比較をするために、R1年度旧CS下（小学・中学の移行期間2年目）、R3年度現行CS下（中1は小6から現行CS、中2・3は現行CS初年度）、R6年度現行CS下（中1は小3より、中2は小4より、中3は小5より現行CS）の生徒を調査対象とした。

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	小学 移行期間		小学 現指導要領 全面实施				
	中学 移行期間			中学 現指導要領 全面实施			
中学入学年度	高校 移行期間		高校 現指導要領 学年進行				
平成26年度	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒	既卒
平成27年度	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒
平成28年度	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒
平成29年度	中2	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒
平成30年度	中1	中2	中3	高1	高2	高3	既卒
令和元年度	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
令和2年度	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2
令和3年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1
令和4年度	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和5年度	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
令和6年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1

# 2.1 中学校の母集団について

## データ抽出条件：

1つの学年次において、

(a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を実施した学校の生徒

(b) - (a)かつ下記の問題版を受検している生徒

※集計対象である(b)については、年度間で同一の学校群であるとは限らない

### 各項目における集計対象

#### 2.2 中学校の全体傾向

#### 2.3 中学1年生

2.3.1 中1 経年比較 4 技能総合

2.3.2 中1 経年比較 4 技能別の傾向

#### 2.4 中学2年生

2.4.1 中2 経年比較 4 技能総合

2.4.2 中2 経年比較 4 技能別の傾向

#### 2.5 中学3年生

2.5.1 中3 経年比較 4 技能総合

2.5.2 中3 経年比較 4 技能別の傾向

#### 2.6 中学校 付録

2.6.1 中1 技能別スコア 経年比較

2.6.2 中1 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

2.6.3 中2 技能別スコア 経年比較

2.6.4 中2 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

2.6.5 中3 技能別スコア 経年比較

2.6.6 中3 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

(b)で集計

### 使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
中1	第39, 49, 67回	Core
中2	第39, 49, 67回	Core
中3	第38, 48, 66回	Basic

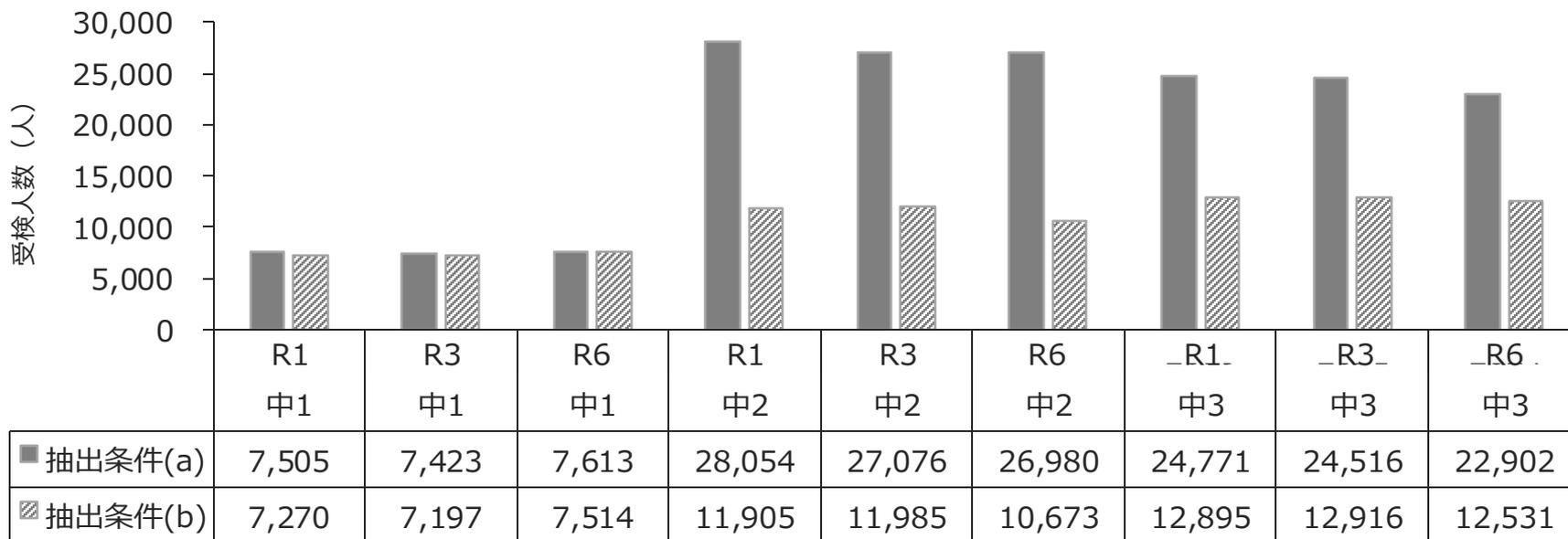
注1：Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～840(A2.2) [各技能 0(Pre-A1)～210(A2.2 \*SpeakingのみA2.1)]  
Basicタイプ（中3）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)～270(B1.2 \*SpeakingのみB1.1)]  
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天井効果（より高い能力だとしても上限スコアに留まる）が発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

## 2.1 中学校の母集団について

### 属性情報：

- 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本
- 中1・中2は約3割が公立中学（国立含む）で約7割が私立中学、  
中3は約2割が公立中学（国立含む）で約8割が私立中学  
※私立の学習環境（授業時間数、教材、進度など）に留意
- 首都圏・近畿の受検者が約6割

学年・実施年度ごとの受検者数



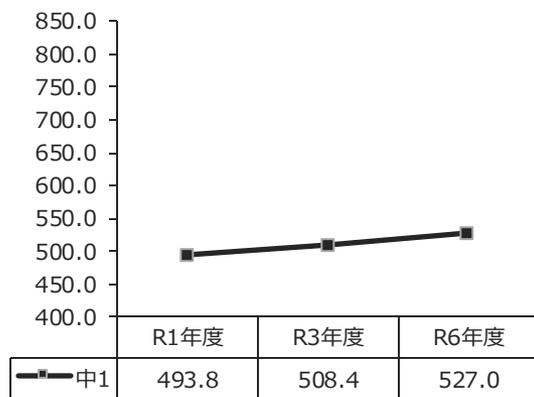
実施年度・学年

## 2.2 中学校の全体傾向

- 4技能総合スコアについて、中1・2は「横ばい～上昇」、中3は「横ばい」
- 中1・2のCEFR-Jレベル（平均スコアから換算）はA1.2からA1.3へ「上昇」
- 中3はCEFR-Jレベル（平均スコアから換算）はA2.2からA2.1へ「低下」

### 4技能総合 全国平均スコア

#### 中1



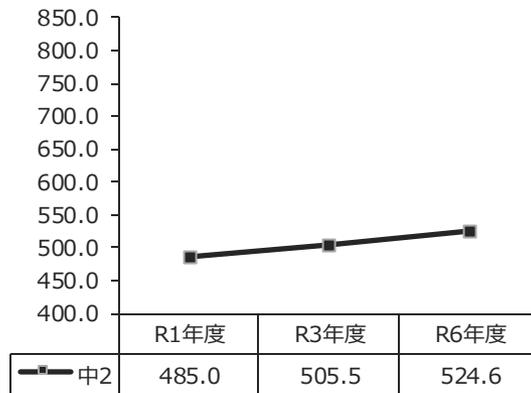
※ $\eta^2$  : 0.012

※Cohen's d : R1-R3 -0.113 ; R3-R6 -0.146

平均CEFR	A1	A1	A1
平均CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.3

※標準偏差 : R1は127.5、R3は131.8、R6は129.2。

#### 中2



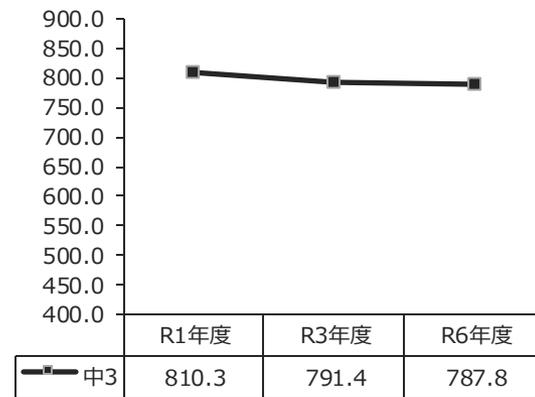
※ $\eta^2$  : 0.012

※Cohen's d : R1-R3 -0.137 ; R3-R6 -0.137

平均CEFR	A1	A1	A1
平均CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.3

※標準偏差 : R1は150.0、R3は149.8、R6は151.0。

#### 中3



※ $\eta^2$  : 0.004

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.2	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は140.3、R3は150.1、R6は154.4。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.3.1 中1 経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3、A2.1の割合が、R6年度にそれぞれ約6ポイントと約5ポイント増加

	旧CS下	現行CS下※小6から現行CS	現行CS下※小3から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	2.2%	2.3%	2.1%
A2.1	5.0%	7.7%	10.3%
A1.3	35.9%	38.2%	41.7%
A1.2	43.3%	39.9%	37.2%
A1.1	10.0%	9.6%	6.4%
Pre-A1	3.6%	2.4%	2.1%
A1以上 (累計)	96.4%	97.6%	97.9%

増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

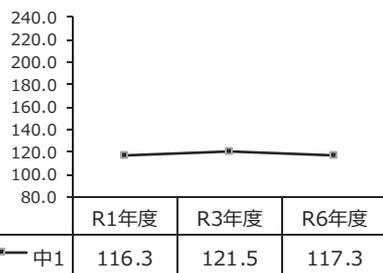
※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.3.2 中1 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」は「横ばい」
- 「読むこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「横ばい～上昇」
- 「話すこと」は「横ばい～上昇」で、「書くこと」は「上昇」

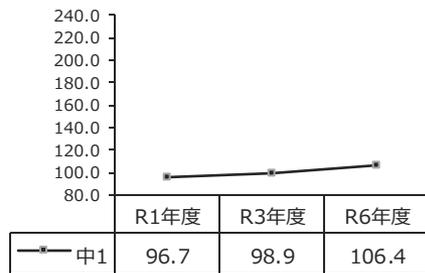
### 各技能 全国平均スコア

#### 聞くこと Listening



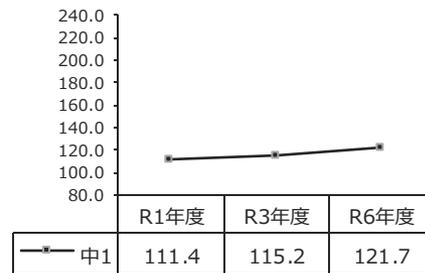
※ $\eta^2$  : 0.004

#### 読むこと Reading



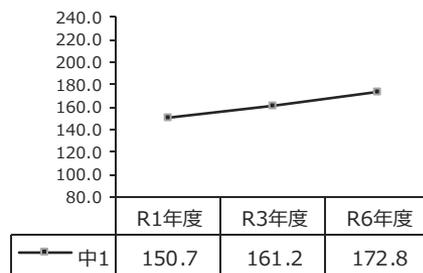
※ $\eta^2$  : 0.011  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.061 ; R3-R6 -0.179

#### 話すこと Speaking



※ $\eta^2$  : 0.018  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.128 ; R3-R6 -0.197

#### 書くこと Writing



※ $\eta^2$  : 0.031  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.202 ; R3-R6 -0.240

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

※標準偏差 : R1は36.1、R3は35.0、R6は37.5。 ※標準偏差 : R1は36.8、R3は43.3、R6は40.3。 ※標準偏差 : R1は28.8、R3は30.7、R6は33.2。 ※標準偏差 : R1は55.6、R3は49.7、R6は43.5。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受験データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受験者が約6割を占める。

## 2.3.2 中1 経年比較 4技能別の傾向 受信技能

### 「聞くこと」

- R1年度と比べて、ボリュームゾーンであるCEFR-J A1.2の割合は、R6年度に減少

### 「読むこと」

- R1年度と比べてCEFR A1以上の割合は、R6年度にやや増加
- CEFR-J A1.3以上の割合は大きく増加

#### 聞くこと Listening

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	5.5%	5.8%	5.4%
A2.1	6.8%	7.3%	8.6%
A1.3	17.9%	22.2%	19.2%
A1.2	46.2%	47.9%	42.0%
A1.1	17.4%	12.1%	17.1%
Pre-A1	6.2%	4.7%	7.8%

減少

#### 読むこと Reading

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	4.3%	6.7%	6.9%
A2.1	4.0%	6.0%	7.3%
A1.3	19.8%	21.3%	25.8%
A1.2	39.0%	30.1%	34.1%
A1.1	21.0%	19.1%	17.3%
Pre-A1	11.9%	16.9%	8.7%

大きく増加

A1以上 (累計)	93.8%	95.3%	92.2%
-----------	-------	-------	-------

A1以上 (累計)	88.1%	83.1%	91.3%
-----------	-------	-------	-------

やや増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.3.2 中1 経年比較 4技能別の傾向 発信技能

### 「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3の割合は、R6年度に大きく増加

### 「書くこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3以上の割合は、R6年度に大きく増加
- Pre-A1は減少

#### 話すこと Speaking

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	0.0%	0.0%	0.0%
A2.1	3.2%	3.7%	3.6%
A1.3	16.6%	22.7%	36.4%
A1.2	62.4%	56.9%	44.9%
A1.1	15.4%	13.7%	12.5%
Pre-A1	2.4%	3.1%	2.7%

#### 書くこと Writing

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	18.3%	19.0%	28.0%
A2.1	13.5%	22.2%	16.4%
A1.3	32.1%	35.4%	41.1%
A1.2	16.7%	11.9%	9.9%
A1.1	7.2%	5.9%	1.4%
Pre-A1	12.2%	5.6%	3.2%

減少

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	97.6%	96.9%	97.3%

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	87.8%	94.4%	96.8%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受験データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受験者が約6割を占める。

## 2.4.1 中2 経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A1以上の割合は、R6年度にやや増加（特にCEFR-J A1.3とA2.1の割合の合計が大きく増加）

	旧CS下	現行CS下※中2から現行CS	現行CS下※小4から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	1.0%	1.1%	1.2%
A2.1	8.5%	10.8%	14.6%
A1.3	36.3%	39.7%	39.8%
A1.2	33.2%	31.0%	30.8%
A1.1	12.4%	10.9%	8.2%
Pre-A1	8.5%	6.5%	5.3%
A1以上 (累計)	91.5%	93.5%	94.7%

やや増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

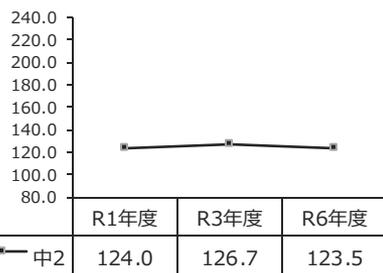
※集団属性情報【中学】：学校実施の受験データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受験者が約6割を占める。

## 2.4.2 中2 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」「読むこと」は「横ばい」
- 「話すこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「上昇」
- 「書くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい～上昇」、R3年度からR6年度は「横ばい」

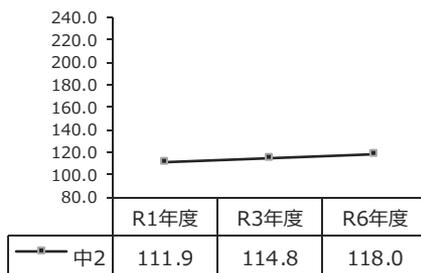
### 各技能 全国平均スコア

#### 聞くこと Listening



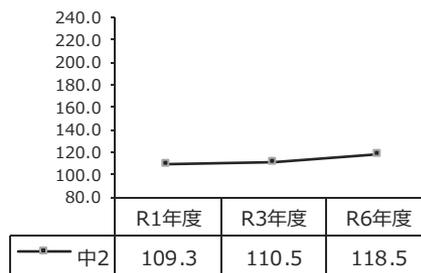
※ $\eta^2$  : 0.001

#### 読むこと Reading



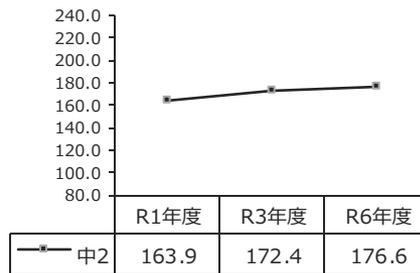
※ $\eta^2$  : 0.003

#### 話すこと Speaking



※ $\eta^2$  : 0.015  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.034 ; R3-R6 -0.243

#### 書くこと Writing



※ $\eta^2$  : 0.010  
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.156 ; R3-R6 -0.085

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

※標準偏差 : R1は39.5、R3は36.7、R6は40.1。 ※標準偏差 : R1は42.5、R3は46.3、R6は45.9。 ※標準偏差 : R1は33.3、R3は34.2、R6は35.9。 ※標準偏差 : R1は57.5、R3は51.6、R6は48.9。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】 : 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本 / 中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める / 首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.4.2 中2 経年比較 4技能別の傾向 受信技能

### 「聞くこと」

- CEFR A1以上の割合は、R3年度からR6年度に減少

### 「読むこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A2.1以上の割合は、R6年度に増加

#### 聞くこと Listening

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	7.1%	6.7%	7.2%
A2.1	12.1%	11.2%	12.1%
A1.3	23.1%	25.8%	23.4%
A1.2	36.3%	41.3%	35.3%
A1.1	14.3%	10.1%	13.5%
Pre-A1	7.1%	4.9%	8.5%

#### 読むこと Reading

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	8.1%	10.9%	12.0%
A2.1	10.5%	12.4%	13.9%
A1.3	29.5%	27.8%	26.5%
A1.2	29.1%	24.4%	25.9%
A1.1	13.9%	13.6%	12.9%
Pre-A1	8.9%	10.9%	8.8%

増加

A1以上 (累計) 92.9% 95.1% 91.5%

減少

A1以上 (累計) 91.1% 89.1% 91.2%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.4.2 中2 経年比較 4技能別の傾向 発信技能

### 「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3の割合は、R6年度に大きく増加

### 「書くこと」

- R1年度と比べて、CEFR A1以上の割合は、R6年度に増加（特にCEFR-J A1.3以上の割合が大きく増加し、CEFR-J A1.2以下は大きく減少）

#### 話すこと Speaking

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	0.0%	0.0%	0.0%
A2.1	2.5%	2.3%	2.7%
A1.3	22.7%	24.8%	36.6%
A1.2	48.5%	47.8%	41.5%
A1.1	20.5%	18.0%	13.9%
Pre-A1	5.8%	7.2%	5.3%

#### 書くこと Writing

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	33.4%	33.5%	38.7%
A2.1	14.6%	24.2%	16.8%
A1.3	25.6%	25.2%	30.8%
A1.2	12.1%	7.1%	7.8%
A1.1	4.3%	4.2%	1.3%
Pre-A1	9.9%	5.8%	4.6%

大きく減少

増加

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	94.2%	92.8%	94.7%

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	90.1%	94.2%	95.4%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受験データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受験者が約6割を占める。

## 2.5.1 中3 経年比較 4 技能総合

- R1年度と比べて、CEFR-J A2.2の割合は、R6年度に約6ポイント減少
- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3の割合は、R6年度に約5ポイント増加

	旧CS下	現行CS下 ※中3から現行CS	現行CS下 ※小5から現行CS	
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度	
B1.2	3.1%	3.3%	2.9%	
B1.1	17.3%	15.7%	17.3%	減少
A2.2	31.8%	27.0%	25.5%	減少
A2.1	30.3%	32.2%	30.3%	
A1.3	15.3%	18.5%	20.1%	増加
A1.2	1.9%	2.4%	3.0%	
A1.1	0.3%	0.7%	0.8%	
Pre-A1	0.1%	0.1%	0.1%	
A1以上 (累計)	99.9%	99.9%	99.9%	

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

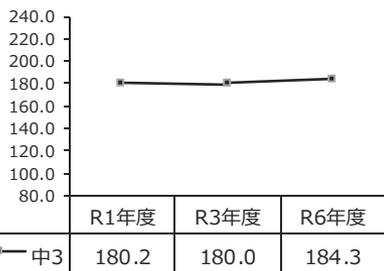
※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.5.2 中3 経年比較 4 技能別の傾向

- 「聞くこと」「読むこと」は「横ばい」
- 「話すこと」はR 1 年度からR 3 年度は「低下」、R 3 年度からR 6 年度は「横ばい」
- 「書くこと」はR 1 年度からR 3 年度は「横ばい」、R 3 年度からR 6 年度は「低下」

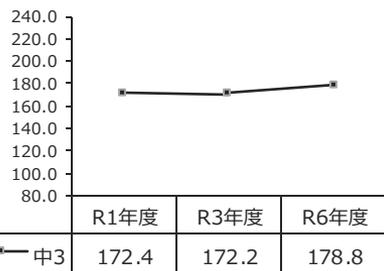
### 各技能 全国平均スコア

#### 聞くこと Listening



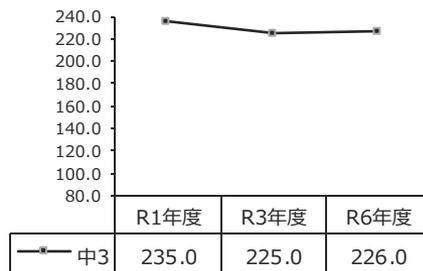
※ $\eta^2$  : 0.002

#### 読むこと Reading



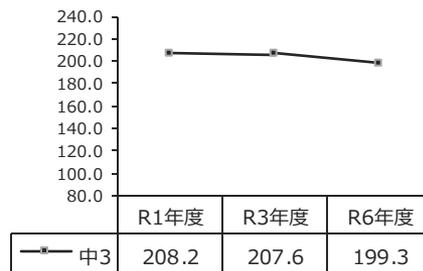
※ $\eta^2$  : 0.004

#### 話すこと Speaking



※ $\eta^2$  : 0.016  
 ※Cohen's d : R1-R3 0.284 ; R3-R6 -0.028

#### 書くこと Writing



※ $\eta^2$  : 0.010  
 ※Cohen's d : R1-R3 0.014 ; R3-R6 0.202

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は46.6、R3は52.0、R6は51.8。

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は44.8、R3は46.1、R6は48.5。

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は35.3、R3は35.0、R6は34.2。

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は38.8、R3は39.9、R6は42.6。

※「4 技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4 技能・5 領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】： 学校実施の受験データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受験者が約6割を占める。

## 2.5.2 中3 経年比較 4 技能別の傾向 受信技能

### 「聞くこと」

- R1年度とR6年度の比較では、CEFR-J A1.3、A2.1、A2.2の割合の合計が減少し、CEFR-J B1.1以上の割合が増加

### 「読むこと」

- R1年度とR6年度の比較では、CEFR-J A1.3、A2.1、A2.2の割合の合計が減少し、CEFR-J B1.1以上の割合が増加

#### 聞くこと Listening

増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	9.5%	12.7%	14.7%
B1.1	11.4%	11.4%	12.5%
A2.2	19.7%	17.5%	17.6%
A2.1	24.2%	21.3%	20.9%
A1.3	21.4%	19.8%	19.1%
A1.2	12.1%	13.8%	12.6%
A1.1	1.3%	2.2%	1.9%
Pre-A1	0.5%	1.2%	0.7%

減少

#### 読むこと Reading

増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	7.0%	8.2%	11.2%
B1.1	9.2%	8.7%	10.9%
A2.2	24.2%	22.6%	23.5%
A2.1	25.8%	25.5%	23.0%
A1.3	27.7%	28.4%	25.6%
A1.2	5.6%	5.9%	5.3%
A1.1	0.4%	0.5%	0.5%
Pre-A1	0.0%	0.1%	0.1%

減少

A1以上 (累計)	99.5%	98.8%	99.3%
-----------	-------	-------	-------

A1以上 (累計)	100.0%	99.9%	99.9%
-----------	--------	-------	-------

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.5.2 中3 経年比較 4 技能別の傾向 発信技能

### 「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J B1.1の割合は、R6年度に大きく減少しているが、CEFR-J A2.1は大きく増加

### 「書くこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J B1.1の割合は、R6年度に大きく減少しているが、CEFR-J A2.1は増加

#### 話すこと Speaking

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	0.0%	0.0%	0.0%
B1.1	28.8%	18.3%	15.2%
A2.2	36.9%	31.2%	37.0%
A2.1	26.5%	40.8%	38.2%
A1.3	6.3%	8.4%	8.6%
A1.2	1.1%	1.0%	0.8%
A1.1	0.2%	0.2%	0.0%
Pre-A1	0.2%	0.1%	0.2%
A1以上 (累計)	99.8%	99.9%	99.8%

大きく減少

大きく増加

#### 書くこと Writing

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	4.5%	3.1%	3.2%
B1.1	26.5%	26.8%	14.8%
A2.2	26.1%	24.0%	27.2%
A2.1	15.0%	27.1%	21.9%
A1.3	24.3%	15.3%	27.2%
A1.2	2.1%	1.3%	3.6%
A1.1	0.4%	0.7%	0.3%
Pre-A1	1.2%	1.7%	1.9%
A1以上 (累計)	98.8%	98.3%	98.1%

大きく減少

増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

## 2.6 中学校 付録

### 使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
中1	第39, 49, 67回	Core
中2	第39, 49, 67回	Core
中3	第38, 48, 66回	Basic

注1 : Coreタイプ (中1・2) の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～840(A2.2) [各技能0(Pre-A1)～210(A2.2 \*SpeakingのみA2.1)]  
Basicタイプ (中3) の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)～270(B1.2 \*SpeakingのみB1.1)]  
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天井効果 (より高い能力だとしても上限スコアに留まる) が発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

# 2.6.1 中1 技能別スコア 経年比較

## R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	2.9%	2.5%	1.4%	18.3%
200~	1.4%	0.4%	0.4%	1.2%
190~	1.2%	0.6%	0.9%	12.3%
180~	1.5%	0.8%	0.5%	10.4%
170~	2.2%	1.1%	0.3%	5.2%
160~	3.1%	1.3%	2.6%	6.0%
150~	4.3%	1.6%	2.2%	6.9%
140~	5.6%	2.3%	5.6%	3.7%
130~	8.0%	3.8%	5.9%	6.6%
120~	9.7%	5.5%	10.4%	5.5%
110~	11.2%	8.1%	18.4%	2.8%
100~	13.1%	12.1%	19.5%	1.8%
90~	12.2%	13.4%	14.1%	2.4%
80~	10.3%	13.5%	9.2%	2.9%
70~	7.1%	11.9%	4.5%	1.8%
60~	3.8%	9.1%	1.8%	4.1%
50~	1.6%	5.3%	1.1%	1.5%
40~	0.5%	3.7%	0.6%	1.4%
30~	0.2%	1.6%	0.2%	1.0%
20~	0.1%	0.7%	0.2%	0.6%
10~	0.0%	0.7%	0.2%	1.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	2.6%

平均	116.3	96.7	111.4	150.7
標準偏差	36.1	36.8	28.8	55.6

## R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.4%	3.2%	1.5%	19.0%
200~	1.1%	1.1%	0.5%	9.3%
190~	1.4%	1.3%	0.6%	12.9%
180~	1.5%	1.1%	1.1%	5.2%
170~	2.6%	1.5%	1.0%	3.5%
160~	3.2%	1.8%	2.8%	5.4%
150~	5.1%	2.6%	3.9%	12.2%
140~	7.4%	3.4%	5.6%	9.1%
130~	9.6%	4.4%	9.4%	3.6%
120~	12.5%	6.1%	12.0%	1.9%
110~	13.6%	7.3%	20.2%	1.8%
100~	11.8%	9.2%	13.6%	4.6%
90~	10.0%	10.1%	11.1%	3.8%
80~	7.5%	10.9%	6.8%	0.8%
70~	4.6%	10.1%	4.4%	1.3%
60~	2.4%	9.0%	2.4%	0.7%
50~	1.3%	7.0%	1.8%	1.7%
40~	0.4%	4.4%	0.8%	0.0%
30~	0.4%	2.9%	0.2%	0.0%
20~	0.1%	1.5%	0.1%	0.0%
10~	0.1%	1.1%	0.1%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	3.3%

平均	121.5	98.9	115.2	161.2
標準偏差	35.0	43.3	30.7	49.7

## R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	2.7%	2.9%	1.4%	28.0%
200~	1.4%	1.1%	0.6%	6.3%
190~	1.4%	1.2%	0.9%	10.1%
180~	1.8%	1.7%	0.6%	8.7%
170~	2.9%	2.0%	3.3%	9.3%
160~	3.9%	2.5%	5.1%	8.1%
150~	4.9%	2.8%	6.7%	8.3%
140~	6.5%	4.2%	11.9%	6.6%
130~	7.8%	5.1%	9.4%	2.4%
120~	10.2%	7.3%	10.7%	3.8%
110~	9.8%	9.3%	13.9%	1.8%
100~	11.3%	11.0%	11.5%	1.9%
90~	10.6%	11.4%	8.8%	1.2%
80~	9.4%	11.7%	6.1%	0.2%
70~	7.7%	10.0%	3.8%	0.1%
60~	4.5%	7.2%	2.6%	0.0%
50~	2.1%	4.1%	1.0%	0.0%
40~	0.8%	2.5%	0.6%	0.0%
30~	0.2%	1.2%	0.4%	0.0%
20~	0.1%	0.5%	0.3%	0.0%
10~	0.0%	0.4%	0.2%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	3.1%

平均	117.3	106.4	121.7	172.8
標準偏差	37.5	40.3	33.2	43.5

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

# 2.6.2 中1 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

## CEFR-J

### R 1 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	5.5%	4.3%	0.0%	18.3%
A2.1	6.8%	4.0%	3.2%	13.5%
A1.3	17.9%	19.8%	16.6%	32.1%
A1.2	46.2%	39.0%	62.4%	16.7%
A1.1	17.4%	21.0%	15.4%	7.2%
Pre-A1	6.2%	11.9%	2.4%	12.2%

### R 3 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	5.8%	6.7%	0.0%	19.0%
A2.1	7.3%	6.0%	3.7%	22.2%
A1.3	22.2%	21.3%	22.7%	35.4%
A1.2	47.9%	30.1%	56.9%	11.9%
A1.1	12.1%	19.1%	13.7%	5.9%
Pre-A1	4.7%	16.9%	3.1%	5.6%

### R 6 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	5.4%	6.9%	0.0%	28.0%
A2.1	8.6%	7.3%	3.6%	16.4%
A1.3	19.2%	25.8%	36.4%	41.1%
A1.2	42.0%	34.1%	44.9%	9.9%
A1.1	17.1%	17.3%	12.5%	1.4%
Pre-A1	7.8%	8.7%	2.7%	3.2%

## CEFR

### R 1 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	12.3%	8.3%	3.2%	31.8%
A1	81.5%	79.8%	94.4%	56.0%
Pre-A1	6.2%	11.9%	2.4%	12.2%

### R 3 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	13.1%	12.6%	3.7%	41.2%
A1	82.2%	70.5%	93.2%	53.2%
Pre-A1	4.7%	16.9%	3.1%	5.6%

### R 6 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	14.0%	14.2%	3.6%	44.4%
A1	78.3%	77.1%	93.7%	52.5%
Pre-A1	7.8%	8.7%	2.7%	3.2%

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

# 2.6.3 中2 技能別スコア 経年比較

## R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.0%	3.5%	0.4%	33.4%
200~	1.9%	1.1%	0.3%	2.1%
190~	2.2%	1.5%	0.5%	12.4%
180~	2.8%	2.0%	1.3%	9.0%
170~	4.2%	2.8%	0.5%	4.4%
160~	5.2%	3.4%	4.5%	4.5%
150~	6.6%	4.3%	4.0%	5.1%
140~	7.9%	5.4%	6.5%	2.7%
130~	8.7%	6.8%	7.2%	4.5%
120~	9.4%	7.9%	10.4%	3.8%
110~	9.2%	9.4%	12.8%	2.6%
100~	9.2%	9.3%	14.2%	1.2%
90~	8.5%	10.1%	11.0%	1.6%
80~	8.0%	9.7%	9.2%	1.8%
70~	6.3%	8.0%	6.6%	0.9%
60~	4.1%	6.0%	4.8%	1.9%
50~	1.8%	3.9%	2.6%	1.1%
40~	0.8%	2.6%	1.4%	1.3%
30~	0.2%	1.1%	0.6%	0.6%
20~	0.1%	0.6%	0.3%	0.5%
10~	0.1%	0.6%	0.6%	0.6%
0~	0.0%	0.0%	0.3%	4.0%

平均	124.0	111.9	109.3	163.9
標準偏差	39.5	42.5	33.3	57.5

## R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.4%	4.1%	0.5%	33.5%
200~	1.2%	2.1%	0.2%	10.9%
190~	2.0%	2.1%	0.6%	13.3%
180~	2.8%	2.6%	1.0%	4.3%
170~	3.3%	3.2%	1.3%	3.1%
160~	5.1%	4.0%	3.6%	4.0%
150~	6.9%	5.2%	5.0%	7.6%
140~	8.6%	5.9%	6.1%	6.1%
130~	10.2%	6.6%	8.8%	2.1%
120~	11.9%	7.3%	10.3%	1.2%
110~	11.0%	7.9%	15.8%	1.2%
100~	10.3%	8.2%	11.8%	2.8%
90~	8.1%	8.4%	9.9%	2.7%
80~	6.2%	7.8%	7.3%	0.5%
70~	3.9%	7.6%	6.1%	1.0%
60~	2.4%	6.0%	4.5%	0.6%
50~	1.3%	4.4%	3.4%	1.3%
40~	0.8%	2.9%	1.8%	0.0%
30~	0.2%	2.0%	0.8%	0.0%
20~	0.1%	0.9%	0.3%	0.0%
10~	0.1%	0.7%	0.3%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.5%	3.9%

平均	126.7	114.8	110.5	172.4
標準偏差	36.7	46.3	34.2	51.6

## R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.2%	4.5%	0.8%	38.7%
200~	1.7%	1.7%	0.4%	6.8%
190~	2.2%	2.7%	0.6%	10.0%
180~	2.6%	3.0%	0.9%	7.1%
170~	4.1%	3.9%	3.6%	7.6%
160~	5.5%	4.4%	6.4%	5.6%
150~	6.7%	5.5%	6.0%	5.8%
140~	7.8%	5.8%	12.0%	4.7%
130~	8.9%	6.3%	8.5%	2.0%
120~	9.2%	6.7%	9.7%	3.0%
110~	8.9%	7.7%	12.4%	1.2%
100~	8.5%	7.9%	10.7%	1.6%
90~	8.6%	9.3%	8.9%	1.1%
80~	7.5%	8.7%	6.3%	0.1%
70~	6.1%	7.3%	4.5%	0.0%
60~	4.7%	5.6%	3.0%	0.0%
50~	2.3%	3.9%	2.0%	0.0%
40~	0.9%	2.6%	1.2%	0.0%
30~	0.4%	1.2%	0.6%	0.0%
20~	0.1%	0.7%	0.5%	0.0%
10~	0.1%	0.5%	0.4%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.6%	4.6%

平均	123.5	118.0	118.5	176.6
標準偏差	40.1	45.9	35.9	48.9

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

# 2.6.4 中2 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

## CEFR-J

### R 1 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	7.1%	8.1%	0.0%	33.4%
A2.1	12.1%	10.5%	2.5%	14.6%
A1.3	23.1%	29.5%	22.7%	25.6%
A1.2	36.3%	29.1%	48.5%	12.1%
A1.1	14.3%	13.9%	20.5%	4.3%
Pre-A1	7.1%	8.9%	5.8%	9.9%

### R 3 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	6.7%	10.9%	0.0%	33.5%
A2.1	11.2%	12.4%	2.3%	24.2%
A1.3	25.8%	27.8%	24.8%	25.2%
A1.2	41.3%	24.4%	47.8%	7.1%
A1.1	10.1%	13.6%	18.0%	4.2%
Pre-A1	4.9%	10.9%	7.2%	5.8%

### R 6 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	7.2%	12.0%	0.0%	38.7%
A2.1	12.1%	13.9%	2.7%	16.8%
A1.3	23.4%	26.5%	36.6%	30.8%
A1.2	35.3%	25.9%	41.5%	7.8%
A1.1	13.5%	12.9%	13.9%	1.3%
Pre-A1	8.5%	8.8%	5.3%	4.6%

## CEFR

### R 1 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	19.2%	18.6%	2.5%	48.0%
A1	73.7%	72.5%	91.7%	42.1%
Pre-A1	7.1%	8.9%	5.8%	9.9%

### R 3 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	17.9%	23.3%	2.3%	57.7%
A1	77.2%	65.8%	90.5%	36.5%
Pre-A1	4.9%	10.9%	7.2%	5.8%

### R 6 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	19.3%	25.9%	2.7%	55.5%
A1	72.2%	65.3%	92.0%	39.9%
Pre-A1	8.5%	8.8%	5.3%	4.6%

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

# 2.6.5 中3 技能別スコア 経年比較

## R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	5.1%	3.8%	13.2%	3.0%
260~	1.9%	1.5%	15.7%	1.6%
250~	2.5%	1.7%	16.8%	4.0%
240~	3.2%	2.5%	10.4%	4.5%
230~	3.8%	2.8%	9.7%	18.1%
220~	4.4%	3.8%	7.2%	16.7%
210~	5.7%	4.6%	7.1%	9.3%
200~	6.9%	5.5%	4.8%	9.6%
190~	7.1%	6.4%	4.3%	5.4%
180~	7.9%	7.7%	3.2%	12.8%
170~	8.5%	8.3%	2.1%	4.1%
160~	7.9%	8.4%	1.8%	3.1%
150~	8.0%	9.2%	1.0%	2.0%
140~	7.3%	8.3%	0.8%	2.2%
130~	6.0%	7.7%	0.6%	0.9%
120~	4.8%	6.8%	0.5%	0.5%
110~	3.4%	5.0%	0.4%	0.4%
100~	2.5%	3.2%	0.1%	0.3%
90~	1.5%	1.6%	0.2%	0.1%
80~	0.9%	0.7%	0.0%	0.1%
70~	0.4%	0.3%	0.1%	0.2%
60~	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%
50~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%

平均	180.2	172.4	235.0	208.2
標準偏差	46.6	44.8	35.3	38.8

## R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	7.8%	4.5%	10.6%	0.3%
260~	2.2%	1.5%	7.8%	2.7%
250~	2.6%	2.1%	9.5%	1.9%
240~	3.0%	2.2%	10.7%	10.7%
230~	4.0%	2.9%	11.0%	14.2%
220~	4.4%	3.6%	11.1%	17.4%
210~	5.1%	4.4%	9.5%	6.6%
200~	6.1%	5.0%	7.5%	10.2%
190~	6.3%	6.0%	7.2%	16.9%
180~	7.0%	7.2%	5.5%	7.2%
170~	7.2%	7.8%	3.3%	1.9%
160~	7.1%	9.0%	2.2%	3.7%
150~	7.2%	8.7%	1.4%	1.7%
140~	6.9%	9.0%	1.0%	0.8%
130~	5.8%	8.2%	0.6%	0.4%
120~	4.7%	6.4%	0.4%	0.5%
110~	4.0%	4.8%	0.2%	0.2%
100~	3.0%	3.2%	0.1%	0.1%
90~	2.2%	1.6%	0.2%	0.1%
80~	1.5%	1.0%	0.1%	0.5%
70~	0.7%	0.3%	0.0%	0.1%
60~	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%
50~	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
40~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	1.7%

平均	180.0	172.2	225.0	207.6
標準偏差	52.0	46.1	35.0	39.9

## R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	9.3%	6.5%	7.9%	1.4%
260~	2.3%	2.2%	7.3%	1.7%
250~	3.1%	2.6%	13.3%	0.8%
240~	3.4%	3.2%	10.7%	13.8%
230~	4.2%	3.4%	13.0%	0.1%
220~	4.9%	4.2%	10.5%	17.9%
210~	5.2%	4.5%	10.5%	9.2%
200~	5.8%	5.8%	7.5%	9.8%
190~	6.7%	6.2%	5.9%	12.1%
180~	6.6%	6.9%	3.8%	9.3%
170~	7.2%	7.5%	2.9%	7.1%
160~	7.0%	7.6%	2.1%	5.0%
150~	7.3%	8.0%	2.2%	3.8%
140~	6.4%	7.7%	1.1%	2.0%
130~	5.4%	7.5%	0.3%	1.5%
120~	4.3%	6.0%	0.2%	0.9%
110~	3.6%	4.4%	0.4%	0.6%
100~	2.7%	3.1%	0.2%	0.5%
90~	2.0%	1.4%	0.0%	0.2%
80~	1.2%	0.8%	0.0%	0.0%
70~	0.7%	0.3%	0.0%	0.0%
60~	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
50~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	1.8%

平均	184.3	178.8	226.0	199.3
標準偏差	51.8	48.5	34.2	42.6

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

# 2.6.6 中3 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

## CEFR-J

### R 1 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	9.5%	7.0%	0.0%	4.5%
B1.1	11.4%	9.2%	28.8%	26.5%
A2.2	19.7%	24.2%	36.9%	26.1%
A2.1	24.2%	25.8%	26.5%	15.0%
A1.3	21.4%	27.7%	6.3%	24.3%
A1.2	12.1%	5.6%	1.1%	2.1%
A1.1	1.3%	0.4%	0.2%	0.4%
Pre-A1	0.5%	0.0%	0.2%	1.2%

### R 3 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	12.7%	8.2%	0.0%	3.1%
B1.1	11.4%	8.7%	18.3%	26.8%
A2.2	17.5%	22.6%	31.2%	24.0%
A2.1	21.3%	25.5%	40.8%	27.1%
A1.3	19.8%	28.4%	8.4%	15.3%
A1.2	13.8%	5.9%	1.0%	1.3%
A1.1	2.2%	0.5%	0.2%	0.7%
Pre-A1	1.2%	0.1%	0.1%	1.7%

### R 6 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	14.7%	11.2%	0.0%	3.2%
B1.1	12.5%	10.9%	15.2%	14.8%
A2.2	17.6%	23.5%	37.0%	27.2%
A2.1	20.9%	23.0%	38.2%	21.9%
A1.3	19.1%	25.6%	8.6%	27.2%
A1.2	12.6%	5.3%	0.8%	3.6%
A1.1	1.9%	0.5%	0.0%	0.3%
Pre-A1	0.7%	0.1%	0.2%	1.9%

## CEFR

### R 1 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	20.9%	16.2%	28.8%	31.0%
A2	43.9%	50.1%	63.4%	41.1%
A1	34.8%	33.7%	7.6%	26.7%
Pre-A1	0.5%	0.0%	0.2%	1.2%

### R 3 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	24.1%	16.9%	18.3%	29.9%
A2	38.8%	48.2%	72.0%	51.1%
A1	35.9%	34.8%	9.5%	17.3%
Pre-A1	1.2%	0.1%	0.1%	1.7%

### R 6 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	27.1%	22.1%	15.2%	18.0%
A2	38.5%	46.5%	75.2%	49.1%
A1	33.7%	31.3%	9.3%	31.1%
Pre-A1	0.7%	0.1%	0.2%	1.9%

※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・中2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

# 3. 參考資料

